建築ト社會



第三輯
第十一號

大正九年十一月一日
日本建築協會

日本建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ學實ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ日本建築協會ト稱ス

第三條　本會ノ事務所ヲ大阪市ニ置ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ入格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス

會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス

會員タラムト希望スル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ニ於テ議決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ贊成シ事業ヲ援助スル者ヲ賛助員トス

賛助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一　名譽賛助員―地位又ハ學識アル名望家

二　終身賛助員―金百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別賛助員―建築ニ關聯スル特種ノ技術家又ハ事業家

四　普通賛助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

賛助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各賛助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽賛助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會ノ之ヲ推薦ス

終身賛助員タラムトスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

特別賛助員タラムトスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通賛助員タラムトスル者ハ會員ノ紹介ヲ以テ申込書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ會員ハ第十九條ニ關スル權利ヲ享有ス

會員ハ會内ニ於テ其言行ニ付會外ニ於テ責ニ任ゼザルコトヲ得

名譽賛助員ハ本會ノ優遇及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク

終身賛助員、特別賛助員及普通賛助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セムトスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムベシ

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第九條　本會ハ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラルル者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其權利ヲ停止シ若ハ之ニ脫會ヲ勸告シ又ハ例會ノ決議ヲ經テ之ヲ除名スルコトヲ得

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十條　脫會其他ノ事由ニ因リ會員タルノ資格ヲ失ヒタル者ハ既納會費ノ返還ヲ求メ又ハ其債務ヲ免カルルコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會頭　一名

二　副會頭　一名

三　理事長　一名

四　理事　六名

會頭ハ會務ヲ總監シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選舉ス但會頭、副會頭ノ名譽賛助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

役員ノ任期ハ貳ケ年トス

理事ノ改選ハ每年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主記　一名

二　主計　一名

三　編輯　三名

四　編輯補　若干名

五　書記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

編輯補ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

書記ハ理事長ノ、理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給トスルコトヲ得

第十五條　本會ハ例會ノ必要ト認ムル例會ノ決議ニ依リ各部ノ委員會ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選トス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ囑託委員トスルコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經タル當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條　本會ハ每月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會、談話會、討論會又ハ講演會ヲ催ス但理事會ハ必要ト認ムルトキハ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於テ緊急事項其他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ報告ス但緊急事項ニ付テハ此限ニ非ラス

第十八條　本會ハ春秋二季大會ヲ催ス

第十九條　本會ノ行フ事業左ノ如シ

一　建築ニ關スル諸般事項ノ調査研究

二　建築ニ關スル意見書ノ議決

三　建築ニ關スル會誌ノ發行

四　會誌ニ關スル附録ノ刊行

五　建築ニ關スル講演會ノ開催

六　建築ニ關スル研究會ノ開催

七　建築ニ關スル展覽會ノ公開

八　建築ニ關スル觀察

九　建築ニ關スル有志者ノ親睦會

十　其他建築ニ關スル有益ナル事項

十一　其他建築ニ關スル有益ナル事項ノ本會ニ提出ス

第二十條　會員ハ會費年額金拾八圓ヲ本會ニ納ムルモノトス

但例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス

一時ニ金百圓以上ヲ出ストキハ前項ノ會費ヲ免ス

會員タルノ承認ヲ得タル者ハ其ノ金五圓ヲ本會ニ納付スベシ

特別賛助員ハ特別賛助費年額金九圓ヲ、普通賛助員ハ普通賛助費年額金六圓本會ニ前納スベシ

但六期以内ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金賛助費其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

第二十二條　本會ノ財產ハ理事長之ヲ監理ス

本會ノ財產ハ理事會ニ報告ス

第二十三條　本會ノ會計ハ每年一月ニ始マリ十二月ニ終ル

本會ノ財產價權債務及每年ノ收支ハ理事會其決算書ヲ作リ翌年一月例會ニ於テ報告ス

第二十四條　本則ニ關スル細則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ定ム

第二十五條　本則ノ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

コルクタイル

最新の機械と製法を發明せる我社は品質優良
と價格低廉なる点に於て他社の追從を許さず

半額で提供す

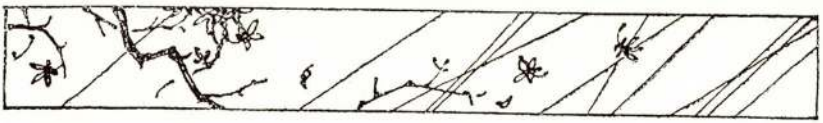
他社製品と同等品ならば

床敷用

■コルク、タイル　■リノ、タイル　■下敷用コルク板
■コルク疊床　■絶緣用コルク　■其他一般

製造所　大阪府東成郡城東村鴫野
コルク工業合資會社
電話鮫江三四

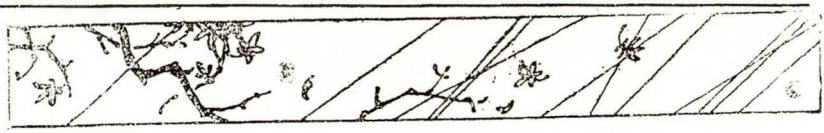
一手販賣所　大阪市南區心齋橋筋二丁目
株式會社高島屋吳服店裝飾部
電話南三八二三　裝飾部專用
自南三一　至南三五



『建築と社會』第參輯第拾壹號目次

口繪（芝川商店建築外觀（三色版）
同　内部（寫眞版）

〔卷頭〕
□都市交通機關と地代及住居の關係……文學士　上山善治……七
〔論說〕
□刹那的建築物燒失と國民性……會員・建築士　設樂貞雄……一
□小笠原君の『設計數量書の揭示に就て』を讀みて……内務省社會局長　池田宏……二〇
□大阪都市生活の矛盾と其建築行政……會員　工學士　横濱勉……二九
□都市計畫と墓地……日本建築協會終身贊助員　山本辰五郎……三二
□建築請負業者の被選擧權と保證制度改善問題
〔住宅〕
□居構百選（其十一）……會員　葛野建築事務所主　工學士　葛野壯一郎……三六
□新聞記者の見たる名士の邸宅(9)……讀賣新聞記者　梅谷孫吾……三九
〔庭園〕
□日本庭園考（八）……會員・農學士　大屋靈城……四五



〔都　市〕
□將來の市加古市(6)……ウオルター・ディ・ムウデイ著……Z Y 生譯……四九
〔談　叢〕
□米國から皈つて心付いた事ども……東洋綿花株式會社紐育支店主任鍋田末吉氏夫人……鍋田喜久子……五九
□料理と臺所——臺　所——……大阪割烹學校長夫人……的場英子……六二
〔資　料〕
□大阪市都市計畫參考資料(其八)……六四
〔紹　介〕
□芝川商店建築工事概要……六六
□大阪美術館新築設計圖案懸賞募集規程の發表
〔漫　錄〕
□太西洋を見るまで(二)……會員・工學士……波江悌夫……七三
〔藻　苑〕
□漫　畫
□小　品……□和　歌……□川　柳……□俳　文……□俳句
▲時　報
▲會　報
附　錄
□市街地建築物法施行令……八頁

大阪暖房商會
大阪電氣商會

營業課目

暖房。通風。乾燥。生衛。電氣暖房

負請計設事工

賣販作製トフリ及機降昇

賣販料材械機諸氣電
負請督監及計設事工氣電
賣販托委品所作製燈電阪大

社會式株燈電阪大
社會式株氣電川治宇
社會式株氣電本日名
社會式株氣電屋古名
} 工事代理

本店

堀戸江區西市阪大
七三目丁一通南
電話 四四五長 四四一 堀佐土

出張所

五町屋紺西區橋京市京東
六〇二三長橋京話電

目丁二町重本東區東市屋古名
二六二三長話電

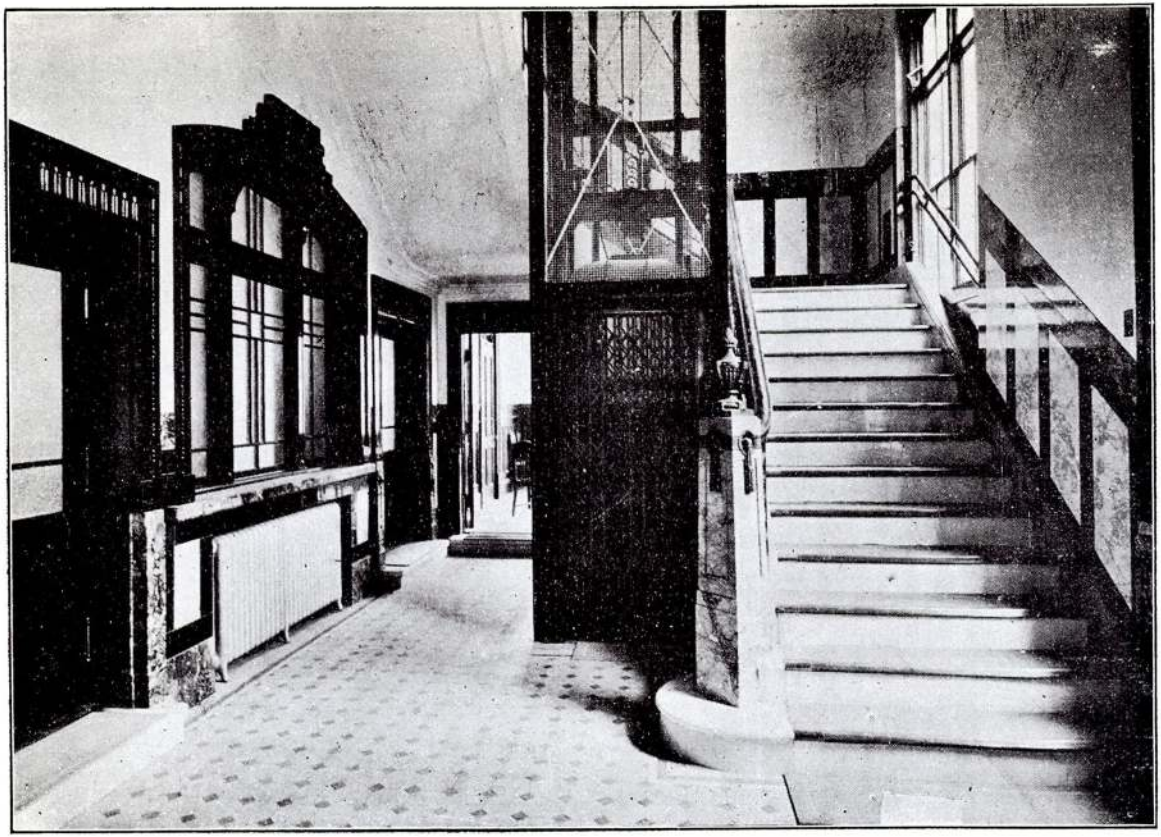




株式會社芝川商店　（設計及施工監督　宗建築事務所）



株式會社芝川商店事務室



株式會社芝川商內階段室

注意

本誌に大阪市立美術館設計懸賞募集規程あり

事務所設備費其他の寄附收納（第三回）

當協會新事務所設置に就て其設備費寄附續々御申込相受け候處其内既に御拂込被下候分左に掲載して篤く謝意相表し候と共に更めて領收の証と致候

大正九年十一月一日

（自大正九年十月一日至大正九年十月廿八日正午）

日本建築協會主計

中村　重壽殿	二、〇〇	清水　隼人殿	五、〇〇	瀬戸强三郎殿	一〇、〇〇
鈴木與五郎殿	五、〇〇	野々山政吉殿	五〇、〇〇	小林　悉殿	一〇、〇〇
大倉　直三殿	五、〇〇	野呂長四郎殿	一〇、〇〇	足立彌一郎殿	五、〇〇
萩原　貞殿	一〇、〇〇	小川安一郎殿	五、〇〇	新海　正綱殿	一〇、〇〇
小笠　原鋧殿	一〇、〇〇	福永佐和吉殿	一〇、〇〇	大原　忠隆殿	一〇、〇〇
久米　平藏殿	二、〇〇	植竹　春重殿	三、〇〇	赤松　重一殿	五、〇〇
中村　庸一殿	一〇、〇〇	岩田　丈一殿	一、〇〇	瀧山源三郎殿	三〇、〇〇
德政　金吾殿	一〇、〇〇	瀬戸　文吾殿	二〇、〇〇	田中豐太郎殿	五、〇〇

計　二四三、〇〇

累計　二千四百參拾壹圓

外に壹千圓（無條件寄附）及電話使用權一箇



都市交通機關と地代及び住居の關係

都市に於ける交通機關の發達が、都市住居問題の上に與ふる影響は著大なるものにして、之に依り新住所地域の拓かれ、家屋の供給は潤澤と成り、市街地に於ける地代增加の勢を緩和することの多大なるは否定すべからざる事實なり都市に於ける地代地價の自然增加の勢を緩和するの方法としては、交通機關の普及發達を圖るの外はある可らず。殊に市街電車の如きが、勞働者に對して特別の割引を爲し、又は通勤割引切符を發賣すること、及び速力を大にして交通を便宜愉快にする等のこと抔は、交通機關が斯の問題に對して有する效果を益々顯著ならしむるの助をなすもの也



〔論　說〕

刹那的建築物の燒失と國民性

日曜學校の世界的會合の第八回大會を我國の帝都に迎へ、將に其第一日の會に先つて、急造の大會場は幸乎不幸乎、失火燒失の慘事に遭遇した。失火の原因は漏電なりと傳へられ、都下諸新聞紙は擧つて其配電工事の不完全なりし事實を指摘し、或は當該技術家の無責任を鳴らし、又は我國民性の缺陷を曝露せるものなりと歎じた程である。場合が場合であり事實は事實として明瞭であるが爲に、當該建築工事に從事せる各技術家は當面の責任者として世上に批難を受くるのは止むを得ざる處であるに相違ない。

乍併、社會と建築との關係より觀ん乎、聊か世の識者に囑して一考を煩はすべき問題の伏在せるを見逃す事が出來ない樣である。殊に今回の災害が偶々世界的大會の會場なるが爲めに、國民性の缺陷を世界に曝露せるものなりとして一に技術家を責むるに急なる輿論の聲を聞いて、うたゝ痛哭に値するのも

のがある様である。

今回焼失の災厄に遇ひし會場は、帝都目貫の場所たる東京驛前、東京海上建物に相對せる敷地に建造せられたる木造三階建六百有餘坪の假設物であつて、工費十有五萬圓に要したとの事である。惟ふに、現時未だ完全なる市街地建築物法施行細則の實施せられて居ないが爲めに、かゝる危大なる木造建築物の建設を當局者に於て許可したに相違ないと同時に、東京市に於ける市民も亦敢わて其危險構造物たる事を默認して居たものと考へられる。

由來我國は急造の假設物を築造するに妙を得て居る。否得意として居る。地方を巡業する興行師が投機的の奇利を博せんとするの趣意と甚だ相似たる計畫に準據して、極めて一時的の危大なる建造物を帝都市の眞唯中に建設し、臆面もなく之を使用し又使用せしめ、當局者も市民も亦之れを危險視せず、御祭騒ぎ過ぎれば、其内容外觀の如何に關せず、之れを解体して以て事務を完結せりとするの擧年々歳々擧けて數ふべからざる程である。

按ずるに一時的成案に滿足して切那的施設を實行し、常に姑息、彌縫を事とするの方針は我國民性の先天的資質なるかの様である。遠大なる計劃を立てゝ、急がず慌てず悠々百年の後を期すべき成案を實行し經營するが如きは到底望み得べきでない様である。都市計畫事業の如きも其一例である。本會が卒先して警鐘を鳴らす迄は、世人は都市の諸問題に就き將來の方策なくして刹那的氣分によつて解決しつ

ゝあつたのである。況んや箇々の建築物が、永遠の計畫なくして一時的の工夫を惟れ事として來たのは決して怪むに足らないのである。

されば近代文明の快潮に棹さしつゝある我國朝野の人士が、都市と建築との關係に就いても何等の趣味あるなく、何等の智識あるなく、何等の成算あるなく、唯夫れ當面の問題にのみ沒頭し、大局の打算に迂にして、常に泥繩的失策のみを演じつゝあるは、むしろ滑稽的國民性の一面を曝露しつゝあるものと觀て差支へない樣である。

飜つて、世界日曜學校大會開催に就いて一考せん乎、此回の開會地を東京に選定したるは既に數年以前の事に屬し、當事者間にありては之れが準備に相當の苦心と經營を策しつゝありし事は明かであつた筈である、決して一時的座興でもなく、宗教的假面を蒙つて僞善的興行を畫策したものでもない筈である。然らば之れが準備として、其會場たるべき建築物並びに敷地に關しては、既に數年前より當事者の講究しつゝあつた處であつて、決して突嗟的の問題ではなかつたに相違ない。

然るに事實は如何、其重要なる大會場は一時的借用の敷地に選定せられ、其建築は一時的假設として急造の木造建築によつて急場の用途にのみ當てんとしたのである。これや遺憾なき貧弱なる國民性の曝露でなくてなんであらう。これや姑息なる刹那的氣分の發露でなくしてなんであらう。世の識者は須らく技術家の失策を責むるの眼を擧げて所謂有力なる當事者並びに後援者の愚策姑息策の失當を見逃して

はなるまいと思ふ。

蓋し、當事者の腦裡は、唯此世界的會合を一時的に手取早く經費のかゝらぬ樣に仕上げる方針にのみ沒頭して何等日曜學校の事業として、有意義に我國上下に知らしむる根本的劃策に想到しなかつたのではあるまいか。

曩に世界の大戰は聯合國側の大勝によつて平和の福音は宣傳せられ、正義人道の聲四海の耳朶を打つの時は、世は擧げて成金風の吹くに任せて居つたのであつた。好機は逸すべからざるものである、世界的日曜大會を我國の帝都に迎へるの準備に從事しつゝあつた當事者が、什うして斯の好機を捉へて資金の募集に從事しなかつたのであろうか。

東京には、悲しい哉一の公會堂もない、一の音樂會堂もない、一の大靑年會館もない、一の大敎會堂もない、言ふ迄もなく東京は帝都である、この帝都の然るべき地點に一大公會堂なり一大音樂堂なり一大靑年會館なり一大敎會堂なりを建設して、當該事業の宣傳の策源地とし、平時は之を開放して市民の便に供し、以て永遠に聖敎の紀念物として、世界的日曜大會の好箇な大會場を建設すべき資金を募集するの好機は再び來なかつたのではあるまいか。

燒失した木造建築丈の外觀と規模とを具有しては耐火耐震的大建築物を起すに足るべき工費約二百萬圓の醵金事業は、當時努力の如何によつては何でもなかつたであろう、要は當事者の努力如何にある。

目途明瞭にして美擧たるに恥ぢず、府亦多大の後援を惜むなくんば、國民も亦喜んで之れが應援をなし得たであろうに、好機一度逸しては汪策竟に何の爲す處もなかつたのである。

最後に一言を加へて置きたい事がある、それはいふ迄もなく、此の刹那的建設物が開會前に燒失した事である。そして原因が技術者の失策であつて、損害は金錢上の問題丈であつた事である。若し夫れ開會中斯る大慘事の突發に遭遇した場合を稽へて見んか、慄然として言葉も出なかつたであろう。若し夫れ失火の原因が、技術者の失策でなくして煙草其他の些々たる過失に因つて起れりとせば、世人は果して如何なる顏色を呈するであろうか。

今回大會參加の一外人は耳語して曰く『大會擧行中でなくてよかつた』、と眞に神の語である。予輩亦當日號外を手にして『燒けてくれてよかつた』と叫びしは衷心の叫びであつた。惟ふに該建築當事者も手を額にして『原因が明瞭であつた丈けよかつた』と喜んだに相違なかつたろうと思ふ。

世の識者を以て任ずるの士よ、願くば計畫をして遠大ならしめよ、願くば建築をして意義あるものたらしめよ、更に願くば都市をして永遠なるものたらしめよ。（終り）

市民生活の改造

文學士　上山善治

改造は現代社會問題の全部である。改造が現代に於てなくてはならない程、全社會は亂調子である。併しながら、如何なる紊亂の社會であつても眞の人心の要求の芽生えは、どうしても摘み取る事が出來ない、而して摘み取る事が何人にも許されて居らないのである。改造の叫びは紊亂の社會に於ける、生きんとする心の要求の表現である。

萬人は生きねばならぬ。如何にして生きるか、多くの表現相があるであらうが、窮極する處、物質より精神にか、權力から自由へか、人間の生命問題は、この兩者の中いづれかの根底を有するものである。

抑も〳〵、生命意識の原始時代、及び社會的意識の未だ不明瞭であつた時代にあつては、人は個人的境地に立て籠つて、生命進展の曙光を見出したものであるが、社會の進化による各人の世界は個人より社會へと進展せずには居らない。即ち人間が孤獨にして生存出來ざる以上は、其處に或る結合的世界を創造する事は當然である。この世界が今日の社會である。然らば社會は社會自身のために存在するのではなくて、個人のためにその存在の價値を有せねばならぬと同時に、個人のために社會は十分なる用意を有せねばならぬ。故に社會が個人を脅威し、個人が社會を紊亂する事は、存在せしめてはならないと同時に、社會と個人との目的を、永遠に高尚ならしむるために、個人が眞實に社會を考へ、社會が眞實に個人を考へ、人間生命の進展境地を創る事に努力せねばならぬ。

余輩はこの立場に於て、大阪市都市計畫の觀念に就いて、意見を述べて見ようと思ふ。

都市計畫は勿論都市の改造である。先づその外形に於て、都市の面目が一新する事は申す迄もな

い。大阪市の如き煤煙と黄塵との大都市に於ては都市が美しくなる、と云ふ事が、大大阪の面目であるに相違ないが、現在の大阪が大大阪に變形すると云ふ事が、果して都市計畫の面目であり眞意義であらふか。極言すれば、田舍乙女が都乙女になつたと云ふ外形的變化にしか過ない。田舍乙女が都乙女になつたとて、それが進化であるとは云ひ得ないと同樣に、現今の大阪が大大阪となると云ふ事が、何で進化であると云ひ得ようか。從來の文明は、徒に外形偏執に囚はれた色彩が多かつた。文明と云ふ事は、物質精神の兩方面の並行的進展である可きであるにも不拘、物質文明か精神文明かに偏墮した結果、世は物質文明が全部である如くなつた。從つて物質科學の世界となつて、未だそれに伴ふ精神科學の進展を見る事がない。若し大阪市にして後者の進展を促進する事なく、徒らに外形的進展を主とする處の都市計畫によつてのみ、大阪の盛裝を凝らさうとするならば、其處に大なる矛盾の生ずる事を脫る事が出來ない。

由來我大阪市は物質の都市である。而して、商工業の中心であるだけに、金力萬能の都市である物質萬能の世界に於ては、凡てのもの、權威と價値とを、金力によつて蹂躙してしまう、換言すれば金錢で凡てを換算して、その價値を判定するのである。金錢によつて凡ての價値を判定する、これは決して無理無道の事ではないが、人間生活を物質生活に限つて、或る狹壓の感を起さしむるものである。

歐洲戰亂以後最近過去に至るまで、我國は交戰國中になりながら、商工業に於て圖らざる利益を得た、而して、大阪市の如きは、殆んど流れが押し寄せたと云つてよい。こうした結果として、金力が市民生活の最大權力を有するに至つた事は、殊に甚しい事實であつたのであるが、一方大阪市民が、若し金錢の莫大な獲得をなすでなければ何處にも生活はあり得ない、と云ふ考へを固持するに至つたために、一方、精神的要素を有する生活を忘れてしまつた結果、呼吸の詰まる樣な物質生活の充溢に蠢動したのである。併しながらこれらの榮華は長く繼續するものでない。財界の大亂調

によつて、一般市民は不安の生活を送らねばならなくなつた。而して物質の壓迫から脫れて、其處に平靜なる天地を見出そうとする傾向が、仄かながらも見ゆる事は、人間の慾求中最も自然の事である。

大阪市の本來の面目は、商工業の旺盛にあるといふ理由から、如上最近の傾向の進展を萬一にも拒否するならば、大阪市には更に過去の如き黃金の充溢を與へられねばならない、換言すれば、何の顧慮なく何等の精神的世界なくとも生活し得る程の金錢が必要である。併し其は過去歐洲戰亂中に於てのみ許された事であつて、戰後各國が製產力を漸々に恢復し來るに及んで、先づ我國に於ける海外輸出品の製產額は、從來の半分に減ずる事は當然の事であつて、最早成金簇出時代の如く濡れ手に粟の大獲得は許されなくなる。金力で榮華を夢みた大阪市民は、市民生活を繼續するに就て今後の生活を考へねばならぬ。

以下各項に就て、考へを述べて見よう。

(一) 精神的要素の必要

形盛んなれば內必ず衰ふ。隨分古い言葉であるが、古今を通じてその眞理なるを何人も認むるであらふ。凡て文明の目的は物質的發展のみにあるのではなくて、物質と精神との融合世界を創出する事にある。然るに文明が偏執的生長をなして生ずる世界は、常に不足の憾みがある、それが精神に偏執しても物質に偏執しても、一体個體にせよ社會にせよ、物質と精神とが、相互協立の發達をなすべきに、偏執的發達をなす事は、決して健全なるものと云ふ事が出來ない。即ち大阪市が精神の發達を企圖する事なくては、單に商工業の都市として、何處までも健全なる發達を遂ぐる事が出來ないのみか、精神生活なき生活——物質萬能の生活——は滅亡する事は明白である。

余輩は現在の業務上から、可成りに多方面の人達に接する機會を有する、而して今此處に十分なる數字を擧ぐる程に材料の整理が出來ては居らないが、大阪市民は東京市民に比して、殆んど思想界を有たない市民である。有たないと云ふ事は、思想界に何等の理解も智識もないと云ふ事である

東京人は思想に幾分なりとも洗練されて居るが、大阪人は洗練されて居らない。所謂大阪人は思想に洗練されて居らないだけ、物質の生活が洗練されて居らない事も當然である。換言すれば思想の問題——精神の整理——を有する事によつて物質生活は相應に片付けられ内と共に向上があるのである。故に思想なくして、物質の充溢は決して喜ぶ可き事ではない。個人はそれによつて苦み、而して、社會はそれによつて惱み、それによつて衰滅する。

一体に現代に於ては、眞の向上（精神的向上）を圖ると云ふよりも、物質の充溢を念とするは人間生存慾上、別に異とする事ではない。それはあまりに科學的智識が發達し、衣にせよ、食にせよ住にせよ、物質の充溢がなくてはならないからである。併しながら、それからの第一歩を忘れてはならない。若し平野から平野へ、森林から森林へと、水草を追ふて移り歩いた時代に於ては、人間は、死すれば馬や犬と同樣に、何等殘す處はなかつたのであるが、現今の如く、科學の世界に於ては、建築の如き、吾人の生活の大部分の要素が、日に日に仕上げられるや、それから更に一歩住む可き事を忘れて居る。多くの人達が、單に大きい美しい家と云ふ他に、そこに吾人の家庭の文化的生活を如何に發展せしむるに適當であるかを、その家に苦心する事が少ないと同樣に、物質の力による吾人の生活を、如何に内容あらしめ、如何に文化あらしむるかに、注意せねばならぬ。即ち我大阪市民は、商工業都市の眞の生活をなすべく思想界の展開に努力する事によつて、行き詰つた今日を解決せねばならぬ。

（二）藝術の普及を要す

吾人の生活に藝術が必要である事は勿論の事であり、亦強がち大阪のみに限つた事ではないが、あまりに内容が貧弱であり、目先きが單調である大阪市民生活には、最も必要の事である。何處に於てもそうであるが、その處の人々の文化程度及敎育程度を視るには、如何なる藝術的設備があるかを見る事が第一である。然らば何故に藝術はその地その社會人心に關係があるか。エマアソン

は云つた、『人世に建築が仕遂げられるや人間の主なる敵は防がれ、且つ人間は野獣の牙、霜、日射病、並に天候の如何に對しても、晏んじて居る事が出來、こゝに高尚な收獲を生じ始める。即ち發明と藝術とが生れ、邊地にある丸木小屋は、忽ちにしてピアノが入つて來るのは實に驚くべきである……」と。大阪市が、商工業の大都市として東洋のマンチェスタアと稱せらるゝ現況に於てあるが、丸木小屋にピアノが入つて來る現象が何處にもない。これは、要するに、大阪市民が、單なる物質生活を萬全と思ふ誤謬から、未だ燃ゆる如き藝術の必要を感じないのかも知れないが、それはあまりに物質に囚はれた悲慘であり、無味干燥である。

一体世の中に、政治、文學、商業、工業、その他一切の事柄は、決して互に反し互に損し、この人生及び社會をそれ〳〵に區分して、その目的を別個のものにすべきでない以上、それ〳〵のものは、人生の遂に一致すべき事を念願し、各々別箇の道から渾一境に進みつゝあるのである。換言すれば、必然的の理を、各々が最も適當なる區別により、妥當なる言語及行動によつて表現したにすぎない。然らば必然の理とは何か。何人も又如何なる社會も、達せずには居られない境地と、個人なり社會なりとの、思想上及本能上との根本的交通の作用、それ自身である。その根本的交通作用を、言語なり文字なり、音調なり色彩なり、行爲なりに表現されたそのものを藝術と云ふのであるから、如何なる個人にせよ社會にせよ、その藝術がなくてはならない。然るにその藝術が無いとか或ひは貧弱であるにも不拘、その必要を痛感する事のないのは、丸木小屋は出來たが、ピアノの必要を感じないと同樣であると共に、個人なり社會なりが必然の理を知らない、目先きのみの行きあたりと云はねばならない。これを要するに、大阪市民には藝術的氣分がない、無味干燥の生活があるのみである。併しながら、今や物質の壓迫から何等か其處に調和的境地を要求して居る以上、無味干燥の生活から、大阪市民生活を救ひ出す必要はある。最近大阪市内九ヶ所の貧境區域に於て、

合計六百餘の家庭に對し、娯樂の調査と共に、生活に娯樂を必要とするかせぬか、との問を發した時に必要とせざる者が僅か七家族であつた事によつて見るも、貧民階級なほ然り、上流富者社會などに於ては、尚更必要とする處であらふ、即ち大阪の貧富を通じて、藝術的氣分の增進を企圖せねばならぬ。

三　不良區域の驅逐

大阪市の現勢から見て、將來如何なる形勢を以て發展すべきか、これが一つの興味ある問題である。大阪市の形勢發展として、一は交通機關によると、一つは連續地形によるとの二つであると思ふ。前者にありては、寶塚及神戸方面との連絡である、幸に現今に於ては、鐵道と電車との便は、稍々完全に近き連絡振りを示して居るが、地形に於ては、最早これ以上の連絡は不可能であらふ、と云ふのは、淀川の橫斷があるからである。然るに後者に於ては、南に於てその間何等著しき防害のない事が、大阪の將來に大なる光明を與へて居るものである。而して、大阪、神戸、堺、この三市連絡に於て、吾人の推知する事は、最初大阪は神戸に向つて進んだが、現今に於ては種々の關係上、神戸から大阪、大阪から南へと關西文明は流れ行く事である。換言すれば、今後大阪の影響を益々多く受けて、大阪文化の一片体となる容姿を備へて居るものは堺市である。これに比すると東の方は殆んど問題にならないであらふ、浪華の海に沿ふて、大阪市が伸び行く事は、大阪の宿命とでも云ふ可きか、茲に於て、大阪市形の發展方向が、殊に南方に於て、一の不良地區を有する事は甚だ遺憾な事である。この不良地區は、最早これ以上に動く可き餘地を有しないのであらふ。即ち更に南方に天下茶屋或はその他の工業地が存在して居るために、殆んど今宮一帶の不良地區は固定の姿である。これを自然驅逐方法によるか、一定の地を定めて移轉せしむるか、いづれの方法によるとも、兎に角問題とせねばならぬ事である。これは、單に接屬町村に亘つての事柄であるが、市內に於ても整理すべき箇處は多いのである。とにかく、大阪市形整理上、その發展の如何を考へ、

不良地區の驅逐の方法を講せねばならぬ。それは市區改正に伴ふ移轉市民の便宜を圖る上に於ても緊要な事柄である。

(四)寺院及河川沿岸の整理

都市計畫が世間に喧傳された當時、寺院が廣大なる地域を專有する事は、極めて不合理なりとして、市外其の他へ移轉すべきの適當なる事を稱へられたが、そは吾人から見るならば、只だ眼前の數字的打算から出た考へに過ぎない。吾人は此處に、宗門當局及び寺院當事者の熟慮によつて、その利用法のある事を思ふのである。

東京及大阪兩都市社會の然らしむる處か、家屋建設に於て、大に其趣きを異にする處がある。東京に於ては長屋は殆んど下層社會に限られ、大阪に於ては、殆んど全部が長屋である。これは如何にも東京人々大阪人の氣質を示して居るものであつて、家屋等にも著しく表はれて居る。人口激增の關係もあり、地價等の關係もあるが、東京の家屋は一般に、如何にして住み心地をよくするかの苦心の蹟が見えて、家屋そのものにも、美しいと云ふより、品格を持たしめようとする苦心が見える。然るに大阪に於ては、如何にして數多くすべきかと云ふ苦心の結果が、長屋となり從つて品格もなく、只だ身を入るれば足ると云つた風の、極めて功利的な產物である。從つて家屋に必要なる備品等も、出來得る限り省略する傾向のある事はやがて一家屋から、市の形勢に及ぼすものであつて、市民の氣分を濕潤なからしむるものとなる。於茲、市形全体を改良するにあたつて注意すべき事は、小公園の建設である。何人であれ自然物によつて慰安を得る必要がある。殊に大阪市の如き都市にあつては猶更である。故に小公園の設備は勿論必要であるが、現在の市內の何處に見るも、その餘地のない今日、寺院の廣き境內を利用する事が最も適當である。故に寺院は現在地域に存在せしむるが、むしろ策の宜しきを得るものと云はねばならぬ。

更に河川の沿岸であるが、勿論市內貫流の凡ての河川には無理な事ではあるが、小公園設置區域又は比較的除去に容易なる地域に於ては、河川の

沿岸を一ストリートにする必要はないであらうか其處には最も簡單な、最も清淨なる遊園地が出來るのである。一面水の都である大阪の面目と美觀とを發揮する事が出來る。

以上四項に渉つての意見は、只だその概畧であるが、要するに、吾人は來る可き都市計畫によつて、單なる大大阪の出現を望むものでなくて、計畫の眞の目的が、新大阪の出現にあらねばならぬと思ふのである。この新大阪によつてこそ、商工業の眞面目は發揮され、物質の生活は思想生活のために光輝あるものとなる。百六十萬の市民は、次代に於て新らしき大阪を作るべく、各自の生活の改造と共に、市民生活の改造に猛進せねばならぬ。

都市計畫と新科學

現今獨逸の大都市は、其將來の進展發達を豫期してゐるから、何れの都市も、專門大家に考案させた處の都市計畫圖案を有つてゐる、隨つて都市計畫案の作製を職業とするものが續出した。又伯林大學、デユセルドルフ大學抔では特に此の科學の爲に一講座を設けてゐる。此の常識の專門家は、都市から都市へと遍歷して、郊外設計とか、或は都市中心設計とか、或は公的建設物の集中とか、或は公園乃至空地設計などに渉つて、地方當局を輔佐して居る。

小笠原君の『設計數量書の提示に就て』を讀みて

會員　建築士　設樂貞雄

○

私は本誌前號（第三輯第十號）に設計數量書の提示に就いてといふ小笠原君の御高說を拜讀して何時も乍ら同君の斯業に忠實なる事を痛切に感謝するのでありますと同時に、私も魯鈍を顧みず茲に一文を寄せて貴紙の餘白を拜借する事に致しましたが　或點に於て同君の御希望と添はぬ點があるかもしれませぬ。しかし夫れは御高說を攻擊する譯ではないので、私の希望を開陳する事と御諒察を願つて置きます。

斯の問題は同君の御說の如く、現在此の取扱ひが、人により場合により區々になつて居る樣であります。私の考では設計者が數量書を提出するには少くとも其內容に就いて全責任を負ふ覺悟がなければならぬと思ひます。內容の責任を帶びず唯參考迄に添付するとか或程度迄の責任を帶びるといふ何割引の責任負擔では、寧ろ提示せぬ方が宜しからうと思ひます。固より責任を有つて提示するなら是に越した事はありませんが、實際には又提示せぬからと申して支障を來すといふ程の事は認められません　大なる不都合がないとすれば私は提出不贊成者の一人であります。

○

此數量書と申すは吾々の設計に從事するに方つて作成する豫算明細書の事でありませう。則ち豫

算の基礎をなす數量の明細書であります。――私はこれを明細書と呼びなれて居りますが――此の明細書を作製して圖面及仕樣書と共に提出しても實際の上に於ては圖面と仕樣書は正當に役に立つけれども、此の豫算明細書がどれ丈け役に立つて居るかと申せば、私共の手を離れてから、請負入札迄の一週間位のものです、此間に於て豫算明細書の計上した標準價格ですから、依賴者も大事さうにするが、扨て開札して見ると大程の場合には最低價格則ち一番安札に落札する、豫算に一番近い札を決定する樣な事はまづ皆無といふて差支へないのですが、そんな風に落札者が決まると、此の豫算數量書は反古同樣になつて、筐底に葬られて仕舞ひます、幾日間心血を濺いで作り上げた書類は、實に慘憺たる最後を遂げるのであります。茲に至つて、如何にも徒勞であつた樣な、落膽さを感ずるのであります。出來得るならば、此の豫算明細書を簡單なものにして、勞力の徒費を防ぎ心血の經濟を圖つたらと思ふのであります。

○

然らば此豫算明細書なくして何を標準とすべきか、といふ疑問がありませうが、總じて依賴者は最初に建築の大体案を思ひ立つ時には、既に、幾萬圓と云ふ豫算が出來て居るのでありまして、其計畫書類を示して吾々に設計を依賴する場合と、又吾々設計者が大体の略豫算書を作成して依賴者に相談する場合との二つでありますが、孰れにしても大体の豫算書は設計にかゝる以前に出來て居なければならないのでありますし、此の豫算書に必適する設計が出來さへすれば別に明細な豫算書の必要はない譯であると考へるのでありますが、さて實際上には色々の事情もあつて、そうも行きませんから、設計圖の提出と同時に、此の略豫算書の内容を坪當りとか或は他の方法を以て簡潔なものにし、概算書として添付して置けば、夫れで立派に見當はつくのであります。

尤も此の概算書が設計圖に必適せるものであるや否やは、設計の巧拙に依つて別れる問題であつて、詳細な明細書を作つても矢張り疑問は疑問と

して何處迄も存ずるかもしれません。

○

又一方請負側の方面から考へて見ましたならば既に數多の經驗ある請負者は、圖面と仕樣書とさへあれば、數量を算出するのは、設計者よりも遙かに達者であつて、且つ誤謬も少ない筈であります、又實際さうであると聞いて居ります。夫故吾々は此の數量書に費すべき腦力を、全然圖面仕樣書に傾注して、一點の疑問なき程度にし神でない以上は出來得る限りを盡して——圖面仕樣書を作成して見せたならば、責任のない數量書を提出するよりは優れること萬々ではありますまいか。

又實際上數量書を設計書類に添付しておいても嚴格な用心深い請負者は、矢張り自分で整算せねと氣が濟まぬ人もあるといふ事であります。して見ると此の數量明細書の提示といふ事は、大いに研究を要する次第であると思います。

○

此の數量明細書の計算は、吾々設計者は却々の骨折と手數を要し、設計の何割かの勞力を費します、而して愈出來上つたものは開札迄の短い運命に過ぎないのですから甚だ引合はぬ事になります若し、小笠原君の御說の如くに此數量書を提示するとして、しかも其內に違算でもあつたら、後日の文句の種となるので設計料の割引してもよいから、私は御免を蒙りたいと思ふ程であります。小笠原君の御說の通り、若し數量に不足でもあつたら、後日に請負人の增減勘定の出來る樣にして置けばよい樣なものゝ、そんな事をしては、其邊の事情に暗い素人に對して、技術家の威信を損ふことゝなりはしませんか。

○

扨て此處迄書いてから考へて見るに、小笠原君の御說と私の說とは全然出發點が異つて居ります同君は數量書を役立てようといふ方針であり、私は初めから提示せぬといふ主義で役に立たぬものに骨を折るのが嫌だといふのであります。チト變

に聞ねますかもしれませんが、前申す通り、責任の薄弱な數量書ならば、提示せぬがよい、提示せぬものは直打がないから作製する必要がないと云ふ事になるのであります、いはゞ出發點が異つても落付く先は同じ樣です。

小笠原君は數量書の中に假設運搬、諸雜費等の事を明瞭に記入して提示したいと云はれましたが假設物杯は圖面にも現はし得られますし、其他の事は請負者の方で責任を有つて貰ふことの出來る性質のもので、運搬諸費雜の末に至るまで、そう〳〵細かく世話を燒かしても自覺ある今日の請負者なら心配はなからうと思ひます。

○

小笠原君は工手間を數量書に明示したいと云はれましたが、同じ仕事を五人で仕上げるものもあり、十人掛つても巧く出來ない職工もあり、此方から極めて掛つても却々思ふ樣には參りませんから、矢張り出來得る限り仕樣書を細かに認め、見本を示す等の方法でやつたらどうでせうか、畢竟常識判斷に任すより方法はありません。私は夫等の事は契約書に添付する請負人よりの提出せる明細を調査して自分の思ふ樣に直させて居ります。

○

扱て以上申述べました要點を並記して見ますれば次の樣になります。

設計者ハ圖面、仕樣書、概算書ヲ作製スルニ勉メ、數量計算ハ請負者ノ負擔トシ、契約ト同時ニ內譯明細書ヲ提出セシメ、監督者ハ其明細書ヲ調査シテ契約書ニ添付シ、後日模樣替等ノ場合ニ此明細書ノ單價ニヨッテ增減勘定ヲナシ得ル樣ニシテ置ケバ、何等差支ナキ事ト信ズルノデアリマス。

○

是から先は本問題ではありませんけれども、序だから聞いて載きます。此數量書の事に就いて豫々私はこんな事を考へて居るのです、それは誰ぞ數量計算の達者な人で『建築物數量計算事務所』

を開く人がないか知らんと思つて居るのです。此の専門家が出來れば設計者も賴むし請負者も依賴する、相當の仕事になるだらうと思ふのであります。乍併此專門家の作製した數量書に誤謬があつたら、夫こそ四方八方迷惑する事になるから此專門家は却々骨が折れます、併し茲が專門家の直打で何とか良い工夫があらうと思ふのであります。

或る數量書揭示論者の中に圖面は却々漏れなく作成する事が難事だから數量書を提示して後日監督の際其數量書に依つて、柱は幾本梁は何本持込むべしと命ずるが便利なりといふ人がありますが抑も設計なるものは圖面と仕樣とが本体で數量書がなければ監督が不便な樣な圖面では少々心細い話でなからうか、私は數量書に掛る手數の勞力を圖面や仕樣に傾注して、殊に圖面には仕樣の半分位は書き入れて、大体の事は仕樣を見ずとも圖面丈けで用の足りる位にして貰いたいのであります夫でも圖面に書く事の出來ない事柄丈けを仕樣に書く事と致したならば大いに宜敷からうと思ふのであります。

（終）

中古都市内部の文化作用

中古都市に於ける市民結合の原因は同業自衛の主義に在り。其結合に對する分化も、亦同業自衛の主義より發生せり。抑々中古都市の支配權を得たりしは企業主資本主の商業團體が先づこれを享受せるに在り。此團體にして總ての市民に加入を許せる場合に於ては固より專制政治を視るに至らざりしも、從來の結合員以外他人の加入を拒める如きは勢ひ寡人政治に變遷せる姿を呈せり。隨つて從來勞働者の團體は直接に參政の特權を有すること能はざりし也

大阪都市生活の矛盾と其建築行政

内務省社會局長　池田宏

一　經濟都市としての大阪と其矛盾せる都市生活

現在の都市生活を代表する言葉は徹頭徹尾矛盾であるといふ事、即ち私は斯の一言が最も克く日本の都市生活を言表してゐると思ふてゐる。事實開いて何地の都市を見ても矛盾だらけの多くの事項を指示し得る事によつて明かでせよう。

大阪は、電鐵施設の結果として、十間乃至十二間の道が出來てゐるが、さて其道に沿ふた建築物を見ると、これが日本一の經濟都市の面目なりや否やと、今更に驚かざるを得ないのである。勿論外觀に於て立派な物もあり高層な物もあり、稍完全的な物も無いではないが、それとても極めて少なく、殆んど指を屈して數ふる程だけしか無い次等で、大阪全市に渉つて、大阪は商工業中心地なりと誇つて恥しからぬを得る道は一つも無いのである。

經濟都市であるといふ以上は、何事も經濟的でなければならないが、大阪は既に土地使用の點に於て頗る不經濟で八間十間十二間といふやうな道はあるが、それは商業地として完全に土地の利用狀況をふさはしからしむる爲にこんな狀態になつてゐるといふ事は全く忘却してゐるやうである。

即ち土地を立体的に使用する爲めに、換言すれば宏大な建築を建てる爲めに道の廣い事が必要なので、其必要は各種商業機關として、卸賣も小賣も集合し一番商取引の盛大な處である譯であるから、從つて大きな建築も必要になり、其爲めにまた道の廣い事が必要である事は申す迄もない。

而かも斯る事を必要とするだけの商業中心地であるから、土價の價も一坪千圓乃至二千圓或は甚しきに到つては五千圓以上を唱へ、地價も非常に

高いのであるが、斯の意味に於て土地の經濟的機能を完ふする爲に出來上つてゐる立体的建築物は前にも申した通り殆んど數ふる程より無いのである。

二　築港計畫と其眞髓たるべき舩渠築造計畫

大阪は既に人口百五十萬を包容する世界的大都市であつて、世人はリバプールやマンチエスターなどに比較してゐるが、此兩市共六七十萬の人口に止り、大阪は實に倍以上の人口である。從つて人々は大阪を指稱して東洋に於けるマンチエスターだと云ふが、此比較は甚だ眞違つてゐる。大阪がマンチエスターたらんと欲し、リバプールたらんと欲したのは今から廿年も前の話で、今日に於ては正反對の現象となりマンチエスター、リバプール等東洋の大阪たらん事を望むべき筈なので逆現象を示してゐるのは如何した譯であらう。

經濟都市は宣しく經濟都市らしき考を各銘々に抱負して其根本に盡すのが、云ふ迄も無く斯かる市に住むべき市民の大なる責任であり、此責任を完からしむるやうにして行くのが即ち都市其ものの權利でもあり義務でもある。

又、築港が出來ても、それを以て大阪市將來の繁榮を致そうとする決心で、その計畫を貫徹した事は豫々寔に感服してゐる次第であり、あの計畫の大規模を以て完全に利用したならば、確かに世界第一にも成る事は決して夢想では無いのである。あの規模を持ち、豫て政府が第一に着手した淀川の改修工事及ひ淀川下流改修工事と相俟つて大阪市の商工都市としての運命を思ふが儘に開拓する事の出來るのは即ち築港の力なのである。

然るに此築港計畫の眞髓とも成るべき船渠築造計畫は如何にせしか、多年内務省より衝かれて漸く其船渠の工事を進行せしめやうとして手をつけたのは既に最早や數年前では無いか、其數年後の今日に於て果して加何なる狀態に在るか、私は何等進捗するものを見ないやうに思ふ。

苟くも市民が自覺し、件の工事を必要なりとして豫算を議決したに拘らず、縱へ戰時の財界影響が有つて物價騰貴の甚しきものありたるにもせよ

其事業の進捗を充分に圖るに於て遺憾なきを期しないといふ事は甚だ其意を得ざる事であるのだ。

一方折角に豫算を議決したにも拘らず其の思ふやうに進まないのを見ても尚ほ且つ默つてゐる市民の氣も知れないと云はねばなるまい。

三　臨港鐵道問題と築港背後地域の緊急問題

又此實行を生かすべき海陸連絡の設備として企てた臨港鐵道は如何成つたのであるか——後藤男爵に依つて其南線北線路問題も決定した譯であるのに、未だに其鐵道が如何なつたのか影も形も無いではないか。

又、築港に直接して展開する背後地域は如何になつたか。それは土地會社其他二三種の所有に係つて、大面積は大阪の舊市と殆んど相均しいやうなものである程の地積なのに、今尚ほ大阪名物の葦蘆の茂るが儘に成つてゐるでは無いか。此背後地は、どん〳〵工場などの敷地として、運河でも自由自在に開鑿し、此築港と直接に連絡し、或は淀川下流と連ね、これを築港に入る貨物の加工工場地或は倉庫の用地として利用するに任せられてゐる處なのに拘らず、現在の如く殆んど利用せらるゝ事が無いのは、如何にも經濟都市として甚しい矛盾ではないか。

素より安治川土地市岡土地などの有力な會社が今設計はしてゐるやうに聞いてゐるが、遲れ馳せ乍ら段々と斯る處に着眼し出したのは、流石に經濟都市の市民として甚だ結構な事で、念々經濟都市としての、立派なる成果を收むべき曙光を認め來つたものとして、私は衷心から其成功を祈つてゐる。

而も、恰も電鐵開通の結果として出來上つた舊市街地に於けるが如き經濟都市としての極端なる矛盾を、再び繰返す事の無いやうに今から心掛けて貰ひたいものである。

四　郊外土地狀況と新放水路神崎川間平野の問題

更に眼を轉じて大阪の郊外に於ける土地の發展狀況を見れば如何であるか——恰も適當なる農作地が、土地所有者の勝手放題に使用され、青い地

面が雜然たる黑瓦屋根で埋まつてゐる有樣で、何等將來の市街の發展を導くべき骨組も出來て無いではないか。

又、恰も客間にストーブを置き、臺所にピアノを置いた如き有樣で、工場と住宅といふ互に其機に於て、其影響する處に於て相容れざるものが、各其處を得ずして、徒らに雜然と並んでゐる有樣ではないか。

それが果して經濟都市の恥しからぬ面目であるや否や、又大市民の面目であるとする事が出來るかどうか。大都市生活の矛盾は、茲に於て極まれりと云はなければなるまいと思ふ。

淀川の新放水路と神崎川の間に介在し、神崎川を越て展開してゐる平野は如何であるか——其水利の便と云ひ、其一帶の平坦地と云ひ、其甚だ廣濶にして頗る鐵道の便利を有する事と云ひ、屈强の大工場地では無いか。然るに、此處もまた起業心熾にして機を見るに敏なる大阪市民として餘りに暢氣過ぎる位に放擲してゐるのは如何した譯であるか。

此地域にしても速かに工場地としての設計を樹て、築港と鐵道並びに大阪舊市との連絡を保ち、健全なる發展を促すやうにせねばならぬ。

此土地の利用を完全にして、大阪の新しき運命を開拓する爲めには、淀川放水路の如きは更に西に追ひ遣り、極めて丈夫にして完全なる普請を爲し、大阪をして永久に泰山の重きに於て、毫も水害等の心配なからしめる爲めの治水工事を施さねばならぬ。

而して此一帶の屈强なる工場地を、大阪の舊市と全く地續きにして其利用を充分に爲し、土地の性能を遺憾無く發揮せしむる低の抱負は、我國第一の經濟都市たる大阪市民には勿論有つて欲しいものである。

五　高速度鐵道と大阪市中心要部との重大關係

又、大阪市には商工業に極めて熱心で機敏な人達が中堅と成つてゐる爲めに、早くも都市の外緣的膨脹の趨勢に着眼し、或は京都方面、或は神戸或は堺方面に、幾本かの軌道なり、鐵道を開通し

て、此都市發達の趨勢に應せんとしたのみならず近頃は何れも高速度交通機關たるの使命をも兼ね有せしむるやうにして、大阪市の爲めに圖りつゝあるのは寔に目醒しき活動振りと云はねばならぬもので、如何にも之れ丈は流石に大阪の人の仕事であると見られるやうである。

然るに之等鐵道が、一度大阪市の中に入れば、その後は果して如何なるか僅かに未だに路線系統の充分で無い市電に依つて、市の中心商業地若くは工業地或は公館所在地其他市民の集合する處へ導かれて行くに止るのである。

一時間に廿五哩の速力で折角郊外を進んで來ても、さて市内へ入ると忽ち一時間僅に平均七哩半より出せない軌道に依つて、各その目的地へ向はしめらせられざるを得ないのは、これは明らかに非常なる鄕市の矛盾では無いか。

歐米の市で百萬から以上の人口を有する處では市内に高速度の交通機關を設けてゐない處が何處にあるか、苟しくも文明都市なる以上、人口既に六十萬の聲を聞けば高速廣機關の調査を爲し、其一部なりとも實行してゐねばならぬ。

高速度鐵道の最も發達してゐる紐育の如きも、其高速度鐵道の必要を感じて其調査に着手したのは人口僅に七十萬の時であつた。然るに大阪は如何であるか。市は社會事業其他に於て、夙に我國に於ては各都市に先鞭をつけ、其施設の點に於て其設備の上に於て、其仕事の成績に於て、我國の首都として政治都市たる東京を打負かせ、滿都の滿足を買ひ、且又天下の賞讃を博してゐるではないか。

斯る市が自から機關の調査を爲さずして、聞くが如くんば鐵道協會乃至土木學會に其調査を囑托してゐるといふ事であるが、寔に妙な對照ではないかと思ふ。

しかし、それはそれとして、鐵道協會や土木學會では、東京に於て大阪市の爲めに極めて周到なる調査を續けてゐるそうであるから、其中には具体案の決定を見るであらうと思ふが、要は其具体案を一日も早く速やかに其案通りに實行する事である。

六　都市の連絡を滑らかにする生命と民意

茲に前の具体案を實行する上に於て、今から考へて置かねばならぬ事がある。其事項は澤山あらうけれども、最も重要なるものは、都市の連絡を滑かにする交通機關たる生命を完ふせしむる點にあると思ふ。

これは頗る大切な事であつて、殊に市の中に乘入れる關係がある爲に稍ともすると妙な考に捉はれて、折角の交通機關の生命を絶つ事のあるを保し難いものであるが、此度交通機關の目的生命から考ふれば、例へば神戸の如き或は京都の如き或は堺の如き處から、市の境界線等で乘換などをせずして、一直線に市の中心地に引込んで行くといふ事である。

高速度機關の生命は、正に時間の問題であると思ふ、苟しくも分秒も時間を延はすやうな事は之を除かねばならぬ、一寸乘換をしても高速度だと三分や五分は直ちに費される、殊に次の車を待つ時間等を入れると、忽ちに五分や七分は影響するので、本來が斯る時間を惜むために高速度鐵道を採るのだから、其路線は途中で斷絶を許さゝるべきである。

故に此經營者が、市であらうとも、他の會社であらうとも、一路線系統は車輛の關係に於ては、全く乘換せずして、市の中心に入る事が絶對的に必要だ。現在に於て、市の郊外から來る軌道は、悉く市の中心要部に觸れて居らぬ爲めに、市民を非常なる迷惑に陷入らしめて居るといふ事は、敢て穿鑿する必要もあるまいが、斯る狀態に甘んじて居らねばならぬ事から考へると、或は此大切な高速度鐵道機關も、稍ともすると、そんな運命に逢ひはしまいかと云ふ事を痛切に恐れるのである私は此處に再び繰返して云ふが、高速度鐵道は郊外地より市の中心要部に一直線に入るからして、其間に乘換の不便を忍ばしめざるやうに考へねばならぬものである。

七　道路狹小陳情は要するに泣き事であらう

又更に市内の道路は如何——元來都市は云迄も

無く次第に膨脹し延長して行くべきものである。其交通の必要に應ずる道路の施設としては、正に蛸の如くにあらねばならぬのである。蛸は眞中が頭であり胴であるが、その胴に接する八本の蛸の脚は、胴から脚の先へと段々に細そくなつてゐるが、これが即ち都市の理想的な街路系統であらねばならぬ。

然るに大阪は此の自然の形に逆行して突飛極まる矛盾を爲して居る。昨年都市改正委員會に色々の議論もあつた末に、幸この矛盾の多い不自然な都市を幾何かでも自然に導くやうな街路の系統が定まつた事は非常に喜ぶべき事であつたのである

然るに何事ぞ、此頃は梅田より難波に到る間の廣路に對して、廣きに失すると云ふやうな事を云ひ出して、反對する者があるさうである。其他の處の廣さに對しても、我々は、狹きに失せずや將來の世界の經濟都市としては寧ろ大いに狹きに失するの嘲を受けるであらうと思つてゐるに拘らず一部に設計廣きに失するとの批評を耳にし、更に反對陳情を爲すの運動をも起し掛けてゐると聞くに到つては、何んとも其等の人々の心中を推察に苦み申條も無い。

思ふに、此反對陳情なるものは只々其設計道路に當るべき處に地面を有つて居る爲めに、或は家屋を持てゐる爲めに、幸か不幸か大阪全体の人々の爲めに犧牲にならねばならぬ人達の小さな泣き言であるまいかと思ふ、よもや市民全体の正しい聲ではあるまい、充分に經濟都市としての自覺したる市民の健全なる聲ではあるまいかと思ふ。

斯る公共事業の爲めに犧牲となる人には如何にも氣の毒の感はある。しかし乍ら　大阪市をして眞に經濟上の雄都たらしめんとするならば、誰か其處に多少の犧牲となる人が無くてはならぬ譯で若し何人も犧牲となる事をせなかつたならば、如何にして今日の狀態を救ふことが出來るであらうか。

法律は幸にして舊時の市區改正條令は改まり公共事業の爲めに必要なる土地を買收し並びに其上に在る家屋の移轉を爲さしむる爲めには、其土地乃至家屋の價格に對して完全なる補償をするので

決して無暗矢鱈に押しつぶして仕舞うやうな事はせぬ、若し其價に折合のつかぬ時には地方裁判所に於て時價相當の判斷をして貰つて請求仕拂の權利義務を生ずるといふ事迄に打碎けてゐるのである。

誰が考へても斯うした事でなければ不可ないと定つた公の設計に對しては、泣き言などを繰返さず潔く都市計畫の設計に依て出來る處の將來の市街地に面して、適當なる仕事をする場所なり住宅を造るに相當な場所を見出して、其方に移る事を決心して然るべきであるのだ。

斯の覺悟が無ければ到底都市計畫の如き事業は百年千年の後でも同じ今日の狀態で、この矛盾多き都市生活を繰返さねばならぬ、それが厭やならば自覺をせねばならぬではないか。

八　現金を續んで事業をやる必要はない

或は此事業が兎角に行惱まんとするのは財政問題が行詰つてゐるからだ、と云ふ事もあるか知れないが、それも、私としては、大阪として意外な話で、これも亦た大なる矛盾である。

成る程、財界は不況であるに相違無い、市民の中には破產者もあらふ、事業の失敗者もあらふ、其人達には如何にも同情を表するが、まだ〳〵一億や二億の金に困る大阪市民だとは考へられない殊に、此事業たる、將來に於て大阪市の繁榮を充たすもので、市の聲價に依つて大阪市民の富は、益々膨殖する譯なのだから、當然經濟的活動は、ます〳〵盛んとなる事を得るのは勿論で、商工業は熾盛となり、其事業の齎す處の公益は、實に金錢の見積り得ざる事と成るのである。

故に如何なる方法手段に依るも此仕事を遂げる事は困難ではないと思ふ。素より此事業を人間の贅澤の爲めに行らふとするならば、それは或は困難であるかも知れないが、大阪市立都の基、將來の幸福の礎であるのだ。

更にまた其幸福が後々子孫に傳へられるものであるからして、其事業の爲めに現在の市民のみが其費用を負擔せずとも、長く年々の稅を以て負擔せしめる事は、敢て不道理ではないではないか。

幸に經濟學者は我々に借金の理論を敎へて呉れてゐる、これは正に此場合に適用して宜しいものであつて、之迄の民間事業とて、一に此借金に依らざるは無いので、些かも現金を積んで仕事をしねばならぬ必要は無い。

此等の歷史的事項は經濟都市としてよく理解してゐる筈であるから、只其事業が今後の利益である事をさへ諒解すれば、後は最も大阪市民の得意の壇上であらねばならぬ。

然るにも拘らず、未だに事業の年度割も立たず其運びにもならぬと見えて、昏として其後の消息を詳らかにせざるが如きものゝあるのは、之れ大阪市民の大矛盾ではあるまいか。

九　都市計畫法乃至建築法と大阪市民の意思

其他擧げ來れば日々の都市生活に、矛盾せる事は數へ切れぬ程であるが、その矛盾を解決して呉れるのは、是れは主として都市計畫法乃至市街地建築物法の施行に俟たねばならぬ。

都市計畫法は既に實施され、建築物法もまた今月から實施される事であるから、これは實に幸なる事であつて、大阪市に於ける矛盾は一日も早く除くやうにせねばならぬ、而して此兩法律の施行をして、極めて速やかに其實を結ばしめらるゝ事を希望してゐる。

此兩法の施行に就ては都市の權利義務と、市民の精神といふものを活用するやうにせねば、到底も其成果を收める事は出來まいから、大阪市民諸君が其濟經都市の原動力たる事を自覺し、其責任を感じて、正しく進んで貰はねばならぬ、と云ふ事を衷心から希望して置く次第である。

——文責在記者——

余は余が事業を一箇の義務として之を爲し、利益の爲めに之を爲さず而して人若し正當に義務を果すときは、利益は常隨して離れざる也。

（フォーセット氏）

都市計畫と墓地

會員　工學士　橫濱　勉

何と云つたつて此世に生れ出でたるものは必ず一度は死なねばならぬ運命である。大正五年の統計に據ると全國に於て一日平均四千九百四十五人出生する一方には一日平均三千二百九十六人死亡しつゝあるのである。この死体を埋沒せる地積を一人平均二分の一坪と假定するならば一日平均千六百四十八坪即ち約五反五畝の土地は斯の目的の爲に占有せらるゝことゝなる。之れを一ケ年に積算すると六十萬坪以上即ち二百町歩となる。これを更らに大阪市に就て調べて見るのに大正六年の統計に據ると出生は一日平均九十二人であつて死亡は一日平均七十六人となつて、死体埋沒に要する地面は一日平均三十八坪といふことになる。即ち一ケ年には約二萬八千坪即ち十町歩近くも要することゝなる。

斯くの如き土地の集團は即ち墓地である。

○

埋葬には土葬と火葬との二種がある。今日專ら火葬が主となつて來たやうではあるが、土葬を絶對に禁止することは現今の我社會狀態に鑑みて到底行はれ難いことである。假りに行はれ得るとしても其時期の遠いこと恐らく然る可きであると思ふ。死骸を土葬することの衛生上考慮を要することは最早議論を俟たないことゝ思はれる。

都市は市民即ち人間の集團とするならば都市の衛生——都市の改造……都市計畫の上から墓地に對する研究をも必要と認めざるを得ない。

○

世界の人口の現在は大体に於て一定率を持し、

同時に一國の人口も一定率を保つと假定しても：實際は增加しつゝあるのではあるが……死亡者數は歲月とともに其數の累進的に增加するのである即ち誇張して云へば生存者に對する地積は或る程度までは定限的（コンスタント）であるが、死亡者に對する墓地は或意味に於て無限的（インフィニテイ）である。

都市人口の聚集の傾向は今後と雖ども或る程度までは避くべからざるものと思ふ。從つて都市の死亡者は累進增加を來たし爲めに墓地面積の漸次增大を要求せらるゝ樣になつて來る。

○

都市の現況は現存の市民の生活を安定せしむる爲めにすら不充分なる地積を有してる。爲めに之の造改とか、擴張とかを餘義なくせられつゝあるのである。

此秋に方つて無限的の性質ある墓地に關する研究を度外視することを容さないと思ふ。

勿論火葬は數に於て漸次增加し、土葬は減せられつゝあることは事實である。而も土葬絕對禁止令の行はるゝ未來は甚だしく近いものでないと信ずる。然らば予は今や實現せんとする都市計畫に際して墓地なる地域をも、商工業區、住宅區及公園地域などゝ同時に考慮せらるべき問題であると主張する。

歐米に於ける都市、殊に米國の都市に於て予の實見せるところに據れば、各其郊外に於て整然たる清爽なる、且つ廣大なる墓地地域を設定し、而も皆市營であることである。

○

人口稠密の市街地域内に墓地を存在せしむる事の衛生上其他の點から不利益である事は何人と雖も首肯するところであらう。この意義からして予は市街地に現存せる各寺院の墓地を郊外に移轉せしむ可きであると思ふ。而も一定地域を限定して是れを集團的に移轉せしむることである。

斷つて置くが、予は寺院其物を郊外に移轉せよとは云はぬ、彼等の地に於て尊重す可き歷史がある。唯是に所屬する墓地だけを移せば足るのである。而して斯くして得たる空地は貸地にするとか

借家を建てるとかする事を嚴禁することゝしたい

則ちこの空地を庭園とし、同時に寺院地域を開放したいのである。予は都市に存在する富家所有の庭園すらも適當の方法を以て開放するの雅量あらんことを其所有者に切望すると同時に、その然らんことを主張するものである。

要は市民の保健問題から視て、心身の慰治（レクレーション）の爲めに其必要を痛切に感ずるからである。

爾來我國の大都市に於ては歐米の都市に比較して公共開放地域（パブリックオープンスペース）の著しく僅少なるを痛切に感じつゝあるのである。

○

公共開放地域や火葬場などに就ても多少愚見はないでもないが、これは他日に讓ることゝし、茲に墓地なる問題は都市計畫に方つて輕視す可からざる要件の一つたることを述べ、敢て識者の高敎を請はんとするのである。（九、十、十九稿）

大都市發達の標本（二）

大都市の廣袤、國語の雜駁、人口の增加、自治費の昂上など、紐育の實例を列擧すると、大都市の面影は髣髴として窺ふことが出來るのである。紐育は世界中第二の大都市で、人口五百萬を數へる。獨太人はパレスタイン府に於けるよりも多く、獨逸人は漢堡、伯林の兩市を除けば、世界中最も多く、ボヘミヤ人はプラーグ府に於けるよりも多く、伊太利人は羅馬に於けるよりも多い。過去十年間に百五十萬の人口が增加して、今やボストン市民とカンサス市民と、桑港市民との總人口に匹敵してゐる。市長の聲望は、米國最初の大統領のそれよりも偉大であり、下僚の數は、ジヤーマン將軍がアトランタより進軍した時の軍隊に一勝る多數である。面積は三百二十平方哩、大道延長五千哩、下水溝延長二千哩、沿岸面は三百四十一哩に亘つてゐる、四分間毎に一人出產、七分間毎に一人の死亡者、十一分間毎に一組の結婚があるの割合になつてゐる。毎年の學校費が六千萬圓、消防費千六百五十萬圓、慈善事業費二千萬圓、公債十六億萬圓、千九百十二年の豫算總額三億萬圓である。

建築請負業者の被選擧權と保證制級改善問題

日本建築協會
終身賛助員　土木建築業　山本辰五郎

私は、我等同業者が昨春來、我等にも本然の權能を與へよ、社會奉仕的性質の事業を經營し而かも事業組織制度一新せる今日尙ほ且つ我等を物質的保證下に律せむとなすは現代の矛盾撞着である須らく彼の保證制度を改善せよと、聲の限を盡して叫びつゝ今日に迫び今や方に我等の眞摯熱誠を睹して斯の目的の貫徹に層一層力を致すべく茲に彼の擧證獲得、保證制度改善に就て聊か卑見を述べむとす。

＝時代的に覺醒せる請負者＝

人、動々ともすれば、請負業者の精神的敎養を唱へて其人格化に及ぶ、その如く現代の請負業者は過渡的遺風より脫し得ず、何等の自覺あるなく現世相を顧みるなく、偏に物質的生活に狂奔して精神生活を輕んじてゐやうか、そして精神的敎養の及ばざるため、非文明的法則に甘んじなければならないのであるか。

私は、それは世人及當局者の誤解も甚だしい即ち現代請負業者の實狀を知らざる者の皮相の觀察だと之を否定するのである。

現代の請負業者は、時代進化と共に、昔日の弊風より脫し　尠くとも文明的事業家の素質を敎養すべく努めてゐる。社會文化と俱に我等請負業者は其事業制度の上に其人格に其他總てに及んで自覺は新らしき文化向上に心してゐるのである。

更に、我等は我等の社會的生存上の價値を有意義ならしむべく努めつゝあるのである。この如く我等請負業者は事業の上に自己生存上に新生面を開拓せんとしつゝあるに、當局者は我等に其本然附與すべき被選擧權を附與するなく、我等の事業成工に就て依然として物質的に保證せしめんとするは何れが非文明的か。私は單なる時代思潮に基ゐて斯の言を爲すのでない、私は我等の實狀を憑へて有職者の考慮に俟ち度い。

＝事業性と我等の使命＝

凡て、人類の社會的存在の中で、人類生存上の意義に最も重大關係を有するものは、人類生存上の使命たる事業の發達である。事業を離れて人類の使命なき如く亦生存上の意義もない。人類の總ては事業達發を中心として解決されやう。世上何人か自己の事業發達に心せざるものありや。されど事業の發達には自ら事業發達に要すべき要素を遺憾なからしめなくてはならぬ。我等使命の充實に努力するも其事業發達に必要なる要素の缺ぐるに於ては其努力は努力相應の効績を收め得ないのである。現在の請負界がそれである。私はこの缺陷を甚だ遺憾とし亦我等同業者も此處に期するところあつて、我等事業家の得べき權能中今の時代に適合せない不合理的舊習を打破せよと叫ぶに至つたのである。これ我等が我等の使命を全ふし。

國家忠實の一員たらんとする自覺より現はれた至誠の聲なりと私は謂ふを憚らないである。

土木建築事業は社會民生に最も密接の關係を有し、綜合的文明の象徵者であり、指導者たる大なる責を有すべきは、先覺者諸士の指導によつて我等請負業者は克く此等の意義を理解してゐるのである。

斯くの如き現代請負業者は、其人格に於て其事業經營に於て、理解に於て、漸次自覺せる今日猶ほ且つ我等を恰かも特殊人類かの如き矛盾の下に律せんとする世人の誤解及當局者の無理解を私は悲み且つ憂ふのである。

＝保證制度改善は當然の要望＝

現在の請負事業制度には保證を要すべき何等の杞憂も缺陷も無いものと私は信ずる。世人が此社會的使命を有する事業制度を恰かも投機的事業かの如く誤り請負事業に或種の保證を爲さしむるは何故か。

今次の經濟界反動は何を物語つてゐるか、保證は却つて施主側に必要なることを示してゐるのではないか。最もこれは民間事業に屬することであるが、若し保證を必要とするに於ては双方保證を要すべく、平等の權利義務は飽くまでも平等でなくてはならぬ。施主なるが故に權利を重しとし請負者なるが故に義務を重しとなすは抑も根本義を誤つたものであらう。之れ、過度時代の遺物で現代文明と相容れざる缺陷である。私は双務契約を以て當然の要求だと信ずる。

飜つて、政府に屬する請負制度の如きは、矛盾の甚だしいものはあるまい。其改正すべき要點は既に昨春來より種々なる新聞及雜誌によりて發表されしため之を省略するとして吾人は前臨時議會政府案として提出された會計法の一部改正の内容を知ると同時に、未だ我等同業者の要望の主點の容られざるを遺憾とせしが、會計法一部改正に伴ふ會計規則の改正と共に幾分我等の要望は達せらるべきものと信じてゐた折しも、會計規則一部改正は終に通過を見なかつたが、今議會に提出すべきは勿論である。故に、私は此機會を逸せず我等同業者と共に其目的の貫徹に努力すべき覺悟を有してゐる。

＝被選擧權獲得の好機＝

政府は、來る第四十四議會劈頭第一、市町村改正案を提出せんとする由、これに就て當局者の聲明するところを聞けば、今回の改正案は單に時代趨勢のみに基ゐたのでなく、市町村の自治發達の根本的意義を有したものである。從來の級別制選擧を全廢し選擧權の擴張を圖るは當然であると云はれてゐる。

政府に於て既に此理解あるに於て未だ我等請負業者に被選擧權を與へざるは其意を解するに苦しむ、これ當局者が我等同業者の現狀を克く理解せ

ざる結果とも見るべければ、我等は此機會に於て緊褌一番、大に努力すべきを必要とし、其理解を得れば之が改正目的を達するやも知れじ、否、我等は目的の成るまで大に奔走すべきではないか。

＝奮起すべし同業者よ＝

機會は應に來つた。我等が叫びつゝある所謂三問題は同業者共通的の問題である。されば、全國同業者聯合會が設けられしにより各自此目的の貫徹に努力するの要なしとするが如き冷淡な態度を捨て、此際全國の同業者は奮起して、共に力を協せ聯合會の活動を聲援し、聯合會の活動を充分ならしむべく努力し、最も眞摯に意義ある活動の下に我等同業者の時代的進歩向上を示して、其目的を達する上に努力せんことを望むのである。

大都市發達の標本(一)

獨逸の都市は、米國の都市よりも一層迅速に發達した。獨逸にては三十三都市あつて、總人口千三百萬以上、獨逸全人口二割に當り、千萬人以上居住の市街地住民を總計すると、獨逸人口の四割九分に當つてゐる。獨逸都市は、千八百五十年より同七十年に至る間には、格別人口が增加しなかつたが、千八百七十年の調査に據れば、全人口の二割五分は五千人以上居住の市街地に居住して、當時人口十萬以上の都市は僅に九に過ぎなかつた。然るに千九百十年の獨逸國勢調査報告に據れば、人口五十萬以上の都市は七あつて、此外に三十萬以上の都市四を數へ、二十萬以上三十萬以下の都市は十二を數へ、猶此外に十萬乃至二十萬の都市二十四を數へてゐる。



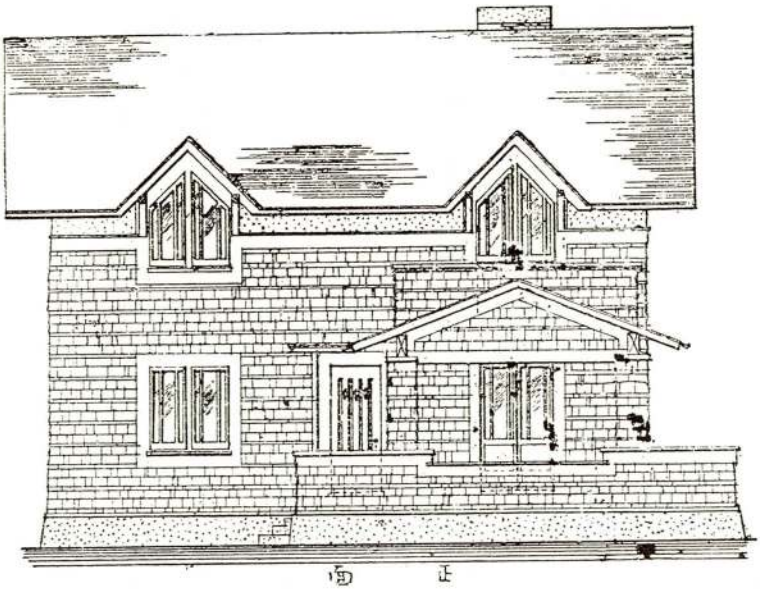
「住宅」居構百選（其十）

葛野建築事務所主
會員 工學士 建築士 葛野壯一郎

廿五　下見張コッテージ

米國

第廿七圖に示すものは郊外小住宅の一例で、總建坪十四坪五合、最簡單な間取で小家族に適するもので有ります。正面石段を登れば廣いポーチが有り出入口が二ケ所、一ッは居間一ッはホールに開いて居ります。居間即ちリヴイングルームの大きさは約十六疊敷、正面の壁に大きな暖爐が有つて其左右に椅子が取付けて有ります。食堂は約九疊敷一方臺所へ通ずる出入口の外居間との連絡は細長いホールをはさんで凡て開放式で有ります。いかにも廣々として屈託の無い配置であつてホールの左右には巾三尺高五尺位の書棚を四ケ所に於て仕切の代用をして居ります。臺所は約六疊敷で料理用ストーブ流し戸棚の類が都合よく配置せられ、地下室への階段脇には冷藏庫を置き裏口を設けて居ります。地下室は溫水用のファーネス及び洗濯用の水溜を置いて居る外、凡て物置となつて居ります。階上には大小三箇の寢室溫室便所の外に約三疊敷位の仕事部屋を設けて居ります（ピル



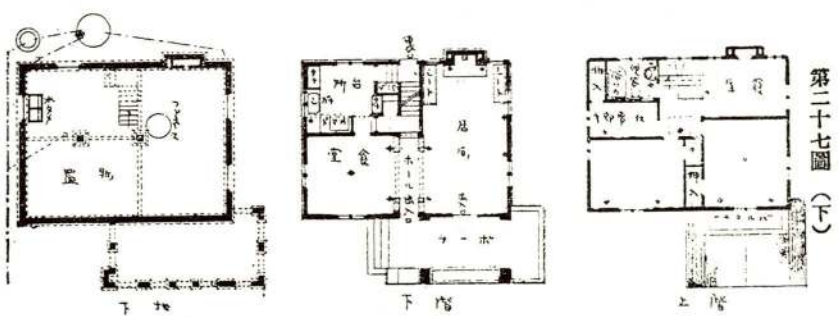
第二十七圖（上）

デング、エージ、シリース）

廿六　バンガロー風の二階家

米國

第二十八圖はバンガロー風の中二階建小住宅で建坪約三十一坪、比較的廣やかな平らな土地に適する設計で有ります。中央の石段を登れば間口一杯のポーチが有り居間を通ずる出入口が中央に開いて居ります。居間の大きさは約十八疊敷に相當し、一方に二階へ通ずる階段一方には大きな煖爐が有ります。食堂は約九疊敷、居間との連絡は開放式で片隅に臺所及寢室に通ずる口が有ります臺所は約七



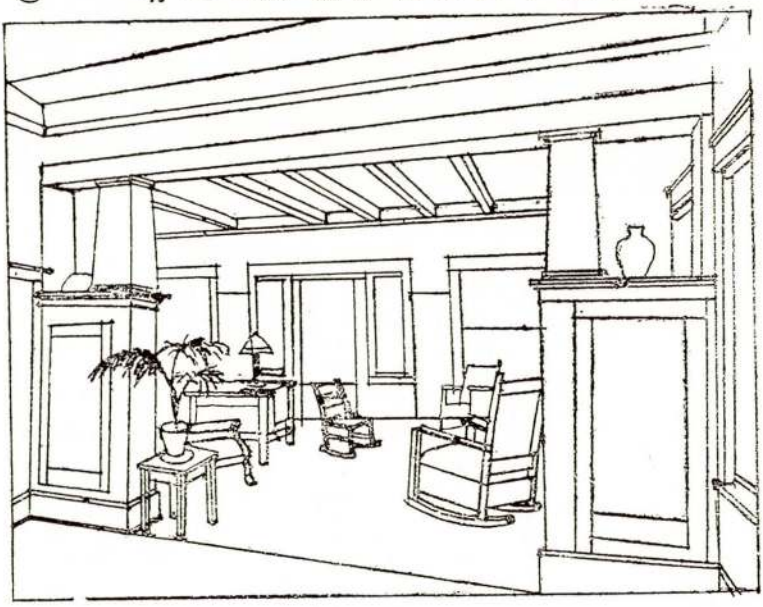
第二十七圖（下）

疊敷裏出

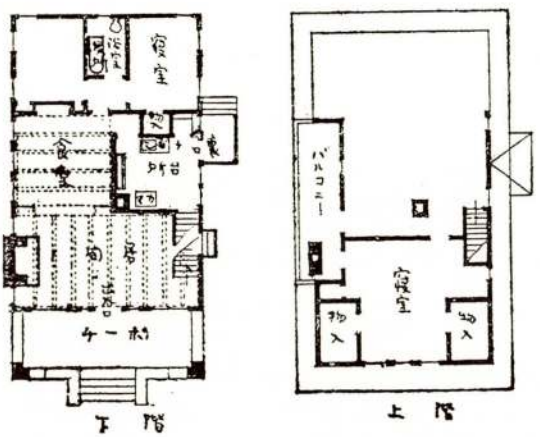
入口及び地下への階段を具へて居ります。寝室は階下に二箇及び階上に一箇大寝室を設け潤澤な物入と廣いバルコニーが具へられて有ります。

（前同）

（未完）



第二十八圖



✤ 新聞記者の見たる名士の邸宅 (九)

讀賣新聞記者　梅谷孫吾

═ 原公使私邸 ═

一　原公使は一寸人づきの惡るい風の變つた人だ

非職公使の原良太郎氏は大分長い事投り放しを喰つて鳴かず飛ばずでゐたが、遂う〳〵瑞典といふ妙な處へ押つけられて出て行つて仕舞つた。原氏は外交官としては頗る蠻襟(ばんから)でもあり頑固で、我々仲間には一寸受けの惡るい人であつた。

此人が戰後第一の獨逸大使として乘込むであらふといふ評判が立つて頻りに下馬評が聞ゑるものだから、私は所屬部長の命令で直接氏と面會して『あなたがお出でになるさうですが本當ですか、もう御内談位はあつたでせう』と、隨分新聞記者としては素人臭い質問を發したものだ。

ところが氏は所謂劍もほろゝゝといふ態度でてんで私などを相手にしないので、私も少々腹が立つたが、今度は問題を代へて『獨逸からは誰が來るだらふ』と、丁度正反對の質問を始めた。これにも矢張り殆んど要項を得させないで突跳ね突跳ねしたが兎に角結局は新聞へ『獨逸から誰が來るだらふか』位の記事を書けるだけの材料を得て仕舞つた。

それから數日後に、また外務省へ外の用事で行つてゐた時に、廊下でひよつこり氏と逢つたので一寸頭を下げると『どうだ室へ來て遊んで行かないか』といふ言葉だ、實に知らぬ顏でもするだらふと思つてゐたのに餘り意外だから、其時に用事が濟んでから氏の室へ寄つてたら至極打解けたもので色々な雜談を小一時間もして歸つた、其後度

々逢つて見ると、本當に面白い人なんだ、ぶつきら棒で頑固なだけに面白味のある人なんだ。

此人が突然瑞典公使に定まつたといふ事をふと聞き知つたので、電話をかけて『本當ですか』といふと『俺は知らないよ』といふ。どうも其調子が可笑しいので遂う〳〵出掛けて行つて話して見たが決つたといふ事は云はないが、それでも瑞典に就ての色々な話をしたり、今度は却つて外交中心地を離れて、あゝした土地で、待合の座敷のやうな外交上の魂膽が行はれるのではあるまいかといふやうな事を云つてゐた。何と云つても、もうちやんと『決つたよ』と顔に書いてあるので私は歸つて來て、この内定を簡單に報じて置いた事がある。

二　西洋臭く東洋臭くて垢抜けのしない應接室だつた

それから間もなく諾威公使を兼任で瑞典公使に決定といふ外務省の發表があつた。其夕方である私は役所では常にしかつめらしく納まつてゐる氏を其私邸に訪問した。獨逸大使と噂されてゐたのが瑞典公使では一寸お氣の毒の感はあつたが、兎に角新任の祝辭を述べたり、相當新聞種にもしなければならぬので寫眞班を引張つて電車で出掛けた。確か赤阪の葵橋で下りて左へ入つて行つて新坂町何番地であつたと思ふ。

役人の家といふよりは實業家の控邸といふ樣子の小さつぱりとした邸で、板塀が廻つて、その塀の右端九分の處が門になつてゐる。石段を二つ三つ上ると、また更に門から石道を傳つて行つて玄關に突當るが、左手は一帶の廣い庭で、色々な盆栽などが並べてあるのが見えてゐる。廻り椽の二階は南と東一帶で私の行つた時はもう二階の硝子戸を〆切つて靜かになつてゐた。

玄關の中はコンクリートの叩き、左手がすぐ梯子段で二階の十疊の客室へ通された。疊を敷いて杉柾目の腰の入つた障紙が立つた室で、眞中に高九卓を置き、周圍には美しい裝飾のある椅子が五六脚、主人公の椅子の後の床の間で、其處に伊藤博文公の得意の詩の軸が掛けられてある。天井の板から、壁の砂擦の具合立派な純日本室で、こう

見廻してから卓やら椅子を見ると、如何にも不調和な目觸りな、無理の多い室だと思つた。

原氏は私と向ひ合つてゐて頻りに背中に掛けてある伊藤公の軸を振返つては讀んで聞かせる、何んでも支那へ行つて歸つて來た時に船の上で詠んだ詩だとか云つて、國と國との問題を取極めるに何んで劍が要るか、外交でどうでもなるといふやうな意味の詩だつた。

南側の椽には藤椅子が二三脚出てゐて、これに腰掛けて貰つて寫眞をとつてから、今度は私を北へ續いた一室に連れて行つて、前にブラジルへ行つてゐた時に集めたといふ同國に住んでゐる總ての小鳥の種類を剝製にして大きな硝子の箱へ入れてあるのを見せたりした。此室も八疊の純日本室だが、隣りの應接との間の唐紙に沿ふて大きな箱付の卓が一脚あり、北側の壁には洋簞笥のやうなものが並べてあつたり何かして、此室へ來た時に一寸、高等二階住ひといふやうな感じがした。とにかく餘り室の配置は垢抜けがしてゐないが、只一寸目に立つのは煙草の灰落しだの珈琲茶椀の臺だのが、蠟石のやうな石器で、この石器がまた色々なものになつて頗る多數にあつた事である。

頑固だが面白い人、意地惡るだが正直さうな人一寸外交官といふ柄には當嵌らぬ人である。そしてその邸宅もまた丁度此の性質其儘に、ハイカラのやうでもあり蠻襟のやうでもあり、飽迄も東洋臭い處があつて、それでゐて西洋臭い處もあり、其調和が甚だ取れてゐないものであつた。

═大澤博士の閑邸═

一　布佐の街から大學へ通ふ　前は千賀湖背後は利根川

解剖學の權威大澤岳太郎博士は、東京のやゝこしい生活が忌だといふので、千葉縣の布佐といふ小さな町へ引越して此處に閑邸を營み大學の講義のある日には此町から出掛けて來てはまた其日の中に歸つて行く、成日鐵道の小つぼけな驛で、前の方には洋々たる千賀湖が見え、後の方には銀色をした利根川が流れてゐるといふ素破らしい處だ東京から三時間許りだが、布佐の驛へ下りると、

全く何萬里も都會を離れた田舍村へ來たやうな心地がする。子供は勿論若い女迄が素足の儘で籠を背負つたり大きな荷物を持つたりして歩るいてゐる。

私が傳士の閑邸を驚かしたのは丁度眞夏で土地では盆の仕度などをしてゐた頃だ、布佐の驛へ下りると十四五許りのだぶ〳〵の大きな小倉の服を着た所謂小驛員が、素足のまゝ改札口へ立つて、頻りに婆さんと話し乍ら、たつた一人降りた私の切符を受取つて、こくりと頭を下げた。見ると右の手は私の切符を受取つたが左の手には雜巾のやうなものと、洋燈のほやを持つてゐる。私は氣がついてすぐ改札口の上に釣つてあるふさと書いた青い紙を張つた洋燈を見ると、如何にも電球など無く、日が暮れるとともぼ〳〵と洋燈の點く驛の有樣が見ゐるやうだつた。

私の着いたのは彼此れ午後の四時頃で、終列車は六時五十分ですといふ、若し間に合はなかつたら此村へ泊つても良いが、さて原稿を送るべき電話があるだらふかと思ふて訊いて見ると、電報は八時迄、電話つてどんなもんですかといふやうな顏をしてゐる。

大變な處へ來たものだと驛の前へ飛出して車をきいて見ると、村にたつた一臺で、先生の處へは此田畝を眞直に行つて布佐の宿へ出たらまた左へ眞直に行つて、此度は右へ曲つてだら〳〵坂を眞直ぐに行つて——と却々道中長そうなので更にまた吃驚し、とにかくその一臺の車が、驛の前の駄菓子屋の横手に藏ひ込んであるのを幸、これに乘つて田畝道をゆられ出した、邪が非でも六時五十分迄に此驛へ戻つて來なくては私の仕事が無駄になつて仕舞ふ心配があるのだから大變だ。

二　高臺の閑邸に玄關だけが芝ぶきの屋根

青い麥の穗へ西日が光つて廣々とした田畝の態は實に良い氣持だ、この道が約五町、一本通りの詰り布佐の宿へ出た。床屋だの割合に大きな呉服屋だの肥料問屋の看板だの新聞賣捌店の看板だのが目に立つ。左へ折れ右へ折れ坂を登つて又、右といふ具合、綺麗に掃除した墓が澤山道傍にあつたり、葺屋根の土間の廣い家の眞中に何にか知れ

ないが、大きな釜が掛つてゐたりするのが如何にも田舎へ來たやうに思はせる。

坂を登りつめて左へ出ると茂り合つた生垣をした百姓家があつて、その隣りが博士の邸だといふから、私は此處で車を下りてぞん〳〵やつて行くと、如何にも右側に、此田舎には珍らしい八文字開きのしやれた歌舞伎門がある、門をぴつたりと切つて、その周圍には草が延びてゐるし、軟かい土に足跡一つないから、誰も出入をせぬ事は明らかなので、その門に沿ふた生垣から中を見ると、紅い花が澤山咲いて玄關も見ねば座敷も見ね、南に向つて一帶の椽側も明るやうに見ねてゐる。

この生垣をずん〳〵左へ行くと、其處に形許りの柴折戸があつて、この中にもまた一ばいコスモスか何にかの花が咲き亂れてゐる。私は戸を入つて此花の間から右手にある玄關へ立つた、この玄關が又頗る面白いものなのである。一体博士の閑邸は小高い丘のやうな處に出來てゐて、すぐ目の下に見ねる崖から彼方に利根川が流れ、流れを越ねた向ふはまた一帶に見渡す限り青々とした畑になつてゐる、その畑の向ふを成田線の鐵道が通つて、汽車の白い煙が青葉の間を縫うやうに走つて來る。

正面の玄關の左手が日本風の椽側で、家族の居間である事はすぐに解る。右手は純然たる西洋風の窓で、これが傳士の研究室とか書齋とかであらふといふ事もすぐ解る。その玄關といふのは、白木のあつさりとした造りで敷石を堅め、屋根は萩のやうな色をした小さな芝でふいてゐる。他のすべての屋根は瓦だが、この玄關だけを芝でふいたのは實に良い思ひつきで、寔に何んとも云へぬ風流な趣のある、それでゐて風流で御座いますといふやうな樣子の見ねない本當に結構なものなのである。

三　十八世紀頃が思ひ出される釣洋燈の趣味深さ

玄關を入ると矢張り石敷の庭で二間許りな廊下の突當りが應接室、右手は外から想像する通り研究室、左手が廊下傳へに家族室、そして廊下の板敷きは美しく拭き込んで鏡のやうに光つてゐる。

立派な洋風の馬具が一つ、甲迄並べた鎧が二組、槍なども玄關に飾つてあるのも、芝葺の屋根と共に此上もなく奥床しい。

應接室は、北に利根川を望んで窓があり、西側には大きな本箱だの洋簞笥といふやうなものがあり、東側の一部には矢張り箱のやうな卓があつて其上には寫眞だの大きな蠟燭の臺だの、洋書だのが置いてあり、中央に大きな卓があり、天井から硝子玉やら三角やら細長いものやらの澤山ギヤマンとでも云ふやうなものゝ下つた恐ろしく古臭いそして恐ろしく立派な大きな洋燈がぶら下つてゐる。東沿ひに研究室が見わてゐるが、こゝにも大きなニツケル色をした矢張り立派な洋燈が見えてゐるので、何んだか私はこう古い繪で見た十八世紀頃の田舍の何々公爵の家といふやうなものを思ひ出されてならなかつた、兎に角應接室の中は處狹き迄に何かしら置かれてあつて、それがまたすべて西洋の物らしいが、それでゐてバタ臭くない日本の骨董と共通の面白味のあるもの許りであるから嬉しい心地がした。

黒皮紐の鎧も良い、千段巻の鎗びついた槍も良い、この間にある純西洋風の馬具も良い、私は一日でも良いからこんな家に住んで見たいと思つたりした。庭が廣くて日が當つて花が咲いて、山が見わて川が眺められて——實に好い。

私は博士と會つて、忙がしい思ひをして再び布佐の驛に取つて返した。此度は客が私共で三人、線路を渡つて堀立小屋のやうな處へ腰掛わて汽車を待つた。もう終列車で日は暮れかけた、千賀湖からは折り〳〵涼しい風が送られて來る。

秋半ばなり

この年の秋もなかばを
過ぎぬるとおもふこ
ころに木槿詰び見ゆ

——（さびしき根本より）——



日本庭園考（八）

會員　農學士　大屋靈城

五　日本庭園と眞行草

此頃では餘りこれを耳にしなくなつたが明治の頃までは克く人が云つた言葉に「この庭は眞の庭だ」とか「行の庭だ」とか云ふ事がある。

即ち庭の作り方によつて眞行草と三つに區別した。この眞行草と云ふ區別は漢字のそれと同じ意味で最も構造が複雜で自然を摸する事の精密に出來上つた庭を眞の庭と云つた。從つて眞の庭は人が裃を着て座つて居る樣に威嚴があり莊重なものであつた。彼の禪宗の寺院等に設けられた山水庭の多くはこれに屬する。これに反して草の庭とは萬事が略式で洒落に而も優美に出來てゐるのを謂ふので先づ人に譬ふれば浴衣の着流しと云ふ体裁で極手輕に見ゐる。從つて料亭や宴會場等に多く造られた。この中間に位するものが行の庭で先づ當世の脊廣服と云ふ格である。

石の配置や樹の植込み方もこの區別によつて、

いち〳〵異らねばならぬと云ふので却々面倒なものであつて昔はこの區別が解らぬ人は庭と云ふものに對して論ずる資格がないものとされて居た。殊に　駝師とか植木屋と名のつくものは多くこれを金料玉條の如く考へて素人を困らせた。

眞の庭と行の庭と草の庭とはその組立方が各方面に亘つて多少づつ異つて居るが就中各石の數や配置の具合、名木の位置等が最も著しく異つた、今眞の庭にあるべき石及木の名を擧げて見れば

一　石

イ庭の正面にあるもの　守護石、蝸羅石
ロ瀧口にあるもの　瀧副石
ハ中島にあるもの　拜　石
ニ河すそにあるもの　請造石
ホ山にあるもの　月陰石、上坐石
ヘ水邊にあるもの　遊禦石、水盆石
　　扣　石、橋挾石

二　木

イ　正眞木　ロ　景養木　ハ　寂然木
ニ　瀧園木　ホ　夕陽木　ヘ　見越松
ト　流枝松　（以上築山庭道傳による）

等で石十一種木七種を擧げて居る。然るに草の庭に成ると大變減じて石六種木三種に成る。

即ち

一　石

イ守護石　ロ愛　石　ハ上坐石
ニ拜　石　ホ月陰石　ヘ橋挾石

イ正眞木　ロ寂然木　ハ夕陽木

等である。この區別標準を立てたのは何時の頃からの事であるかは明かに分からぬが相阿彌の作として傳へらるゝ築山山水傳や中院康平の山水秘傳抄抔と云ふ本の中にも既にこれの文字が記されて居るのを見ると室町時代に其の源を發して居ると察せられる。是が德川の末葉に成つて離島軒秋里と云ふ者に依りて完全なる一の法則として世に擴められたのである。（眞行草の區別を詳細に知らんとする人はこの秋里の築山庭造傳後篇を繙けばよく解かる）

然らば今日現存して居る日本の古い庭に明かにこの區別された手法が遺つて居るかと云ふと事實

はそうでない、どの庭を見ても、こんな法則を用ひて造つたように思はれるものは殆んどない。然らばこの法則は世人にどうして喧ましく傳へられたかと云ふと、素人が庭を作るのに何かよるところがなくて成らぬと云ふので或る閑人が考へて作り出したもので小學校で言へば「いろは」四七字の歌と云ふ格に當る。即ち其道に入る入門又は手引きである。この型を一通り覺えて置けば、庭らしきものを作り得るし、又やれ拜石はどうだ守護石はどこに据ゑるものだ抔と振りまはせば如何にも一かどの造庭家の樣に見えるので多くの人がこの法則を學ぶに苦心した。從つて築山庭造傳と云ふ本は羽根が生えて飛ぶように賣れた。これが今日日本式庭園に眞行草の區別や色々の六ケ敷法則を產み出したものである。今日は建築にも大分洋風が加味され從前とは其の樣式が大變に變つて來たので、これに附隨する庭園にも、こんな昔風の庭をあまり作らぬように成つた從つて造庭の方式を識らずとも庭が造れると云ふ事に成つた。

然らば昔の庭で有名な人の造つた庭には全くこんな區別を立て法式によつた庭はないかと云ふとそうではない、今日夢窓國師の作として遺つて居る處の京都嵯峨の天龍寺庭の如きは全くこの樣式に型取られて居る。尤もこの庭は後世幾度も改造した記錄があるから多分其の頃にこんな風にされたものであらう。又醍醐の三寶院の庭等も今猶眞の庭の御手本と成つて居る。

併し、これ等は稀に覩る例に過ぎないで一般から云へば世に喧傳された眞行草の法則は本邦の造庭界に重大な影響を及ぼさなかつた。庭相錄と云ふ書にも

古夢窓國師小堀遠州等は皆達人にして法をすて道力を以て一庭を好ひ給ふ然し大腹の旁々なれば不叶と云ふ事なし後世無力にして業不足彼を眞似と寫し終に其意何へか失ふ云々

とある如くに大家に成ればこの法則は腹の中にしまい込んで自分の工夫で庭を作つたものである。

從つて一方から云へばこんな法則が出來たと云ふ事は確かに我造庭界の進步をば表示するものであるが又他方から見れば法則が出來た爲に我日本

式庭園が全く一定の規矩に嵌まつてしまつた爲に進歩を妨ぐる基と成つたとも論ぜらるゝ。

併し幸にしてこの法則は前述の如くに一般素人間にのみ重用されて眞の造庭家の間には餘り注意されなかつた爲に我日本庭園は其の技術上に進歩を阻害される樣な事もなく竟に今日に及んだのである。

この眞行草抔云ふ法則を最も尊重したのは多く畵家、僧侶及び德川時代の植木屋であつて最も排斥したのは茶人である。茶人は脫俗した態度で庭を造つたので萬事を大自然本位とし特に人工的に見ゆるのを嫌つた。從つて茶庭と云ふものには一寸も眞行草と云ふ如き區別もなく又複雜な法則もない。只飛石とか役石とか云ふものゝ寸法を喧かましく云ふ癖があり又蹲口とか窓等の高さを一分一厘動かせぬものゝ如く云ふ風習がある。

然らば今日我々造庭に志す者はこの日本庭園の方式と云ふものを如何樣に考へて進むべきかと云ふ問題になるが僕の考へとしては勿論これに依る必要もなく又之を重要視する要もないが併し一通は其の內容を識り研究もして採るべきは取り捨つべきは捨てゝ出來るだけ活用する途を講じたいと思ふ。建築が一種の技術であると同時に藝術たる事も出來る樣に造庭も技術として扱はるゝ場合と藝術として立つ場合とがあるから或程度の規矩も時には必要である。

建築批評の標準

一　國民性と時代精神

二　眞——材料構造上の眞

三　善——實用上の目的に適當する事

四　美——三種の美



將來の『市加古市』(6)

ウオルター・デイ・ムウデイ著
Z Y 生譯

第四章　米國諸都市の成長、缺乏、危險（その三）

都市計劃の分野に於ける、先見欠亡の最も著しい例は、ルレン計劃を排斥した倫敦の物語の中に語られてゐる。一千六百六十六年不祥なる火災の後にサア・クリス　ファー・ルレンは倫敦再建の計劃を樹てた。市會は之れを採用したが、實行しなかつた。然るにホイスマン男爵が、殆ど二百年後に、彼の巴里都市計劃の基礎を、このルレン計劃に從つて樹てた。さうこうする中に倫敦は世界の大都市となつた。之の形態の發展は限られたる狹い範圍内へ、曲つた狹い街路が群がつて、むちやくちやな倒しまな發達を遂げてゐる。

巴里！。何故に之れを記述するのであるか。世界は今諒解して居る。ホイスアン計劃は巴里を、キリスト教國に於ける最も美しい、健康な便利な繁榮な都市としたことを。

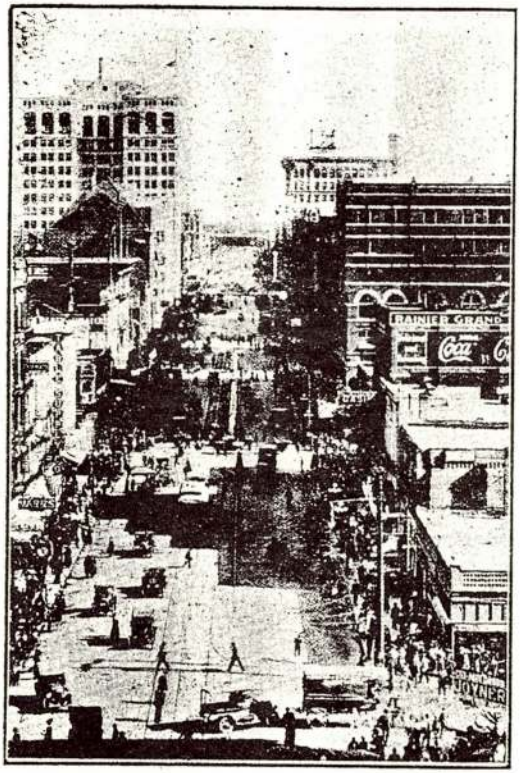
倫敦の先見の欠亡の結果は、全市の心臓である最も繁劇な商業上の動脈であるキングスウエイとアルドウイッチの兩市街――ハイボーン街とストラスド街とを聯落させる爲――を近頃切斷してしまつたことで明である。その入費總額三千萬弗である。倫敦では一箇の市街を一哩延長し、百呎だけ擴張するに、その費用は巴里全都市計畫に要する全額の十二割五分かゝることゝなつて居る。

千九百十七年二月初旬ワシントン政府は、新封鎖を決行するといふ獨逸の最後通牒に接した、これ商業家に對する彼の潛航艇戰再始の宣言である而してこのことが我米國海軍の不準備てふ驚く可き狀態が發見さるゝに到つた。議會に於て曝露せられたのである。世界大戰開始されてより最初の二年間に、最大なる危機が襲來して（それと同じ樣なそれよりも小さな危機は度々來たが）獨逸との外交的關係の斷絶の切迫が各方面より騷しく聞ねて居た。若しも獨逸にして、海戰地帶に於ける米國人の生命の安全に就て、新に聲明するでなくば、外交的關係は斷絶するであらうといふ大統領側の意見であつた。或有力なる新聞の意見では、遂に獨逸に對する最後通牒の時期が到來したといふ信念を發表してゐた。

與奮狀態の間に現はれた國會の報告には、過去四年間に認可せられた百十艘の建造艦船中、僅かに四隻が建造されたのみである。國會は六十七隻を大至急に忙ぐ可きを命じたに拘らず、左樣いふ狀態にあつた。前管理者の下に認可せられた八隻の潛航艇の如きも、未だ完成してゐない。政府は海軍々人數が、僅かに二萬四千人に過ぬこと、少しく前に新ドレットノート、アリゾナ號の艤裝された時には、その乘組員を造るために、差控へて居た數隻の建造を一時止めねばならなかつたこと軍艦噸數の五十パーセント以上が、乘組員欠亡のためにドックに繫留してあつたことを聲明して居る。又若しも一度合衆國にして戰端を開くならば海軍は、乘組員なくして又は訓練なき乘組員を乘せて戰場に行かねばならぬであらうとも聲明せられて居た。而も海軍省の當局者及び將校は『我等は既に戰場に赴くの用意あり』などと言つて居た

右の如きが合衆國が獨逸に戰宣を布告した時の狀態であつた。その後如何なることが生じたかは全世界に知られて居る。合衆國は常の如く大膽にして、赫々たる功業を成し遂げた。それに比す可きものが世界歷史にない。併し乍ら我國の不用意は最も嚴しく攻擊せらる可きものなるとは當然である。

戰前の陸海軍當局の不用意に對する責任が、多くの批評家によつて決定す可く努力せられてあつた。我國民の側度が言論の自由を與ふる樣になつて居るとは賢い仕方であるが、その權利保障の下には、建設的批評と破壞的批評との間の相違、正直なる批評と不正直なる批評との相違を學ぶに到つて居る凡ての批評はそれが利己的てふ箭筒からとり出した毒箭である限り不正直なものである。偏見先入主の弓から、狙を定むる時に、よし之れは害は尠いにしても、最も愚劣な批評とならざるを得ぬ。我國民的孤立と傳統的平和政策とは我等を感化して巨大なる陸海軍備の不必要を信ずる人民たらしめた我等はヨリ善く學んだが、併し又ヨリ速かに學び得ることが出來る。我米國民の歷史に於て、我等は平和時代に軍備の



スポーケェイネ市。近世式事務所建築物の櫛比せる第一流街路也現在地の驚く可き市の此の場所は一八九四年には小商業區域たるに過ぎりき

充實を喜び實行したことがあつたか、否かゝることはなかつた。我等をして凡て先見欠亡に對する批難を蒙る可き責任を擔ひ我等の欠点を認識する處がありたい。

不用意！それは實に大昔からの我國民の著名な性格であつた。それが世界戰となり、參戰するに至つて、我等の欠陷を敎ゐ示された。遂には恐怖す可き結果によつて、昏睡より醒めんとしてゐる假令大戰が、國家の防衛のみではなく、民衆の幸福に影響する『不用意』に袂別し改めさせる敎訓を與ふる以上に、何物をも齎らさないにしても、之れは何億弗と何千の貴重なる生命とを與へられたと等しい譯である。我等は、目的を達せしむるものは外交的威嚇でなく、忠實に與へられた目的に向けられ、力、勢力、財力、人力その他の物質であることを、悲しく併し賢こく學んだ。ただ斯るもののみが我軍隊をして、敵に對して勝利ある軍隊たらしめること、過去の無頓着、不注意怠慢は、我國民力、躰格と人格とを除々に併し確實に顚覆し了る寄生蟲である。若しも國民が國民一般の訓練と奉任とに對する合理的組織を直ちに採用するでなくば、大戰が敎ゆる大なる恐怖す可き敎訓を學ぶのみである。

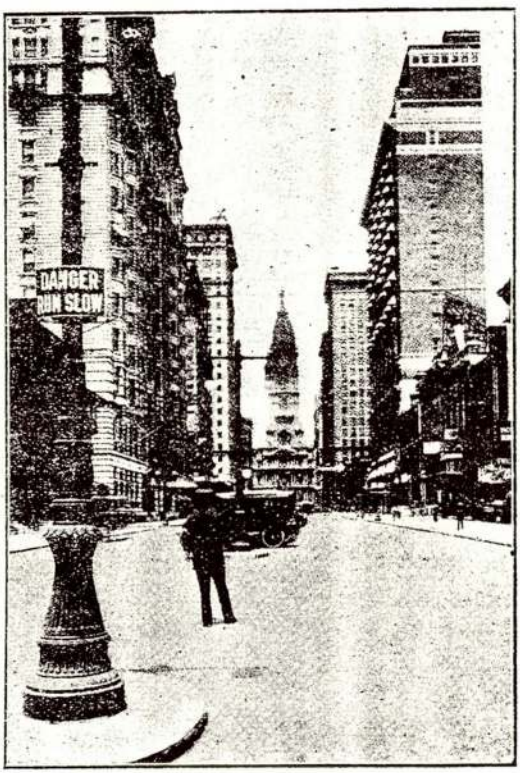
第五章　如何に都市計畫を始むべきか

都市計畫は、科學的の計畫、資本の出所、之れを振興するための組織、速かに我等の注意を要す可き二つの問題の必要なることは、一般に認識せられて居る。その問題とは、第一に以上の物を得るために如何に處置す可きか、第二にそれを得た後に望んで居る結果を如何にして得べきであるかてふことである。

大概な公共團躰は、更に引力ある市の生理上の發展に向ふ渴望に鼓吹さるゝも、それを進行させる最善の方法に關し、直ちに困惑してしまふ。出發点を誤ること屢々であり、望んだ完成は遂げられないで、他の結果が伴ひ、單に立派な報告と多くの論議と愚なる考よりせる略圖を得るに終つてしまふのである。智慧を伴ひ、確固たる努力あり

十分なる基礎ある實行計畫案は失敗するものではない。

稀に此國に於ては都市計畫事業が、市當局者によつて着手せられる。かかる場合には最高の成功を獲得することは難かしい。此に反しそれが眞に公共的精神ある市民の群か或は商業團躰、公民團躰の保護の下に創始せらるゝ時に、最善の成功を收むることが出來るのである。何故なればそのそも〳〵の手始に於て、專門的の助言、公共的感情を振起せしめ得べき目標に向ふ豫備的事業を導き得べき、適當の基金があるによつてである。特に市の管理を受けに右の第一の必要を行ふことは、十分なる效果を擧ぐることが先づ稀少である。これ政治家が新な未開拓の分野に進出する際團躰の批難を蒙ることを恐るゝがためである。第二の必要も、市の凡庸な勢力を借り得る特權を受けてなすも、十分に團躰の目的を成就することは出來ぬ。



フヰラデルフヰヤ市ローカスト街より南方大街路を望む、自一八九八年至一九一八年間の人口、一二一九、四六三人より一七〇九五一八人の市となれり。

右の如くであるが故に、都市計畫の問題が起つた後には、市民の寄附によるか、或は市の機關から特に使用を許さるゝ道によつて、先づ適當なる資金を確實に獲て置くの必要がある。資

金を握つたならば、その後に都市計畫の專門家の奉仕を求むべきである。如此熟慮なくして決して都市計畫に取かゝる可きでない。

專門的の都市計畫が一度發展したならば、次には公衆のそれに對する感情を造り、それが目的を達したならば、市當局者から該案の認識を求むべきである。決して計畫案を市當局に從はせただけで保護者の義務が終つたのではない、彼等の訴に伴ひ、機關に關する熟慮せられた案が市の布告に先だつて準備せられてある可きである。都市計畫案が市政の一部門として設けらるる時迄、計畫案事業の振興は適當に建設せられた半公共的團躰の力を仰ぐべきが當然である。如此機關が權威を附與せられ、市長によつて任命せられたならば、適當なる特權を市が與へ支ふるに至るであらう。

都市計畫團躰は、市が權限を添へ、認識した種々の團躰で、その名も樣々である。謂はば私に設けた團躰もあり、市會權によつて、市長が任命の下に創められたものもある。市權の下に任命せられた計畫團躰は恐らく計畫委員會と名く可きが最も善からう。而して該委員會の組織は、團躰としての市民を形造る可き、凡ての要素を聚むべきで即市長、その幕僚、市の各方面からの市參事會員も職權による部員たる可きであらう。議長、副議長、書記の執行的指揮の下に、全委員會は重なる商業家、各方面の職業家の代表者、勞働組合領袖新聞社主、各政黨領袖からして合成せらる可きであゝ。各派の敎會をも代表せしむべく 殊に合成的市民を形造るために、各國風を代表せしむべきであらう。如此委員會は絶對に非黨派的で、非政治的である可きだが、政治上の信念は、團躰の政治的生活に比例して認むべきである。殊に議長は一の政治的主義を持し、副議長は他の政治的主義を持す可きである。而してかゝる團躰は、自然各市の人口、大きさに比例して設く可きである。計畫委員會の事業はヨリ大なる團躰が親しく執行してゐる選擧によつて模範的となつて居る遂行委員の働きで明である。參謀指令部は、委員會によつて始められた設計を嚴重に進行せしむるために、其事業指揮者の管理の下にたてらる可きものであ

る。

計畫委員會の權力は助言するにあつて、遂行するのではないので、市當局者と民衆との間の仲介者たるべく。愚な都市發展に對し防禦者たる可きであらう。計畫委員會は第一に市によつて委ねられた立案を研究す可く努力す可きであらう。次にそれが正しく成就せしめらるゝために、計畫の特別の方面を推擧す可きであらう。本書に輪廓を示した市加古市計畫委員會の經驗は他の團體のために、價値ある何等かのものを含み得るものでありたい。尠くとも都市計畫的努力の手始め、採用組聯に就て記述した進行方法が正當なるものであると認められる、迄にありたいのである。

金は都市計畫の基礎である。金なくしては確實な結果を得るに難かしい。これ都市計畫を始むるに方つて、先づ第一に重要なる事である。金は根なるのみでなく——枝であり、葉であり花であり都市計劃の鼓吹力の果を收め得べき樹そのものである。米國に於て七事業が成功するためには主要なる三區分に分れねばならぬ。『第四次元』は、未來の可能性として、後に表示するを望む。

此假定より出發するを誤つた者は、眞に完成の道に沿ふて何處に行くことも出來ない。都市計畫の廣大なる大洋の岸邊は、誤れる理論の暗礁暗洲に觸れて破船せる委棄物をもつて連接してゐる有樣である。事實の港が容易に到達し得るものであるを思へば、これ實に愚劣たることゝ言はねばならぬ。實際的都市計畫者が、ユトピア的夢想者—理論の無限のサラゴッサ海に廣く無益なる精力を費す——に背く可き權利あるは此點である。

都市計畫の三區分は、第一財力第二專門家第三振興的といふ具合にもくろむべきである。

資金は計畫には欠く可からざるものである。計畫は振興事業に欠ぐ可らざるものである。振興的戰爭は輿論を起す前に敢行せねばならぬものである。輿論少くば當局者の力を出させることは難かしい。都市計畫を成功さるには、以上の諸段を論理的に順序正しくやつて行かねばならぬ。この順序を顚倒させることは災を招くことである。科學は自然法の如く變更し能はぬものである。恰かも

芝生刈の順序を變へて、背後に走り乍ら刈る樣なもので、車の後へ馬をつけて走らせるのと同じやり方の都市計畫である。各州の法律は該專門事業にのみ資金を使用せんとする市當局省を制肘する一般に法令は振興事業に費用を使ふことを許さない都市計畫事業は、その手始に於て凡て振興事業である。描寫の順序を變へて實物の他の角から摑んで行かねばならぬ。

米國の都市計畫では民衆といふことを最も重要視せねばならぬ。公衆の同意は理解あり又感動を與ふる、市の凡ての方面に等しい利益を及ぼすといふ觀念を伴ふ、敎育的運動を起して後にのみ之を得ることが出來る。理解ある計畫案をたてる前に專門家はこれに從事せねばならぬ而して後に我等は何の問題に逢着するか。曰く、金！である。

金は先づ初めに公共的精神ある市民の寄附に俟たねばならぬ。それ等の事實から離れて、都市計畫の最善の動力たる財政が、團體の市民の心中にあつて、市當局者の心中にあつてはならぬ。この眞理が實現せしめられないが故に、都市計畫の失敗が到る處に記錄せらるゝ樣になるのである。それには色々の理由はあるがさう深く考へて分解せすとも、金が失敗の根本になつて居るものであることは明である。

自然市當局者は法律では十分の使用を許す樣になつて居ても、都市計畫事業の手始に於て、十分に資金を使用することが出來ぬ。未だ試みない事業には寬大な後援者である。公衆の不評判を恐るゝの念は自然彼等を逡巡させ十分の働をすることが出來ぬ。この實例は人口五十萬の都市に於てなされたことで明かである。そこでは、計畫委員會が市當局者によつて始められた。此委員會は實際の計畫案を立てるべき專門家を雇ふに十分の特權なく、振興運動に關し何事をもなし得なかつた。未熟な計畫案が完了したが委員等は落膽して居た既に早くも資金を使用し盡して、之れ以上何事もする力がなかつた。何故なれば成功の第一歩に必要なる、民衆の後援を得ることが出來なかつたからである。

他の例は殆ど百萬の人口を有する市にあつた。

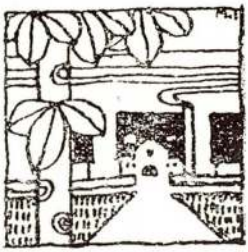
そこでは州の法律として、都市計畫事業の如何なる方面にも資本の流用を許されて居なかつた。然るに該運動の代辯者等は該計畫を進行させる爲に、州律法部の議決を得んと企てた。失敗は再び記錄さるゝに至つた。かゝる議決を得る前に、輿論を振起させる事をしなかつたが爲である。善意はあつても、誤り導かれた組織は、忽ち煙沒してしまつた。何故ならばそれは、逆に動いたからである。再び誤なきを證明する、都市計畫事業に於ける絕對必要にして、——最も貴重の物品は——好意ある輿論であると。

輿論を得るには金を要する。何故なれば之れは敎育が必要であるからである。都市計畫に於ける敎育事業は、最も高價なる宣傳である。輿論を得たのちに初めて正に都市計畫が始められたと言ふ可きである。計畫委員會は苦し正當に認められたならば、市當局者に對する助言者として終始すべきである。かゝる事業を維持するには金が要る。此時が恐く始めの豫言者が出てしまつて、特別なる財政上の準備が這入るべきとであらう。公共的精神の人が、都市計畫を創め、振興せしむるために資金を供給したる上、又其進步發展の爲に維持費を供給するは道理に合はぬことである。市によつてその事業が採用されたのち、計畫委員會に必要の凡ての資金を十分に市から利用せんと思ふは賢明な處置ではない。該事業を市政の一部門とするの觀念は、進步しつゝある如此配列の下に、自然十分なる資金が市の財源から供給し得るに至るであらう。此說を實行した先例はない。都市計畫部を市政の一部門とすることが、最非ありたきものであるかないかは、都市計畫のプログラムに於けるどの舞臺に於ても論ずべきであつて、必ずある可きものとは限らぬ。公衆の要求がないならばどの市にも之れを設くる事は出來ぬことは明であり、又、敎育的事業を起す迄は、公衆のかゝる要求を造ることは不可能である事も明である。その要求を造るには、そこに巧に描いた又力强く增進せる案がなくてはならぬ。だが更にそれをするためには根本に個人の財源に仰ぐ金と、又以上に述べた如く之れを使用することがなくてはならぬ。

計畫を樹て敎育的宣傳を試み、都市計畫の利益を市民に證明し得る何等かの形のものが實現せられたのち——該計畫案を論理的に更に發展せしむるために都市計畫局の設置に關する問題を初めて考へ得るに至るのである。この時には未だ之れの完成には長年月を要すると思はるゝ計畫案を公に採用することが、市民にとりて望ましいことであるが、實行し得べきことであるか、可能なことであるか、だうかといふ問題が朦朧として居る。

尙ほ更に進で基礎的計畫の各部を發達せしむるには、その市の內部の境遇に應じて基礎計畫の細目に亘つては變更するに至ることがあり、そのためには一層の敎育的な事業を要する。最初遊步街として完成せんとした街衢も、時の進展に從つて頻繁な業務街として扱ふを要するに到ることもある。例へば市加古の十二市街の如きである。計畫の變化は自然敎育的宣傳が必要となつてくる。斯ういふ場合には市の都市計畫局が、その宣傳を助けて容易ならしむるや否や甚だ疑はしい。さうして見れば都市計畫は市政と別に分れてあるべきものではないか。計畫案委員會は——振興部たる——民衆と市當局との間に介在し仲介者として、一方には公衆と他方には市當局者とゝもに、該案の進捗を圖る自由を保留して置く可きではないが。

都市計畫を市政の一部とするは、都市計畫に對する吊鐘であると言ふは餘に強い言ひ方であるかも知れぬ。市政から區別す可きものであるとする觀念を進めれば、或程度の伸縮自在性を有せざる規則は善き規則でないといふことになる。併し又市の生理的必要と制定的議決との便宜な境遇の下にあつては、以上の考を顚倒することが眞實であるのである。格別な場合もある小なる都會ではその市の生理的要求に關する智識は廣まつてゐることは承認する。そこでは普通の市民は彼の市が何を要求して居るかといふことを知つて居る。併し大なる都市では普通の市民が、運輸、公衆の健康等に關する市のヨリ大なる要求を摑むことが難かしい。故に之れを知らしむるが如き業は計畫委員會の如き市民の半官的機關によつて最もよく成就せられるのである。（つゞく）



〔談　叢〕

米國から歸つて心付いた事ども

——百貨店——臺　所——

東洋綿花株式會社紐育支店主任
鍋田末吉代夫人
鍋田喜久子

四年ばかり紐育とテキサスの兩地に暮しましたが久しぶりに日本に歸つて參りますと、以前はうつかりして心にもつかなかつた事が今更新しくも珍らしくも眼に寫ります。それと同樣に米國での生活も今ハッキリと回顧することが出來ます。大体に申しますと、私は、自分の生れた國を離れて、少しばかりでも旅行をして來たといふことが、狹い私の經驗や見聞を擴めることが出來、從つて僅ではあつても私の貧しい心に幾分かの糧を與へてくれました。私は之れを喜んでをります。

何と申しませうか、私等の生活を少しでもヨリよく改造もし、世界的の進歩にも遲れないやうに、とそれは殊更痛切に感じた事でございます。

▼米國に在る日本婦人

紐育には澤山の日本人もゐる

ことです、又日本婦人のみの會等も組織されてありました。丁度私が紐育からテキサスの方へ移つた後に出來ましたので、實際には接することが出來ませんでしたけれども、その後、お友達の親しい夫人からはそんな事に就いても時々通信を頂いてをりました。それに依りなすと、その婦人會は主に日本婦人同志の親睦を計るといふ事が主意のやうでして、別段に會の事業とか規則的に定めて講演を聽くとかいふやうな事はないやうに伺ひました。兎も角、彼地にゐる日本婦人達は、故國に居る時よりも、ずつと自由に快活に、割合に自分の生活といふものに對しても意義を認めて暮してゐるやうに思はれます。それは、やはり、彼地婦人の感化もありませうし、土地の氣風や生活にも同化する結果でせうと思ひますが、私は只今日本に歸りまして扱て、改めて自分の周圍を見ました時、殊に生活の方式に對しては隨分いろ〳〵の改良したい點、不滿足な點を澤山に見出します。それと、これから渡米しやうとする人、或は其他外國人の中に混らうとする方には、もつと〳〵自分の心の小さな障壁を除つてしまつて、無邪氣に大きな心持で接する心掛けを、第一の用意とするのがよからうと思ひます。大体に於いて、この後の婦人は、そんな點でも、ずつと素養のある方が多くなりましたし、新らしく渡米なさる方でも早く同化して、外國人との接觸にも理解のある樂しい交際も出來るやうになつたと思ひます。

▼便利な米國百貨店

まだ歸りまして早々ですし、何も深く觀たものもありませんが、私は只今自分の住宅を定めますのに、方々駈け廻つたりして忙しくしてをります必要上、買物等にも殆んど毎日のやうに出かけます。それに就いて私が一番に感じました事は本當に買物をするのに不便を感じた事でした。

例へば、三越あたりへ一寸出かけましても、隨分大きいには大きい店だと思ひましたが、實際的に「實用」の上から申しましたら、米國の百貨店が遙かに整つてゐると思ひました。建物にしも、三越の商品臺と臺との間或は其他にも無駄な空間がずつと多いやうに思ひました。一面には又、單に買物をする、といふだけでなくして「遊びに行く場所」といふやうになつてゐる積でせうとも思ひますが――

例へば、米國の百貨店では、その一つの店で、生活に必要な道具、形式は、其處だけで殆んど完全に揃ふやうに思ひます。無論上等品も下等品も整へられます。一番階上の室が着物類であれば、その階下が帽子や靴、その次が裝飾品、次が家具類や敷物、地下室が臺所用品で、野

菜や、肉、罐詰類――といふ風に整然と區別が立つて一度に總べてを揃へることが出來ます。

▼住宅街と買物街

又、街の規則立つてゐること も、紐育に活す者にとつては大層便利で、又生活の樣式等も簡單に出來るやうになりてゐますから、無駄な時間を空費するといふことも自然なくなるのであります。街の組織がちやんと、上街（アップタウン）（住む街）と下街（ダウンタウン）（買物街）とに別れてゐますし、其間に會社銀行等の事務所（オフィス）も固つてをりますから各々混雜して煩はされるといふことがありません

私は日本式の生活を、もつと〳〵便利にし、そして主婦の手がつまらない無駄な習慣から遁れて、そして私達自身のもつと大切な、人としての活き方をしなければ、いつまでも日本婦人は外國婦人に取り殘されたみじめな位置から脫することは出來ないと思ひます。それには、日常生活の形式を出來る丈け「簡單」にするといふ事が一番急務だらうと思ひます。

▼日本の家と臺所

何にしても日本式の家屋からもつと椽側といふものを少くしたいと思ひます。庭に面した客間等は、これはまあ、風致とか体裁とかいふ點からも除く事は出來なからうと思ひますが、廻り椽が多ければ、從つて拭掃除に人手を掛るし、雨戸も朝夕に開けたり閉めたりしなければならない、空間も無駄につぶれるといふ事になりますので出來るなら、段々西洋風の建築に變つて行くべきものだらうと思ひます

私が若し只今家を建てますならば、寢室と臺所だけは洋風に致したいものと思ひます。臺所には是非ストーブだけは使ふこと、暖爐（ストーブ）がある爲めにそれだけ臺所の用事を便利にするか、從つて女中の人數も必ずはぶけることと信じます。

若し、洋風の臺所にして上手に使ひますならば二坪ばかりの臺所で、結構八人位の料理は出來ると思ひます。働くには立つた儘ですし、現に私が彼地でして居りましたのから考へて多少工夫しましたら、例へば、片方の隔に暖爐（ストーブ）を置く、煮物は暖爐ですと、一度に六つ以上の鍋は懸かりますし、又湯も沸かせますそして棚を拵へてみづやにする、片方の隅に米箱を置く、調理臺を置く、その下を戸棚にする、又一方の邪魔にならぬ場所にエナメル製の洗濯桶を置きます。普通の時は、その上にマナ板を乘せて置くし、配膳棚の代用にも致します。その外に冷藏庫があればもういゝわけで、次の室を狹くとも、野菜、罐詰等の蓄へ場所に使へれば結構と思ひます。

料理と臺所

大阪割烹學校長夫人　的場英子

私は毎日生徒達と一緒にお料理の研究に費す時間が多うございます。それでつい、家庭の圓欒と云つても、生活の改善を結びつけても、社交にしても、すぐに料理の事をかつぎ出すことでありますが、やはり、一家の主婦となりますと、何を措いても一通りは料理の智識を缺いてはならないものだと思ひます。それに私達の生きる爲めにも、働く爲にも、一番に關係の深い「食」――料理といふ觀念が一般の人達にはそれ程にも考へられてゐない事を殘念に思ひます第一、私達の家を建てる、とすると、その何よりも大切でなければならぬ食事の調理場――臺所――が、外の座敷や居間に比べて、場所なり、取り扱ひなり構造なり、凡べての點に於いてどんなに虐待されてゐるでせうか。私の希望から申しますなら從來の習慣を轉仆して欲しいと思ひます。先づ何處よりも臺所を一番に優遇して欲しいと思ひます。臺所と云へば、申わけばかりに小さい暗い所にこつそりと拵へないで、もつと明るい處に、もつと小綺麗な場所に致したいと思ひます。大抵の家が、臺所の隣りに便所が續いてゐるといふやうな建築になつて居りますが、あれは大變にいやなものだと思ひます。

私はまだ、他家へ伺つても、本當に之で理想的だと思ふ臺所をまだ見た事がありませんので何とも比較して申し上げることも出來ませんけれども。臺所に立つたまゝにして働けるやうにすること、それには、全部床は板張りであることは勿論ですが私が過日知合ひの夫人から招かれて新築されたといふ臺所を見せてもらひました。それは、板張りの床を土間から四五寸位ひの高さにしたもので廣さは三坪

位のものでした。その中央に長方形の四尺に六尺程の大きな調理臺を一つ置いて、その上で料理も出來れば配膳も出來ます臺の下は全部抽出しや戸棚になつてゐて總べての道具は其處に片付く、又一方の壁側には戸棚を置いて、かまどと流しもとは土間に直接に置いてあります。それと反對の方角は入口を左右二つにして、片方のは主婦の室に通じ、片方のは廊下を傳つて各室が向ふについてをりました。それ等は割合に考へたものだと思ひました。

臺所の道具にしても追々新しく考案されたものも出來るやうですから、主婦は、新聞を見ても、道を歩いても、又金物屋の前に立つても、それ相應に注意をしてゐなければならないと思ひます。極く簡單なもので、ブリキで拵へた煮籠と、耳の無い代りに振り柄のついた鍋を大變に便利なものとして皆樣にすゝめてをります。

料理等も研究すればする程難しいものですけれども、或る程度以上は、料理人の頭腦、即ち應用にあるのでございます。よく、私の學校にいらつしやる令嬢方で、今度家庭で、實際に自分一人でやる、といふ時は、何から何まで、學校で習つた通りに無い材料まで揃へてきちようめんにしなければならないと思つていらつやるものですから、よく割烹學校の料理は高價くつく等のお小言も頂くわけです。はやり練習と應用が一番なのですが、又、大阪では、船場や、島の內邊りの大きな商賣屋は、使用人等の人數も多いところから、使用人の食事は皆、或は、御主人迄も辨當飯だといふ事を聞いてをります。無論、それ丈け、お茶代とかいふお金も別に惠まれるさうですが、それでは家庭としても働く人達にとつてもどんなにか無趣味な殺風景なものだらうと思はれます。そんな處から、若い番頭達の無駄使ひや、遊び等にも隨分引き込まれないとも限るまいかと思ひます。それ等も、もう少し、臺所をさせるものに、それだけの費用を掛けたら、皆が一樣に樂しく家庭の料理で食事もすることが出來るでせうに、と私は思はれてなりません。



〔紹介〕

∴株式會社芝川商店建築概要

位置　大阪市東區淡路町三丁目二十番地

建築樣式　近世復興式

敷地坪數　貳百九十六坪七合貳勺

建物坪數　本館百四拾七坪五合
附屬家四拾參坪七合二勺
總延坪七百九拾五坪七合七勺
內
本館七百參拾壹坪參合
附屬家六拾四坪四合七勺

階數　本館五階（地階ヲ含ム）附屬家二階

構造　本館カーン式鐵筋コンクリート造
附屬家木造壹部煉瓦造

軒高　本館正面昇降口前面道路地盤ヨリ軒「パラペット」上端迄六十六尺壹寸
附屬家前面道路地盤ヨリ軒蛇腹上端迄貳拾六尺

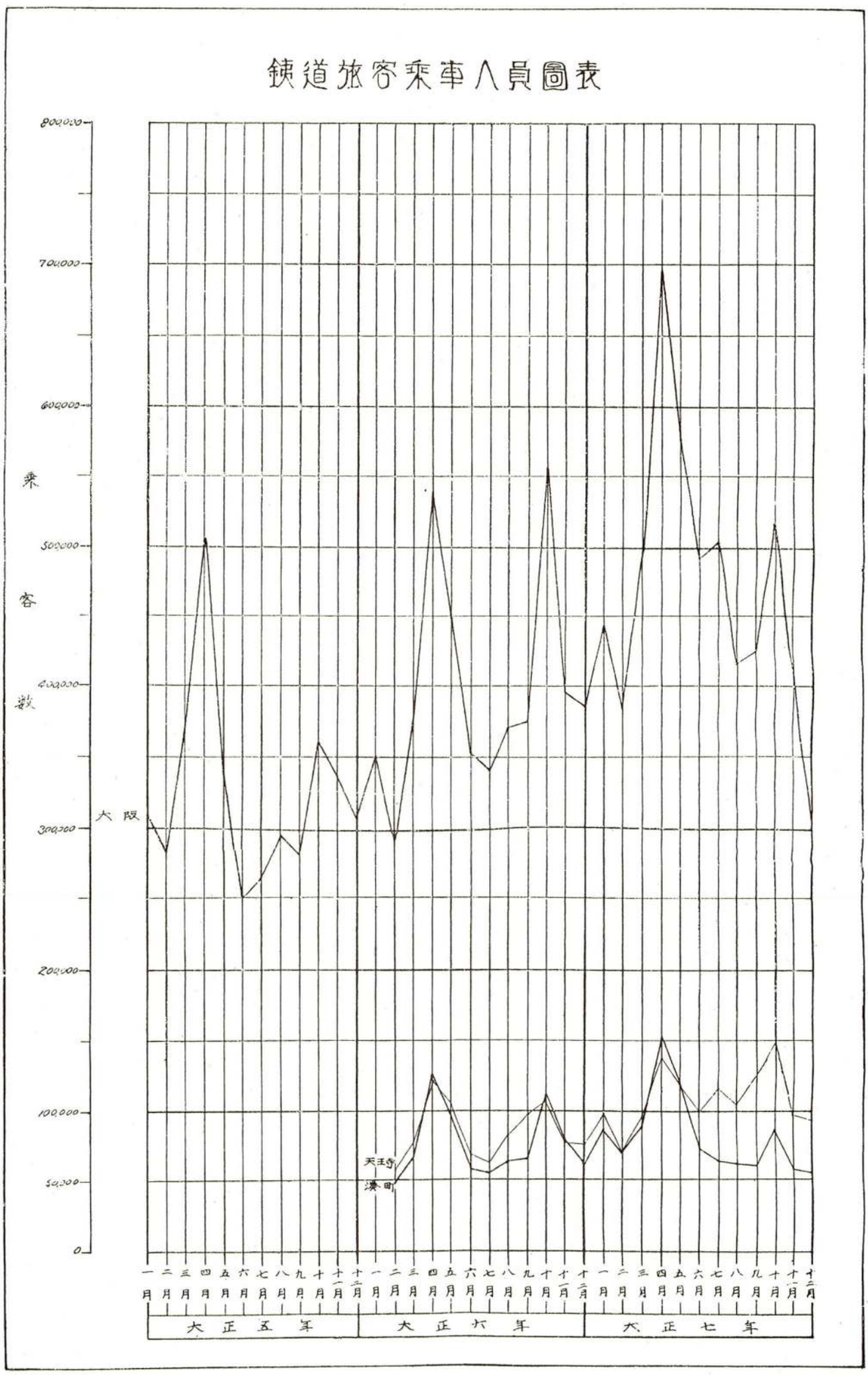
昇降機　米國「オーチス」「エレベーター」會社製七馬力半速力百五十呎地階ヨリ四階ニ通ズ（米國貿易會社請負）

暖房裝置　米國「ラチエター」會社製温水汽罐

〔資　　料〕

●大阪市都市計畫參考資料（其八）

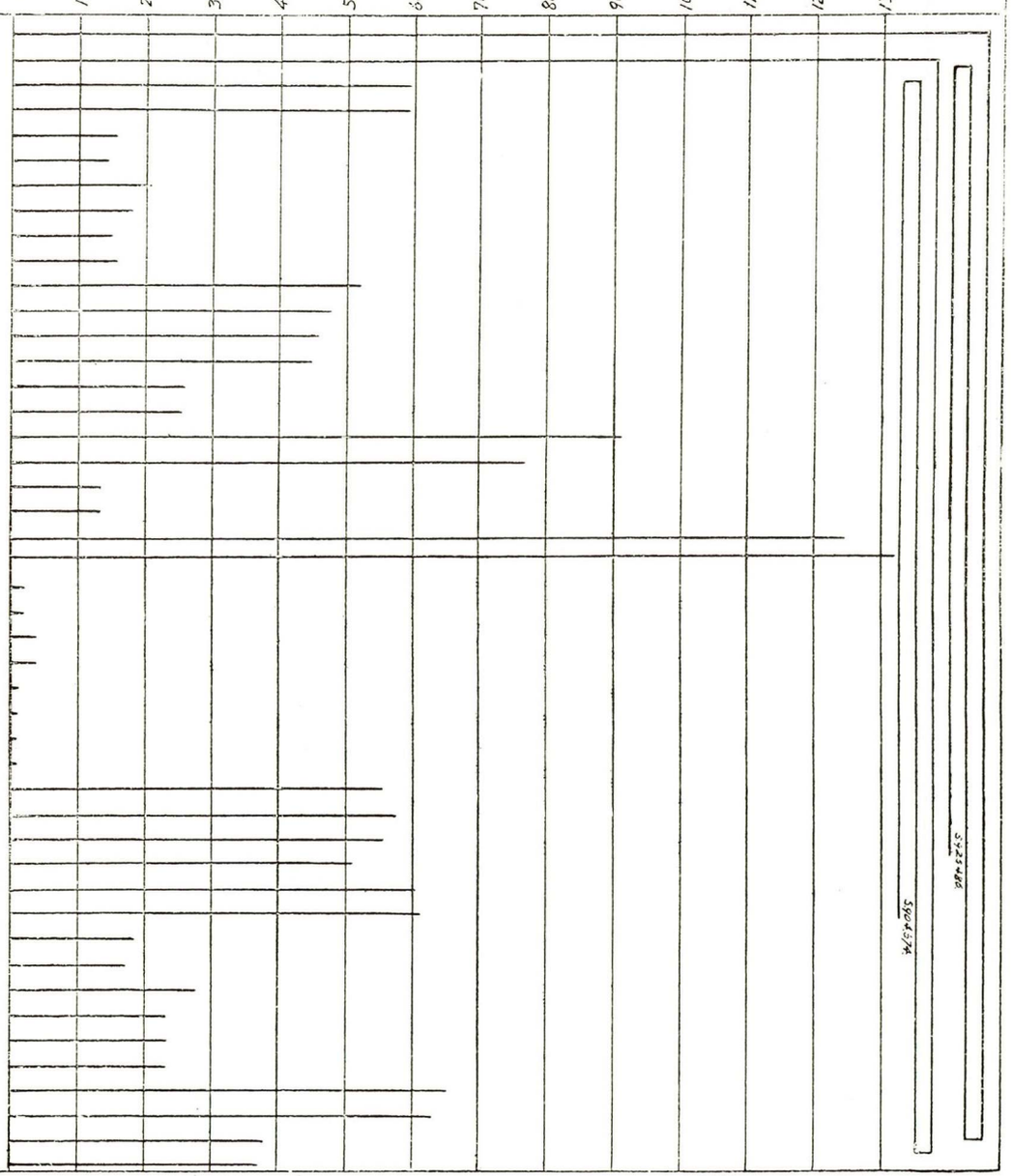
(9) 大阪市及近郊鐵道旅客表



大阪市及近郊鐵道旅客表

線路名	年度	駅名	乗降別	大正四年度 一等	二等	三等	計	大正五年度 一等	二等	三等	計	大正六年度 一等	二等	三等	計	大正七年度 一等	二等	三等	計
東海道線		大阪	乗降	28,762	410,311	3,079,744	3,518,817	31,424	530,720	3,802,375	3,364,469	51,880	779,961	4,243,636	5,075,469	73,776	944,296	4,907,416	5,925,488
			降客	29,659	416,830	3,057,107	3,503,596	32,445	535,703	3,408,212	3,977,360	53,832	786,433	4,266,503	5,088,770	78,034	951,027	4,875,613	5,904,674
		吹田	乗降	75	15,301	338,998	374,372	64	15,092	380,052	395,208	93	24,141	479,229	498,463	103	27,686	570,307	598,096
			降客	75	15,163	363,474	378,709	82	14,993	396,117	409,172	91	24,399	488,091	512,561	94	27,240	569,832	597,166
		神崎	乗降	13	852	87,372	88,595	66	2,258	94,371	96,705	174	3,022	138,487	141,683	160	4,759	148,731	153,650
			降客	83	937	89,141	90,161	68	2,205	92,152	94,425	109	3,444	128,158	131,705	129	4,510	137,066	141,705
城東線		鴻宮	乗降	9	2,333	129,894	132,236	4	1,873	152,410	154,345	9	1,793	186,098	189,900	21	3,281	207,033	210,336
			降客	14	3,793	122,347	126,654	21	1,810	142,850	144,725	13	1,737	167,922	169,672	25	3,004	180,355	183,382
		森小路	乗降	5	1,102	67,436	68,575	2	1,583	90,652	92,219	12	2,629	104,670	107,311	1,084	3,151	145,735	149,988
			降客	3	1,059	70,714	71,976	9	1,427	91,412	92,848	14	2,340	105,457	107,811	1,035	2,846	152,410	156,311
		天王寺	乗降	64	1,859	259,643	261,547	30	3,866	220,372	221,834	28	5,695	468,739	474,462	44	9,863	507,613	517,520
			降客	27	2,289	249,738	252,074	21	1,359	221,911	223,291	39	5,549	442,759	448,347	47	9,332	478,346	487,677
		桜宮	乗降	23	1,360	223,454	232,057	35	5,244	303,604	308,883	91	6,580	379,964	386,635	135	6,913	451,161	458,249
			降客	38	3,295	224,686	227,549	32	4,957	298,437	303,426	63	5,700	358,783	364,546	71	4,986	444,933	449,990
		京橋	乗降	424	8,702	130,764	139,950	569	12,557	172,359	183,483	579	13,430	218,238	234,767	2,887	18,871	243,095	264,883
			降客	438	7,680	124,169	132,287	508	11,046	168,124	179,178	535	13,567	203,488	217,590	2,821	16,669	233,359	254,849
関西線		天王寺	乗降	802	32,515	571,643	606,020	956	40,640	630,412	672,228	1,465	65,340	852,295	919,080	1,966	72,051	837,933	911,950
			降客	849	31,003	506,624	540,276	966	37,850	577,186	617,602	1,788	60,618	752,520	814,926	2,141	62,710	689,850	764,751
		今宮	乗降	1	665	82,481	83,150	1	316	99,983	100,302		404	123,253	123,737	6	569	136,853	137,428
			降客	9	777	84,307	85,093	12	370	97,312	97,694	6	677	118,932	119,615	17	638	129,520	130,175
		玉造	乗降	231	17,139	726,899	744,269	300	12,126	817,382	829,808	463	24,922	1,227,174	1,254,559	783	46,174	1,195,342	1,242,299
			降客	189	17,758	713,418	731,362	328	12,279	568,448	581,055	550	26,399	1,035,198	1,062,147	821	42,309	1,270,498	1,312,628
		寺田	乗降	—	—	7,990	7,990	—	—	10,485	10,485	—	—	16,110	16,110	—	—	20,763	20,763
			降客	—	—	5,350	5,350	—	—	7,047	7,047	—	—	11,296	11,296	—	—	14,265	14,265
		鶴橋	乗降	17	2,278	222,579	224,872	32	1,316	137,395	138,733	25	2,503	247,724	250,252	39	2,363	352,888	356,290
			降客	13	2,819	219,402	221,734	23	1,148	232,783	234,758	14	2,695	241,420	244,109	53	3,441	336,995	340,490
		野江	乗降	—	—	4,035	4,035	—	—	4,363	4,363	—	—	3,419	3,419	—	—	6,774	6,774
			降客	—	—	2,101	2,101	—	—	2,860	2,860	—	—	16,110	16,110	—	—	4,446	4,446
		美章園	乗降	—	—	10,992	10,992	—	—	12,796	12,796	—	—	16,697	16,697	—	—	21,117	21,117
			降客	—	—	7,524	7,524	—	—	9,352	9,352	—	—	12,857	12,857	—	—	15,917	15,917
		加美	乗降	386	6,697	322,634	329,719	41	6,773	354,168	360,982	83	11,158	422,503	433,744	96	15,719	546,369	562,164
			降客	381	6,029	315,712	321,122	9	6,759	370,580	377,246	72	11,185	439,155	450,392	119	16,229	560,068	576,416
大津線		追分	乗降	—	2,468	371,356	373,824	—	3,435	387,100	390,535	7	6,762	501,301	507,100	—	9,948	535,692	545,630
			降客	—	2,465	331,133	333,598	—	3,543	354,669	358,212	7	6,536	462,197	468,740	—	9,821	502,341	512,162
		石山	乗降	—	1,992	135,637	137,629	—	4,609	163,293	167,902	—	8,596	207,840	216,436	—	12,315	593,655	605,970
			降客	—	1,969	140,875	142,844	—	4,518	171,151	175,669	—	5,266	218,577	223,561	—	12,142	599,907	612,052
西成線		放出	乗降	—	2324	129,878	132,202	—	4,724	168,226	172,953	—	10,913	154,715	165,628	1	13,164	169,709	182,874
			降客	—	2251	124,792	127,043	—	4,767	162,202	166,969	—	10,960	150,905	161,865	—	18,072	155,558	173,630
		鶴見	乗降	—	2,184	116,070	118,254	—	3,526	154,285	157,811	—	8,697	223,273	231,970	—	17,700	259,604	277,304
			降客	—	2,162	113,072	115,134	—	3,491	153,600	157,091	—	8,922	219,954	228,876	—	18,423	223,117	242,540
		今福	乗降		412	135,458	135,870	—	886	198,669	199,555	—	1,330	258,064	259,394	—	2,516	240,151	242,667
			降客		416	134,598	135,014	—	757	196,862	196,819	—	1,116	269,023	248,139	—	2,254	238,423	238,177
		西九条	乗降		6,834	213,062	219,896	—	14,776	257,263	272,039	—	17,592	422,586	440,178	—	21,725	634,349	656,073
			降客		6,727	185,273	192,000	—	10,615	247,796	258,411	—	17,220	469,105	486,326	—	21,036	608,593	629,629
		弁天町	乗降		2,259	50,701	52,960	—	5,825	111,111	116,936	—	8,780	360,945	369,725	19	9,554	308,614	318,188
			降客		2,169	50,459	52,628	—	5,757	109,517	115,276	—	5,306	320,641	325,997	—	8,876	364,920	373,796

大正七年度　旅客数圖表



無煙式ニシテ溫水ヲ自然循環セシメ放熱器ヲ各階ニ配置ス（横河橋梁製作所請負）

防火設備　防火栓各階及屋上共十二ケ所ノ「ハイドランド」ヲ備フル外本館入口窓ニハ大野式「シャッター」扉ヲ裝置ス（須賀商會大野止、請負）

電燈設備　配線隱蔽式ニシテ事務室ハ半間接照明トシ卓上「ランプ」ヲ併用シ各室トモ壁付トス（東洋電業株式會社、原安商會株式會社請負）

電話設備　共電式二座席八十二（株式會社沖商會請負）

デフトグラブ　米國製「マスターステーション」壹臺「ターナーテレボン」十臺（株式會社沖商會請負）

書翰投入筒　各階ヨリ投入シタル書翰ヲ總テ壹階ニ取纏メ各所ニ發送ス（直管）

衛生工事　各便所排泄物ノ處理法ハ西原式淨化裝置トス（須賀商會清水工務所請負）

窓　各窓ハ防火ヲ主トシ鋼鐵製窓枠及障子ヲ使用ス（巢鴨製作所）

家　員

工　程

工事日數　職工人夫　延人數五萬〇六百五十人

工事施行法

主要材料

直　營

鐵　筋　百〇四噸五

（セメント）　五　千　樽

砂　利　三百五十立坪

川　砂　貳百五十立坪

松　丸　太　九百九十五本

石　材　七千七百四十壹立方尺

木　材　四千〇四十五立方尺

化粧煉瓦　十　萬　箇

並煉瓦耐火煉瓦　十一萬箇

銅　板　貳千七百五十平方尺

硝子板　六千〇七十八平方尺

鐵障子　四千九百五十平方尺

防火扉　四千八百六十平方尺

以上

「オーク」及「チーク」材製ヲ使用ス（高島屋裝飾店仲井信次請負）

地鎭祭　大正七年五月一日

起　工　同七年六月三十一日

竣　工　同九年六月二十五日

七百三十六日

設計監督　宗建築事務所

大阪美術館新築設計圖案懸賞募集規程の發表

豫て傳へられたる通り、大阪は市這回美術館新築設計圖案の懸賞募集規程を取り決めて發表せり仍て參考の爲左に其規程を掲ぐ、尙詳細の事項は大阪市に就て質され度し。

第一條　本規程ニ依リ大阪美術館新築ノ設計圖案ヲ募集ス

第二條　當選者ニハ左ノ等級別ニ依リ賞金ヲ交付ス

壹等賞	壹名	金參千圓
貳等賞	壹名	金貳千圓
參等賞	壹名	金壹千圓

第三條　應募者ハ其設計圖案ヲ嚴封シテ大正拾年壹月卅一日迄ニ大阪市役所營繕課ニ到着スル樣提出スヘシ

第四條　設計圖案ニハ左ノ事項ヲ具備スルコトヲ要ス

一、各階ノ平面圖　縮尺貳百分ノ壹
二、立面圖（四面共）　同　貳百分ノ壹
三、斷面圖（各室ノ內觀ヲ示セルモノ併セ貳ケ所以上）縮尺貳百分ノ壹
四、主要ナル部分ノ詳細圖壹葉　縮尺貳拾分ノ壹
五、透視圖
六、仕樣概要

各圖面ハ單色仕上トシ陰影ヲ施スコトヲ得　但シ透視圖ハ色彩ヲ用フルモ差支ナシ

圖面ハ總テ原圖紙ヲ用ヒ日本墨ヲ以テ製圖シ寸法ハ日本尺ヲ用フヘシ

文字ハ總テ邦文ヲ以テ記入シ字体ハ楷書ヲ用フヘシ

但シ止ムヲ得サル外國語ハ片假名ヲ以テ記載スヘシ

圖面ノ記入方ハ番號符號等ヲ用ヒス直接其位置ニ記入スヘシ

將來擴張スヘキ部分ハ點線ヲ以テ之ヲ示スヘシ

第五條　設計圖案ニハ凡テ署名ニ代フルニ每葉暗號ヲ記載シ別ニ應募者ノ原籍現住所、職業氏名及暗號ヲ記載シタル書面ヲ嚴封シ其表面ニハ單ニ當該暗號ノミヲ記載シテ添付スルコトヲ要ス

第六條　應募圖案送付ニ要スル費用ハ應募者ノ負擔トス

第七條　應募シタル設計圖案ハ大阪美術館設立調査委員之ヲ審査ス

第八條　審査ハ大正拾年參月拾五日迄ニ結了スルモノトス

第九條　大阪市長ハ調査委員ノ審査ニ基キ當選者ヲ決定ス

第十條　當選者ノ氏名ハ新聞紙ヲ以テ之ヲ公示ス

第十一條　審査ニ關與スルモノハ募集ニ應シ若クハ應募者ニ幇助ヲ與フルコトヲ得ス

第十二條　左記ノ設計圖案ニ對シテハ審査ヲ爲サス

一、他ノ意匠ヲ剽竊セリト認メタルモノ

二、不正ノ手段方法ニ由レリト認メタルモノ
三、第三條ノ時期ニ遅レタルモノ又ハ第四條・第五條ノ要件ヲ具備セサルモノ

第十三條　審査ノ結果ニ對シテハ說明ヲ求メ又ハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第十四條　當選者ノ死亡其他ノ事由ニ依リ當選者ニ賞金ヲ交付スルコト能ハサルトキハ大阪市長其交付ヲ受クヘキ者ヲ決定ス

第十五條　當選シタル設計圖案及之ニ關スル一切ノ權利ハ大阪市ノ所有ニ歸ス

第十六條　應募設計圖案ハ審査終了後暗號ノマヽ公衆ノ展覽ニ供ス

第十七條　當選セサル設計圖案ハ提出者ノ希望ニ依リ本市ノ費用ヲ以テ之ヲ還付ス但シ還付ノ場合ニ於テ封書ノ開披ヲ欲セサル者ハ還付先ヲ暗號ト併記スヘシ

第十八條　應募設計圖案ハ萬一毀損スルコトアルモ本市ニ於テ其ノ賠償ノ責ニ任セス

第十九條　設計要旨其他ニ就テノ質疑ハ總テ大阪市役所營繕課長宛書留郵便ヲ以テ承合スヘシ

第二十條　應募者設計圖案提出後住所氏名ニ異動ヲ生シタルトキハ其都度異動通知ノ四字及當該暗號ノミヲ記載シ之ヲ大阪市役所營繕課長宛届出ツヘシ

設計要旨

一、敷地ハ大阪市内高燥ナル地域トス
一、敷地ハ天然礎ノ粘土質ニシテ安全地耐力、一平方尺、約一噸半ト假定ス
一、建物内各室ノ種類配置及廣サハ別紙「ラインドロウイングヮ」（線圖）ニ其大要ヲ示ス尚建物ハ將來增築ノ必要ニ應シ得ヘキモノタルヘシ
一、建物ハ西方ヲ正面トス
一、建物ノ總工費ハ設備費及事務費ヲ除キ約百萬圓トス
一、建物ハ耐火耐震構造トス

備考

大阪美術館設立ノ趣旨

第一、目的

一、美術品ヲ蒐集保存シテ一般ノ觀覽ニ供シ併セテ美術品製作家ノ參考ニ資シ尚美術ノ研究ニ便ナラシムルコト
二、藝術的精神敎育ノ向上普及ヲ計ルコト

第二、陳列品ノ種別及範圍

一、陳列品ノ種類ハ繪畵、彫刻、建築、其他美術工藝品トスルコト
二、純正美術品ヲ主眼トシ應用美術品ヲ含フルコト
三、古美術品ヲ主眼トシ新美術品ヲ加フルコト
四、東西兩洋ノ美術品ヲ包含シ兩者ノ間ニ輕重ノ別ナカラシムルコト

第三、利用ノ方法

一、美術ニ關スル研究講演及出版
二、陳列品ノ說明
三、美術ニ關スル質疑應答

空氣ノ溫度

大正七年中ニ於ケル氣溫ヲ攝氏寒暖計ノ度ヲ以テ示セバ左表ノ如シ

種別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	全年
平均最高溫度	六・九	九・二	一二・〇	一八・一	二二・二	二四・九	三一・一	三一・四	二七・七	二二・五	一五・九	一〇・四	一九・三
平均最低溫度	(一)一・〇	(一)〇・二	三・一	八・五	一二・七	一八・二	二三・七	二三・三	一九・〇	一三・八	七・一	三・一	一〇・九
最高溫度ノ極	九・〇	一六・六	一八・五	二三・五	二七・三	二九・二	三四・四	三四・〇	三三・〇	二六・四	二三・二	一八・二	三四・四
最低溫度ノ極	(一)三・四	(一)四・五	(一)一・九	四・二	七・五	一二・九	一〇・三	一六・九	一三・四	五・〇	一・七	(一)一・〇	(一)四・五
平均溫度（本年	二・八	四・一	七・三	一三・二	一七・一	二一・二	二六・九	二六・九	二三・〇	一七・六	一一・三	六・四	一四・八
平均溫度（平年	四・六	五・四	七・六	一三・〇	一七・三	二三・〇	二六・三	二七・一	二三・九	一七・六	一二・〇	六・九	一五・三

本表中平年トアルハ大阪測候所開設以來ノ平均溫度ナリ

最多降水量

自明治四拾貳年
至大正七年　各年中五分間ニ於ケル最多降水量（粍）左ノ如シ

年月日	時間	降水量
明治四十二年六月廿四日	自午前八時二十五分 至同八時三十分	五・〇
同四十三年八月十日	自午後四時五十五分 至同五時	一〇・〇

風向觀測

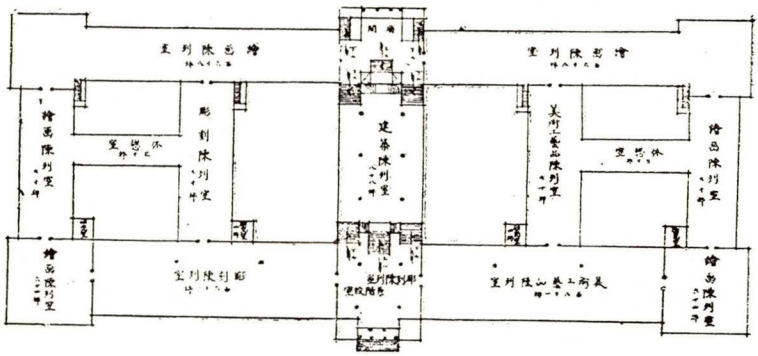
自明治四拾貳年至大正七年　拾ケ年間ニ於ケル風向觀測ヲ示セハ左表ノ如シ

同四十四年九月十六日	自午前三時至同三時五分	一一・四
同四十五年七月廿四日	自午前八時三十五分至同八時四十分	八・〇
大正二年五月一日	自午後二時二十五分至同二時三十分	七・一
同三年八月廿三日	自午後五時十六分至同五時二十一分	一四・一
同四年七月拾壹日	自午前二時三十五分至同二時四十分	八・四
同五年九月十九日	自午後六時二十分至同六時二十五分	一一・八
同六年九月五日	自午前四時至同四時五分	一一・七
同七年九月卅日	自午前三時三十二分至三時三十七分	九・〇

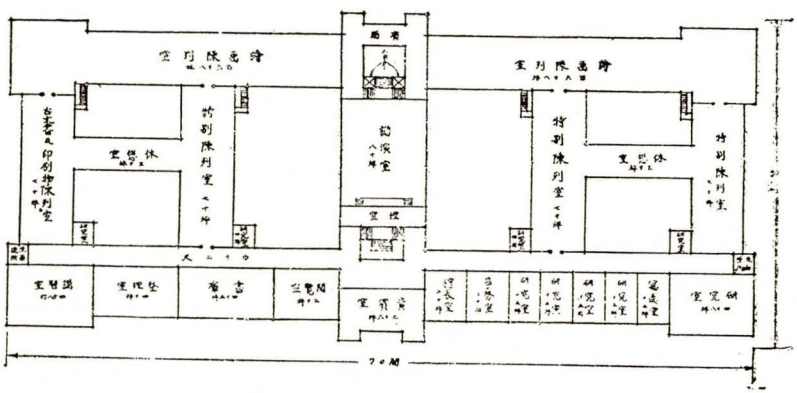
大阪美術館各室

百四尺縮

階下平面圖



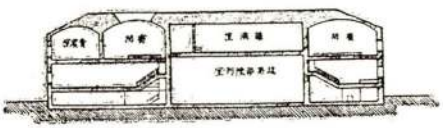
階上平面圖



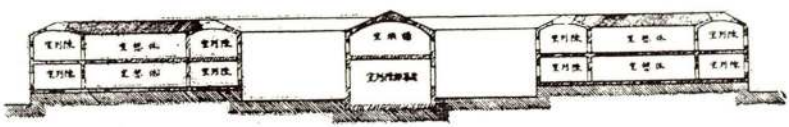
配置參考線圖

壹之合

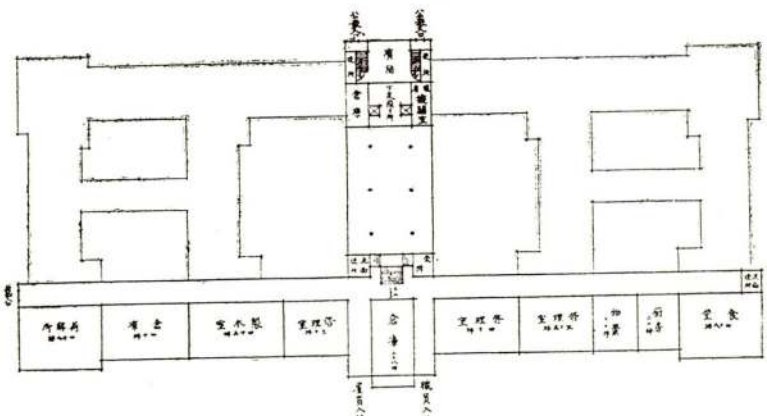
橫斷面圖



縱斷面圖



地下室平面圖



年次＼方向	北	北東北	北東	東北東	東	東南東	南東	南南東	南	南南西	南西	西南西	西	西北西	北西	北北西	穏靜
明治四十二年	八〇九	四八二	二、二九八	四九五	六二七	八〇	八四	五二	六六	六九	四四二	四四七	一、三七七	五五三	三一七	二四四	三八二
同 四十三年	九八〇	七四七	一、五八〇	三七六	四七二	一八〇	一三六	三七	一六四	一九五	三九七	六二一	一、八八	一三六	四四八	三三一	五八二
同 四十四年	一、三〇六	一、〇六八	一、一九四	四七一	四三九	一九八	一六五	七七	二九〇	四四一	七九二	六三九	八〇八	四七八	二二一	一八三	四三八	四〇	二六
大正元年	九〇五	一、一一	一、四八四	八三七	五八六	二三一	二一三	九八	一一三	一八〇	四二五	六九六	一、一一〇	四七八	一一三	一八〇	二一九	四四七	一一	一一
同 二年	八九九	九〇〇	一、三三一	八〇一	七五三	一九九	一六一	一〇八	一九六	二〇〇	五一五	六四三	八三一	四一〇	二六一	一六七	四二九	四二六	三八	二四
同 三年	一、四一四	七二五	一、三一〇	四七二	三三〇	一三六	一五一	九八	二三三	二七四	八一二	九五四	九九七	一一八	一七六	四二三	四二六	三二六	二四	一一
同 四年	一、五九九	七三〇	一、四五一	五五二	三三六	一四六	一五四	八五	一九五	三二九	一八二	六四二	八四三	一六七	一六七	一六六	二四四	二四二	二四	一一
同 五年	一、七五〇	五六九	一、四八八	五一九	三五〇	一七〇	一六三	七四	二三九	二三一	七一八	七一八	一、〇四七	一八四	一四七	四〇六	二四四	二四二	二四	一一
同 六年	一、一一三	九〇一	一、一七九	四八四	二九七	一二九	一二四	七〇	一三九	三一九	七一七	八八四	九二二	二七八	二八四	四四七	四四七	三四八	二四	六四
同 七年	一、二七九	九二四	一、二三三	四七五	三五五	一五八	一一七	八七	一六二	三一九	七一七	八八四	九二二	二七八	二八四	四四七	四四七	三四八	二四	一〇九
平均	一、二〇一	八一五	一、四五五	五四八	四五四	一五七	一四七	七九	一七一	二七七	六五三	七五三	一、〇六四	二七九	二三六	四二九	四二六	三四八	二四	一三九
百分	一三・七	九・三	一六・六	六・三	五・二	一・七	一・七	〇・九	二・〇	三・二	七・四	八・六	一二・一	三・二	二・六	四・〇	一・五			

本表ハ毎時ニ觀測セシ方向ヲ示シタルモノナリ

各風向ニ對スル最大速度

自明治四十二年至大正七年　拾ケ年間ニ於ケル各風向ニ對スル最大速度ヲ示セバ左ノ如シ

方向 / 年次	明治四十二年	同四十三年	同四十四年	大正元年	同二年	同三年	同四年	同五年	同六年	同七年	最大
北	一二・七	一五・九	一四・五	一七・四	一八・一	二〇・五	一六・四	一五・〇	一九・八	一八・三	二〇・五
北北東	一一・七	一二・八	一六・七	一五・九	二四・〇	一七・五	一〇・六	九・二	一二・〇	一〇・四	二四・〇
北東	一二・一	一五・六	一三・七	二三・〇	二九・九	一四・一	一七・七	一四・一	一三・四	一〇・二	二九・九
東北東	一三・四	一二・二	一五・四	一六・八	一二・五	一二・三	二〇・四	一一・八	二〇・一	一七・二	二〇・四
東	一三・六	一〇・四	一〇・四	一六・九	一一・二	一五・二	一四・三	一一・四	一八・六	一二・一	二一・一
東南東	一〇・五	一〇・一	七・一	一〇・八	八・四	八・一	一五・〇	九・二	一一・〇	九・九	一五・〇
東南	七・二	六・一	八・八	一三・二	一一・四	九・七	一一・四	七・五	一〇・七	一四・八	一四・八
南東	四・五	五・〇	九・六	一二・〇	六・六	九・五	八・一	八・二	九・三	一六・一	一六・一
南	八・六	一四・四	一二・三	一三・七	一三・八	一五・七	二〇・三	一二・三	一四・八	一八・九	二九・三
南南西	九・七	一九・二	二七・八	二三・九	一七・八	一五・六	二〇・二	一八・一	一五・八	一七・八	二七・八
南西	一三・六	二〇・四	三〇・一	一五・五	一五・九	一六・二	二三・二	一五・八	一七・四	二〇・三	三〇・一
西南西	一四・六	一九・一	二七・四	二四・二	二四・〇	三〇・一	二一・〇	一七・五	二四・四	一九・六	三四・二
西	一八・五	二四・六	二五・一	二三・四	二八・一	三四・三	三〇・四	二六・八	二七・八	一八・七	三四・三
西北西	二二・七	一七・四	二四・七	二一・六	三〇・七	二五・六	一七・四	二一・六	二三・八	一七・四	二四・七
北西	一四・一	一四・四	一三・七	一四・七	一八・一	一五・七	一一・八	一四・八	一一・五	一三・六	一八・一
北北西	一〇・九	一四・六	一六・五	一二・七	一七・三	二一・九	一五・六	一九・八	二四・三	一六・五	二四・三
極	一八・五	二四・六	三〇・一	三四・二	三四・〇	三四・三	三〇・四	二六・八	二七・八	二一・一	三四・三

各風向ニ對スル強風以上ノ時數

自明治四拾貳年至大正七年　拾ヶ年間ニ於ケル各風向ニ對スル強風ノ時數ヲ示セハ左表ノ如シ

年次＼風向	北	北東	東北	東	東北東	東	東南東	南東	東南	南	南南東	南	南南西	南西	西南西	西	北西	北西	北	北西	計
明治四十二年	五	一	二四	八	一〇	一	一	一	一	一	一	一	一	六	四〇	一〇三	一三	六	一	二一七	
同四十三年	三四	一〇	三〇	二	二	一	一	一	一	一	一	九	五	一三	五八	二四五	三九	一四	一三	四九五	
同四十四年	九五	三三	四〇	一六	一	一	一	一	一	一	一	四〇	四四	九二	一四九	二六八	六九	三	六九	九二九	
大正元年	六八	二五	二九	三〇	七	一	一	一	一	一	一	二	七	三七	一三九	三〇二	一二六	六	七	八〇八	
同二年	八二	三八	一四	五	二	一	一	一	二	一	一	三	三	三六	一一〇	二八七	一四八	六八	二九	八四五	
同三年	九三	九	一八	六	六	一	一	一	一	一	一	一七	一六	五六	一七六	二八一	九	一〇	一九	七一六	
同四年	六七	二	二三	二四	八	一	五	一	一	一	一	一四	一四	五一	一〇〇	二九七	一七	二	三四	六九四	
同五年	七一	一	二五	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一四	五一	一〇〇	一八七	二三	五	五五	五三六	
同六年	四九	一	三六	二一	九	一	一	一	一	一	一	七	一二	五四	二一三	六二〇	七六	四	九	一一二	
同七年	四三	一	五八	一四	一〇	一	一	一	二	一	一	二八	二一	四五	一〇〇	一三四	三九	一七	二六	五三八	
平均	六二	一三	三二	一三	六	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一三	一七	四五	一一	二七二	五六	一五	二七	六八九	



漫錄

××太西洋を見る日まで

會員 工學士 波江悌夫

□二□

太平洋を乘り切つて、これから大陸横斷の旅行記をだら〳〵書き綴つて見やうといふ考から「大西洋を見る日まで」と表題を變へて置きましたが前號に印刷の間違いから「太平洋を見るまで」となつて居ました、一寸御斷しておきます。

○シヤトルの名物

ヴイクトリヤ港を二日の午前十時頃解纜した我船は、進路を東南に執つて、瀨戸海をシヤトル港へと向つた。瀨戸の海は其の名の如く靜かなものであつた。四望起伏する島影岬角は默々として横はり、東の方カスケードの連峰は夢の樣に寒天に畵き出され、タコマ富士の名あるマウント・レーニアの白峯、群を拔いて畏まつて居る景氣は、一寸御國では見られぬ嚴肅な靜けさであつた。大分に御厄介を掛けた移民官はタウンセンド港近くで船を離れた見るからに箒を立て並べた樣な松柏の林に掩はれた陸地を近く望めば、唯殺風景とよりは申されぬ、趣味とか雅致とかいふ立木の皆無な此の大陸を見て日本人の多くは故郷の空がなつかしくなつたに相違ない。住めば都とは申せ、此の大雜端な自然の林に何等の感興も持たぬ米人が無雜作に伐り開いて、三角型の屋根を立て並べて簡單な色に塗りこくつた樣な寂しいタ港を親しく望めば、一種の物足りなさに胸をつかれる。

だが此の無雜作な天然を背景として活躍する彼等米人は却つて仕合せなるかもしれない、嚴肅な寂寞によつて周圍を取卷かれて居ても、本來奮闘と努力で北米の天地を開拓して來た彼等の祖先の血は流れ〳〵て將に白熱の域に達して居るのである。四圍の還境が美しい雅しい天然に育てられて室咲の花の樣な人間が出來上るのに比べては、正に雲泥の差であると考へた。さういへば日本人の大好きな松の樹は一つとして眞直なものはない、皆ヒ子くれた形をして居る、ヒ子くれた形を愛するものは、愛するものそれ自身がヒ子くれて居るといふも差支はない。總して松柏杉檜の常盤木類は樹幹亭々彬參として空を摩するのが自然であり本來である、然るに日本の庭園に移植せられた常盤木は其自然の本性を無理にもためられて居る、一種の型に囚へられて居る、これは足利時代からの悪い御國風ちやないかとも考へて見た。

そんな事は何うでもよい船は蓊木の林を左右に見ながら愈物靜かなプヂエットサウンドの海峽を進んで行く。

午餐の食卓では愈最後の御別れの盃を擧げた。その時次の樣な會話が交換された。

『シヤトルの名物は何んでせうな』

と肥えた某會社の重役Y氏が質問した。

『さあ』

と赫ら顏のK氏は頭をなぜた、K氏はシヤトルの日本中では草分の一人である。

『これといふてシヤトルに特有の名物は、ありませんな。元來沙市が今日の繁榮の基は、アラスカ貿易に負ふ所がありますから思ふと大北鐵道會社が、シカゴを起點として人煙稀なる北米の山野を貫通して軌道を開ひたのは誠に大英斷でありましたな當時の寒村シヤトルが二十有五年の今日三十有五萬の大都會になつたのは、鐵道とアラスカ貿易の御蔭です』

ときすがにK氏は過去を顧みて感慨無量といふ顏をした。

アラスカの產業について詳しいI氏は直ぐに贊成した。

『實際さうでせうな、殊に北海方面の漁業の如きは、大抵此附近から續々遠航をやつて居りますし、殊に秋冬の候に於ては此附近に集まつてくる漁業者の數は實に非常なものださいふことですよ』

Y氏は亦こんな事をいふた。

『此附近一帶の森林も隨分偉大なものでせうなメリケン松と稱するランバーは皆シヤトルに集よつて來るのではありませんか』

K氏はシヤトルの誇は吾誇りであるらしく微笑した。

『木材の本場はやはり此附近ですな、有名なオレゴンパイン材も皆此地に集まつて來るのですから、製材工場の如きも到る處に在る譯で、日本支那方面への輸出額は年々非常な額になつて居りますよ。漁業勞働者も秋になると續々入り込んで參ります。其代り此連中は春になると仕事がなくなると商賣代をし伐木勞働に早變をやる連中もあります。』

『ですが要するにシヤトルの名物は何んでせうな』

と始めの質問に立歸つたとき、船長は細い眼で笑ひながら

『シヤトルの第一の名物はやはり滯其物でせうな、如何に天候の

悪い日でも波一つ立たぬ港内は水深もあり、廣域も大きいし船といふ船は海岸に横付になる棧橋の數は四十近くもありますから、吾々から見ると唯一の名物です。吾國の港といふ港か大程日く付のものだらけなのに桑港といひ此の港といひ天然の利を占めて且つ人工の妙を盡して居ます。』

『成程さう聞けば沙港の繁榮は港其ものか良いといふ事は動かせませんな、それにしても、北米の天地は到る處無限の富源かある事を考へるとうらやましい。』

とY氏は嘆息した。

○天然乎人間乎

『併し』とY氏の向側に今迄默つて居た舌のないT君が言葉を入れた。

『いくら天然の恩惠かあつても、人間がぼんやりして居ては何にもならんでせう、名物だの名産だのいふた處で皆人間の努力の賜でせうぜ。今の地理學は自然を觀るのに大き過ぎて人間を觀ないのが缺點と思ひます。人間の力が偉大に働いてこそ天然の良港も良港としての價値が出來るのでせう、港が廣くて深くても此の港を利用する人間の市街がなく人間の力で造る棧橋其他の設備が完成せんでは寶の持ち腐れでせうぜ』

『御説御尤もですな、天の利地の利そして人間の和がなければ何にもならぬ』

と船長も贊成した。

『若し、かりに此北米の天地へ日本人が早く入り込んで居つたとしたらどうでしたろう。こんな良港も良港としての眞價を發揮したでせうか。天産物の豊富な北米の天地を開拓してこれ丈の富源を開發したゞろうかあぶないものでせうな』

Y氏はこういふた。

『さうですな、若しコロンブスよりも早く日本人が北米の發見をやつた處で白人の西漸との衝突に出會して決極の勝利を得たかどうか疑問ですな。』

『殊によつたらアメリカ印度人と同じ運命に陷つたかもしれない』

と色々な想像がテーブルの廻りから起つた。

T君は此時こういふた。

『して見ると天然の富源もあてになりませんぜ支那の四百餘洲でさへあんな仕末でせう、天然に勝ち天然を征服してやろうといふ白人の意氣組がなくて徒らに天の恩惠に浴しやうとする民族は決極自滅に陷るかもしれません。畢竟天産物の豊富ならざる國民は仕合せなのかもしれませんよ』

皮肉な微笑を浮べたT君の顔は沈痛な色が漂ふて居た。

『ですか此頃の日本人は馬鹿に出來なくなつたといふ觀念が太平洋岸一帶の白人間にだん〳〵意識されてから、排日といふ問題が單に人種の問題でなくなつて、眞劍に此の有力な競爭者の壓迫を今に於て爲さずんば將來が危いといふ恐日的に變つて來た事は爭はれませんな』

とK氏は話題を轉じた。そして言葉をついで。

『近來シアトル市に於ける日本人の勢力は急に發展して來ましてホテル業の如きも中以下のものは殆んど日本人の經營に移り洗濯業、雜貨商、料理店等の成功は三井三菱なんどの大會社と相待つて痛快な成績を擧げて居ります。沙市の日本人町の如きは、桑港やロスアンゼルズの夫よりも立派であるし、又最も沙市の重要な地點を占めて居る事などは、大いに意を强ふするに足りますな。』

K氏は尙ほ言葉をついでこういふた。

『此頃では劇場でも寄席でも加奈太の樣に日本人を別扱いにする事もなくなりましたよ、內心では排日の觀念が湧れて居ても事實に於て日本人の勢力を什うする事も出來ませんし、日本人會は此種の取扱にはいつでも抗議を申込んで劇場や料理店のマネージヤーを叩頭させる丈の實力がありますから、もう殆んど劇場や料理店で日本人を特別扱にする樣な事は沙港ではなくなりましたな。』

Y氏は大いに感心したといふ顏をあげて。

『して見ると彼等も實力の前に叩頭して居る譯ですなそれは痛快だ、要するに排日問題に對する唯一の解決は日本人の退讓的政策を捨てゝ、堂々と實力と正義の角逐をやつて事實の上に文句を言はせぬ處迄叩きつけてしまふにありますな、現に此船でも日本人が多數であるが爲めに、外人も大いに遠慮して居るのみならず、吾々の樣なものが食堂の上席に陣取つて居るのは頗る面黑い現象ですな』

一度沈痛な處に陷つた會語はこれで漸く滿足な局を結んだ。

○手荷物の取調

冬の日の短さ、今に初めぬ事ながら四時と申すに暮氣蒼然と物靜かな海の上を掩ふて來た。何となく底冷えのする寒さに外套の襟を立てゝ暮れ行く甲板に軍歌など唱ひし連中もそこ〳〵にサルーンに引取つた、自分も所在なさに船室に入つたがもう間もなく上陸といふに氣もそわ〳〵として落付かぬぞ笑止なる。トランク手鞄なんどの堆々中甲板に運び出され、各室付のボーイの忙しげに立働くのも氣の毒な譯、夫々に心付の額もあること彼等から見れば此處一番の働き處であるに相違なく、事務長も船長も既に用事なきにやサルーンの前にて名殘を惜しみながらの挨拶も何となく吾れ人の心を動かすのであつた。

汽罐の音のいつしか止みて、船もどうやら動かぬ樣になつたので、甲板へ出て見ると驚いた。寒月冴ゆる沙市の大夜景はキネマの夫の如くに自分の眼前に展開されてゐるではないか、丘といふ丘に建て連れられたる家屋の燈火は不夜城の樣に四方を取り卷いてゐる、海岸に沿ふて連なる長蛇の火陣は街燈の夫か、高く低く一群の電光の動くは汽車か電車か、折々巨獸の眼の夫の如く海を照らし丘に輝くは自動車の馳り廻るか、空に輝き、海に照り渡る大都市の面目は、遺憾なく東洋の孤客の膽を寒からしめて餘りあつた。

船は三十幾番かの棧橋に橫付けになつた。荷揚用のクレインはガラ〳〵と鳴つては客の荷物を陸揚し初めた、愈御別れだ、愈上陸だ、そして愈稅關の御役人の取調べか初るとの事、吾も〳〵と

長い〳〵倉庫の中に乘り込んで行く。我が手荷物の仕末をボーイに言付けて漸く上陸した自分が、倉庫内に入つたときば御連中は一列の陣を形つて稅關吏の前に靜肅に並んでゐた。順番に檢査が初まる樣子だ。これは遲れて上陸した丈損をした、だが早く來た先客樣も荷物が來ぬ爲に後廻しと相成るのもある、檢査立會の吏官は一寸巡査の樣な服裝で、これも一列をなして平行の姿整一人宛相方から呼び出されて行く、御客樣より吏官の數が少ないので暫くすると立往生やがて無事通過の連中から歸つてくる吏員が亦後の客を引いて行く。

漸く自分の番が來た、幸に荷物が來て居たので、命によつて一々手鞄を開く、遠慮なくチャンと整理してあつた荷物をかき廻して有稅品はないかと一々引ずり出して質問するには往生させる。吏員の手にして居る書付は船中で明記した荷物が擧がつてゐる、事務長の注意でコレハと思ふものは書き出してある、それだのに執念深くも探し廻す、御互に厄介至極に相違ない。僕等の樣な人間に大した品物はあり樣はない。決極書き出した品物について三弗餘の稅金を徵收されて事は濟んだが、考へて見ると馬鹿々々しい、小面倒な事を毎日毎日やつてゐるものだ。

時計を見ると八時近くだ、亂雜になつた手荷物を又整理するのも厄介至極、おまけにドサクサまぎれに一つの鞄の鍵を失ふて閉口頓首、K氏が態々見ゐて『什うでしたもうよろしいか』とあつて『ホテル迄御案內しやう』との事、早速御伴をする事にして赤帽に荷物を渡し、棧橋に出て見ると、待合自動車の行列で動くことも出來ぬ仕末、K氏の世話になつた四五人と同車して漸く安心の胸をなぜ、思はずホッとした。

だん〳〵聞いて見ると稅金を徵收された連中はざらにあるとの事、正直に書き出した奴は皆やられてゐる、S君は賴まれた品物がたゝつて四十弗から支拂つたといふ、T君は友人のを引受けてこれも四十幾弗、主として絹織物かやられてゐる、さても〳〵さんざんな事であつた。

木造の棧橋を過ぎて自動車は海岸に沿ふて走ると突角を廻つたと思ふと丘に登る、右も左も町を縫ふて坂を下れば大道坦々として街區整然たる第一街に出た。街燈の意匠は同じでも其明るさはヴ港の比でなかつた。K氏も市街の明るさは米國都市中の第一位と誇つてゐると話された。

やがて自動車は市役所前の旅館フライホテルの前で止まつた。

○ホテル　フライ

建築家で候のと申した處で本當のホテルに投宿したのは初手である。內地のホテルでさへ宿泊した事のない者が勝手の知れぬ國へ來て勝手の解らぬ事毎に間誤ついたり滑稽を仕出來すのは無理もない處でがあらう、否々滑稽を通り越して吾膽を心から寒からしむる事件の類出するはいくらもがいても苦しんでもそれは致し方もない譯である。

それでも昨夜はK氏の案內で無事に一室を占領する事が出來軟かなダブルベットの上に一夜を明かしたのは何よりである。安心と疲勞とでぐつすり寢たと思つた昨夜は不安と辛勞とで妙な索雜した夢をそれからそれと追ふて居た樣に思ふ、もう何時だろうと

時計を見ると止まつて居る、窓からはぼんやりした光がなげこまれて居るが電車と自轉車のやかましい騒音は絶え間なく窓の戸をうつ何時でもよい心靜かに昨夜の事を繰り返しそれから今日の事を考へて見やう。

ホテルの丁場は曾て活動寫眞で見たのと大した代りはない樣だつた。ハゲ頭のマチーシャーが居て一人者か夫婦者かと聞いて居た、夫婦者の室はあるとの返事で、S夫婦は直ぐに二階かへ案内された。W氏とU氏とは五階へ通された、一人者の室は一寸待つてくれといふそこで自分が電信をかけておいたといふ、それから二人前の室をとつて置いた外にはないといふ。そこで船中で約束した事もありW君が來るに相違ないと思ふてこれに定めてW君が來たらと命じておいて三階のこの十八號とかいふ室に案内されたのだ、此ホテルにはベルボーイに日本人を使つて居るそれ丈日本人には都合がよいからK氏も安心して歸つて行かれた。それから廣間を左手にある昇降器で三階へ登つたのだ。

初めて此室に入つたとき廣々した室なのに氣持がよいと思つたそれに窓は中庭に面して居るので電車の響もそんなにこたへない丈よいと思つた、ダブルベットが二つ、右手のをW君にして左手を自分のにした、枕が二つあるので一つでよいと云ふたら。

『ダブルベットは皆二つ宛に枕が設けてあります。若し御一人の時には二つの枕を重ねて下されば宜しいのです、日本の方には一つではどうも枕が低すぎていけないさうです、こう二つ重ねて置きませう。』

此ボーイ君の説明に自分は思はず赤面をした、だが、老へて見るとダブルベットは一人者には一寸皮肉だと思ふ、唯廣々してコロゲ落ちる憂がない丈か仕合だといふものだ。

それで昨夜も無事に明かした譯だ。さういへばW君が來て居るかも知れないと頭を擡げて見たが空のベッドであつた。するとW君はどうしたのだらう。一人でこんな室を占領して居るのは贅澤だ、W君は何んでも手荷物の檢査で大分手こづつたらしい事を思ひだした。W君も紐育迄行くのだからと思つて一所の宿に泊まらうと約束したんだ、昨夜來なかつた處を見ると什うかしたな。

昨夜は寢る前に一風呂やらうと浴室に入つて湯加減を見てゐるうちに、コツ〳〵扉を叩く者がある、W君が來たのだらうと、半裸体で扉を明けたら、ボーターが手荷物を持參したんだつた。數へて見ると間違ひなく五個あつた。二十五錢の銀貨をやらうとしたら五錢だといふ、五錢ぢやあんまり可愛さうだから十錢で追ひ出した。アッ〳〵いふて居たか風呂場が氣になるので、よい加減に追ひ出して行つて見ると既に滿潮の熱湯！危い〳〵。こんな事で失策をやるのだと思つたのは大間違、排除管の口を充分に締ておかなかつたのでどん〳〵滿出して居るのだ湯氣ばかり立つて居る、それでもまあよかつたと安心して入浴をする長々と身体をのばして吾心となつたときフト手に握つて居る五錢の白銅に氣が付いた、何んだこれは？さつきやろうとしたのは二十五錢銀貨の筈である。（米貨には二十錢銀貨がなくて二十五錢銀貨になつて居る）いつの間に五錢に早變りをして居るのだらうか。何う考へても解らない、さういへばボーターの奴、五錢だ〳〵といふて居たがはゝゝあ。こりや五錢と二十五錢銀貨と自分で間違へて居たの

だ、それにしても先生よく十錢で辛棒したものだと獨り苦笑を禁じ得なかつた。

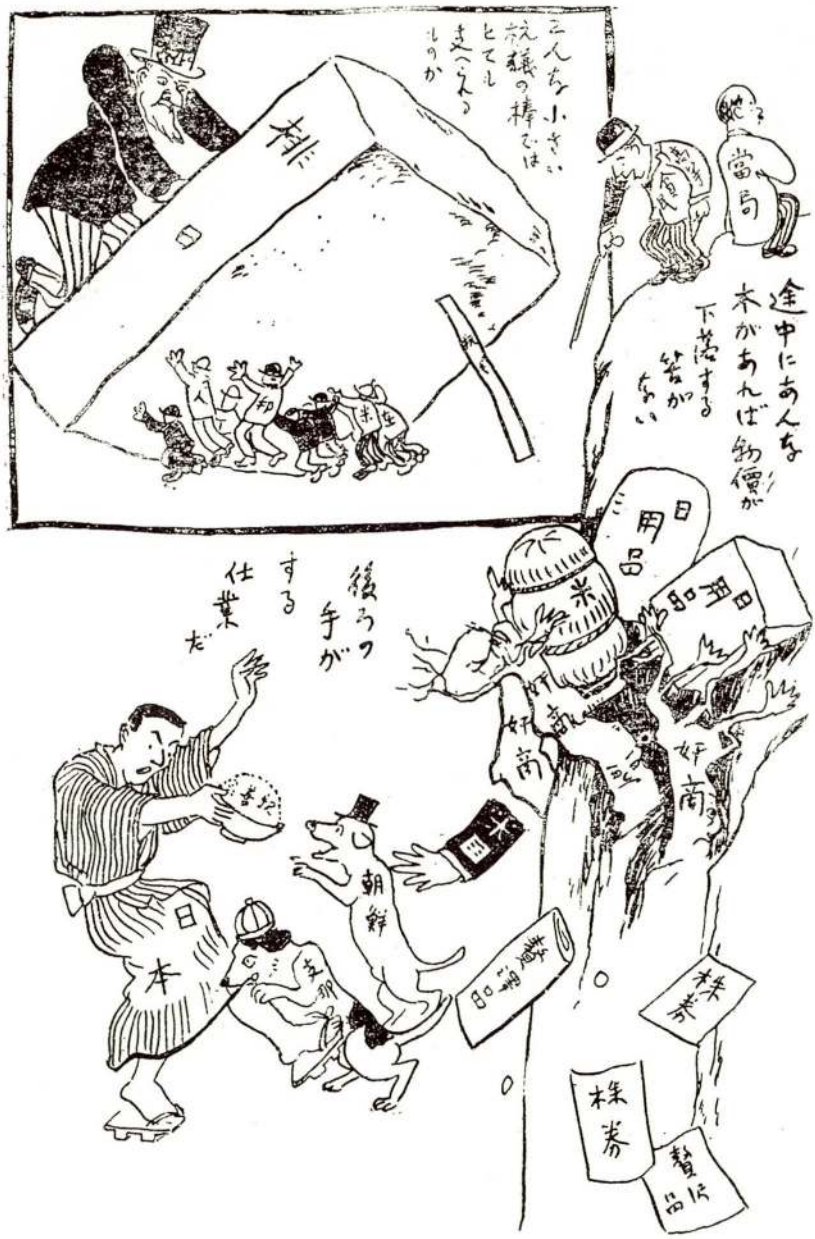
こんな事を考へて思はず獨り笑つて居ると室の一隅に在つた電話がケタ〳〵マシク鳴り出した。早速飛んで行つて受話器を耳にあてる、すると交換手の早口で譯の解らない事を交渉して來た。

御前のいふ事は解らないと返事をしたら電話が切れた、しばらくすると亦鳴り出した、解らないながら聞いて居るとW君から掛つたのであつた。漸くW君の聲で昨夜はC君の手荷物の檢査に立會つてとう〳〵C君のホテルへ一所に行つて泊つたとの事ニカリツチモンドといふホテルだ今朝閑なら一寸來ないか、紐育行の打合をやらうとの事、それでは行かうと返事をして切つた。

W君は此春一度紐育迄行つた事のある方だ、電話を掛ける事を心得て居る丈、ふらいと思つた。それしてもよくまあ僕が此室に居る事が解つたものだ、俺にはとても友人を探す事さへ出來さうにないと考へた。どうしても紐育迄はW君と一所に行かれば困る事ばかり出來るかもしれない。

だが人を賴りにして居ては到底單獨旅行は出來さうもない、まゝよ此處一週間ばかりシヤトルを見物して氣をはらし目を慣らし言葉を慣らしてから出掛けやうとも考へた。

ともかくリツチモンドへ行つて見やうと朝食も食べずに出掛けた。何となればこんな廣い室を一人で占領してゐるのも考へ物だW君を引張つて來なければならないし、紐育行の日程もW君に相談して作成しなければ一寸も勝手が解らない、汽車の切符さへ自分で買ふ事すら解らない以上はW君の處へ行かれば什うする事も出來ない譯である。


こんな小さい
抗議の棒では
とても
通ったえる
ものか
米
日
當局
途中にあんな
木があれば勿體が
下落する
筈がない
日用品
日本
米
南洋
南洋
後ろの手が
する
仕業だ
日本
朝鮮
支那
株券
株券
贅沢品


對岸の
火事と思つて
居たら大間違だ
ストライキ
日本資本家
ストライキ
協同出兵は
荷厄介な
のみか
いつ
あんな
面を
被るか
しれんぞ
支那
日本
原
居睡つてゐる間に
ウンと根を張つてゐつた
當分伐り倒されるはあるまい



〔藻苑〕

募集 小品文

雑題

芦田秋双選

朝寒

廣田逸山

出勤時間の電車は車掌臺に溢れんばかりの人である。

「どうか御順に中へ詰めて下さい」と車掌は慳貪に叫んだ、そして今や人の肩を縫ふて中の方へ進み入らうとする僕の肩を激しく突いた。突かれた機みに僕は前の人にドンと肩を打突けた「痛い氣を注けろ」とその人はグンと肱で僕の胸を強か突いた。

癪て電車を降りやうとした時「グズ〳〵せずに早く降りて下さい」と車掌は切符を僕の手より奪ふと同時に再び僕の肩を後から押した。

電車を下りてホット息を吐いた時、僕は朝寒の犀と迫るのを肌に覺えた。

神嘗祭の日

阪上冬男

「お母ちやん、あのたんとの旗は何やね」と五つ位の男の子が、手を引かれてゐる母親に訊いた。

「あれは誓文拂の旗や」

と答へた。恰度その時、小さな旗をつけた電車が向うから勢よくやつてきた、それを見た男の子は

「やあ電車の誓文拂や電車の誓文拂や」と手を拍つて囃した。



音

藤井天人

ガタと音がしたので、丸窓の戸を明けて庭を眺めた。冴え切つた月光を浴びた庭の樹々の影は濃く地に印して、飛石の上に置かれた菊の花の上に迄もその静寂な影の手を伸ばしてゐる。

何の音かしらと自分は訝かつた。

畠の上を掠めて來る風は薄う肥料の臭を吹き送つて來る。ザワ〳〵と樹々の葉が風に搖ぐと露にぬれた白い光りが眼を覺したやうにキラ〳〵と瞬いた。

遠くで汽車の音がする。

短歌

途上（賞）

根岸元治

○あかねさす、むらさきことに、うらぐはし
武庫が嶺つゞき、入日映ゆれば

○ほのぐらき、うぶすの杜の、まつかげに、
祭のとんど、燃ねさかりけり

○左義長の、音すさまじき、もりの中に、ほのほを追ひて、獅子は僛ひつゝ
みのりたる、垂り穗を、さやに刈り入れつとんどに年を、祝ふ夜半かな

○晝眞中、驛夫はふかく、うまいしぬ、貨車にうそぶく、牛あはれなり

○遠くより、とほくに去ぬる、牛のむれ、うとましく吼ゆ、八月眞ひる

○ひるさがり、かぎろひもゆる、汽車のみち
あほむらさきの、蜥蜴もこよへり

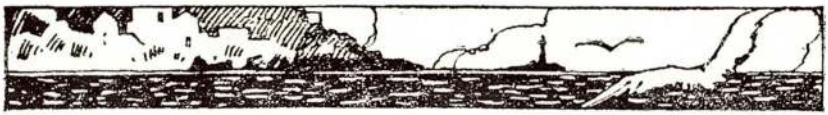
○四つ辻に、立てる巡査の、そのおもて、血のいろもなく、利目裂きてあり

○グレシヤの、塑像のごとき、をごそかの、肉をもちたる、石工たふとし

○さしがねの、目盛りも、さやにみねざるに
朝はとくより、はたらく石工

○ストライキ、おこりてけふも、人は來ず、
いしきり工場、さびしくありけり

○ストライキ、きのふもけふも、ひとの來ね



ばいとも寂しき、石小屋の中

○くだつ世は、師弟の絆、いとうすく、吾かあたゝかき、こゝろかよはず

○十年を、もだしかせぎし、彼もまた、ちゝとなりけり、秋ざめの頃

○これやこの、あゆみきたりし、吾があとをかへりみらる、誕生のあさ

○いたましく、くるしきおもひの、あとを多みいはけかりし、吾が靈こひし

○あかじみし、白衣に下駄を、へらしつゝ、失業したる、鮮人のむれ

○あくせくと、小買ひの米の、たつきにも、のこされてゆく、鮮人あはれ

○路しらぬ、朝鮮人に、みちをしへ、でんしやきつぶを、やりて別れぬ

○そこばくの、飴をならべて、ひさぎ居る、朝鮮人の、ふける笛の音

西大寺　茅上眞人

○みはるかす、かぎりつゞける、あを田なかふりたるもりは、さいだい寺かも

○あを田みち、うねりつゞける、かたはらに見のさびさびし、にしのおほでら

○おほみだう、あれしまゝなる、さいだい寺くる人もなく、こほろぎすだく

○あきの日も、くれてさびしき、さいだい寺もんせんとほり、牛ぐるまゆく

○あきの田を、わたるゆふかぜ、うすさむくもんせんとほり、ゆくひともなし

折々の歌　今西春正

○こすもすの、花をゆるがす、そよかぜに、さ庭すゞしも、ゆふかげに立つ

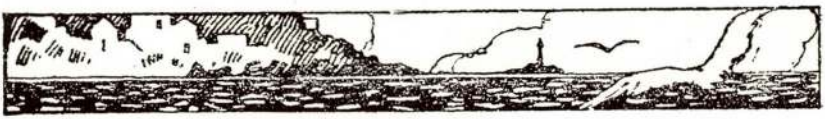
○ゆふかぜに、すそひるがへし、うら畑の、さゆりの花をみるが、すがしさ

○あてどなき、むだごとのみを、思ひわび、一夜はねずて、もだねぞ吾せし

わが妻は、なにをわぶらむ、さみだれに、ぬのこもぬれず、いへに居ながらに

○年は早、四十路いそじの、中つ瀬の、流れてすぎし、月日くやむ吾れ

○ともすれば、心よわりて、うらなげく、ち



いさき智慧を、すてはしつれど

○ふみわくる、みちはかはれど、睦魂の、たがひにかよふ、ことをこそ思へ

○きびしくも、子をしかりたる、その夜なかねがほうかゞふ、親ごゝろかも

○うまいせる、子らのねがを、みてあれば、つかれしさまの、なきがうれしに

○みる人の、なくもすなはち、吾たれり、こゝろのまゝを、うたふわが歌

○はなすにも、みするにもあらず、吾ひとりこゝろのまゝを、よめる歌これ

○世のことは、わすれはてたる、おもてにて花つくりする、翁ともしも

○神さぶる、人の氣もなき、山すそに、花つくりして、翁くらすも

○あめがしたの、人みなほぎぬ、あきつ神、大御あれ日の、生く日の足る日（天長節）

○むさぼりの、ふかき獨逸をこらし得て、いくさはやめぬ、神のみこゝろ

○あめがした、いやことおほし、太綱の、はりたる心に、國たみは在れ

秋の歌　同　人

○祝ひ餅、ゆたけくつきて、村里の、うぶすな神の、まつりにぎはし

○にひ餅を、月がた日がた、とり〳〵に、いはふ田伏の、秋まつりかも

○わが宿の、となりの垣の、木犀の、にほひへだてず、かそけきろかも

○しく〳〵と、小雨ふりいでて、ふくるまゝ虫の音わびし、庭のくまぐに

○村の子が、かぜに吹きちる、いてふ葉を、ひらひあつむる、うら薮のかげ

○ゆふ月の、ひかりさやけみ、みはるかす、西よりわたる雁の一つら

○青柿の、葉かげの庭に、さきまさる、あさがほの花、みらくたぬしも

○吾そのの、木ぬれたかなく、百舌鳥の音もさびしげにきく、時となりにけり

○河内野はゆく目にうれし、みるかぎり、むかしながらの、ゆふの白花



上杉樂鳥

○

○山の峽、汽車入りゆけば、まぢちかき、杉生の杜に、啼くほとゝぎす

○朝すがし、たんぼのくろに、草刈れる、わかき農夫の、鎌のひらめき

○冬帽子、かぶりてひとり、いでゆけば、街はゆふ日に、やかれてゐたり

○身ぬちみな、血のあたゝまる、こゝちよき あめのゆふべを、長湯などして

○流れ木を、ひらふ人あり、磯のうき、沖ぐもりして、ふゆちかみかも

○からからと、いかりのおとの、あはたゞし 秋の悲しさ、身にしむがごと

汀舟子

○

○吾もまた、人の父とは、なりにけり、こと さらめきし、けふの思ひに

○憂ひ事、かずかぎりなく、ありといへば、われます〳〵に、い向ひゆかむ

○添乳して、うと〳〵ねむる吾妹子の、まぶたのあたり、ややふけにけり

○むつりなく、吾が子の顔を、みる妻の、ひとみの奥に、ひかる涙は

○さま〴〵の、おもひはいよゝ、しげくして 秋の長夜の、だづきなきかな

□短歌を募る

一　詠草は成べく原稿紙へ明瞭に書かれたし

一　一首にても五十首にても差支へなし

一　優作者へは其賞あり

一　撰者は出詠者の質問に應答す可し

市外天下茶屋山松橋畔

安江不空

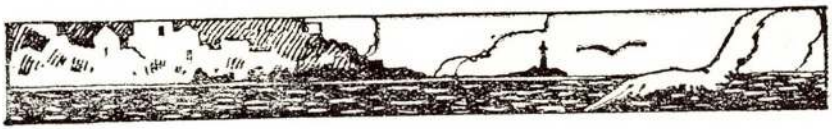
川柳

柱

花木天平選

演舌をすまし柱の蔭に立ち　萬六

くらがりの壁から遠い柱なり　やよひ



犬くゝる紐が柱に殘つてる　馬猿
棟上げのまづ一本の柱には　歷々
めんまいの魂が柱を抱かされる　才三
いつまでも母は柱の裏で泣き　明石
境内の杉ほど太い宮柱　花亭
留守番が柱時計のチヂを巻き　大名
燒け跡の柱のシンがまだ煙り　青柳
置き替へる簞笥に邪魔な柱也　百林
柱からうしろ二等のうらめしさ　壽々女
落書の柱墓ほど彫つてある　甲乙
電話室に大黒柱削られる　白面
二代目が四本柱に肩を見せ　左右
新築に手形のついた柱なり　太平
商賣をかねて柱を二本切り　蝶羽
十代も前の柱で腕を組み　天平

懸賞川柳募集

○次號課題　二階
○句數無制限
○締切期日毎月十五日

○「建築と社會」原稿と必ず表記の事
○賞金進呈
○住所氏名明記ありたし
投稿所　大阪市外南海線
住吉菖蒲園内
花木天平宛

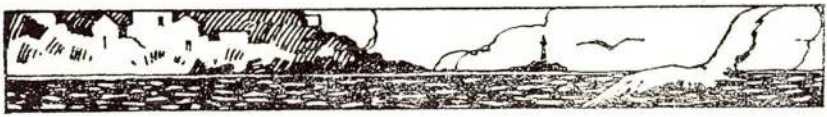
俳句を作つてみやうと思ふ人に　(二)

蘆田秋双

○全くの初心者諸氏から熱心に多數投稿がありました。その中から二三の句に對して說明致しましやう。

好晴に洗濯をする女かな

解釋。雨の日や曇た日が數日續いたので、殊に子供の多い家などは澤山洗濯物がたまつた。女中は毎日〳〵天を仰いで只管にその晴れを待つてゐると、昨夜の風で今朝は拭



ふたやうな快晴で日がキラ〳〵と輝いてゐる。女中はいそ〳〵として大きな盥を持ち出して洗濯をしはじめた。朝の日ざしはいつの間にか日南となつて了つた。といふ處を昨者は見たまゝ句にしたのです。

批評。調子はこれでよろしいが、内容に少し不完全な點があります。それは第一にこの句には季題がありません。これは前號にも申した如く、一體俳句といふものは季題趣味とそして五七五の音調によつて形成されたもので、この中の一つを缺いでは完全な俳句とは申されないのであります。

「季」とはどんなものかと由しますと、時候の變遷につれて起る自然の現象を申すのです。

暑くて堪らなかつたのが追々涼しくなり、やがて月見の頃にもなれば野邊や庭などには優しい桔梗や、芒や、萩、雞頭、野菊が咲き出します、すると夜になれば虫がいかにも秋の情趣をそゝるやうな清い美しい音に啼き出す、水のやうな月光が凝つたかのやうに樹の葉、草花などに露の玉を宿します。夏の夜に引換へて今は非常に夜が長くなつたに連れて、粛々と夜寒を感じて來るやうになる。こんな事を云つてゐたら際限がありませぬが、つまり只今申した月見だとか、桔梗、萩芒さては虫、露夜長夜、夜寒などの類が即ち季題といふのです。

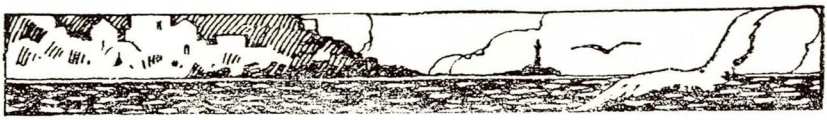
これはほんの秋の季題の一部分を申したのです。

（季題を委しく知りたいと思ふ人は俳諧歳事記といつて季題のみを集めてこれに一々委しく解説した本があります。）

がこの季題に基いて感じた事見た事を五七五といふ律によつてその感想を詠じてゆくのです。

何故この季題が俳句に最も必要かと申しますと、季題がなければ、その詠じた事が一體何時の出來事か解らない事になる。即ち

好晴に洗濯をする女かな



の句を御覽なさい。春であるか、夏であるかまた秋だか冬だか判然しない。判然しなければ判然しない丈、その句には配景がない事になる。のみならず無季の句とすれば事件そのものが全部であるから、隨てその出來事が餘程妙らしく、又人を驚かすやうなものであつても、それは十七字といふ電報の文章で何等詩的感興を喚び起さない。若しその句に季題を取扱へばどうなるか、試みに

秋晴に洗濯をする女かな

とすればこの句の意味はどうなるか、少しくそれを述べてやう。

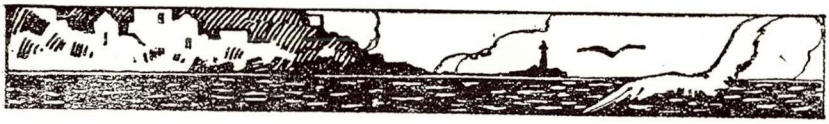
カラリと晴れた秋の空は一點の雲もなく高く澄み切つてゐる。今朝着換へた袷は肌にすが〳〵しいが、何となくうすら寒さを覺ねしめる。松蕈がよく出さうな秋雨が三日許り續いたので褌襦袢やなんかゝ澤山椽の隅につくねてあつたのを取出して洗濯し初めた。水は秋の冷さをもつてゐる。

どこからとなく赤蜻蛉が一つ飛んで來て、ツト盥の椽へ羽を休めやうとしたが、洗濯の手が急に動いたので蜻蛉は驚いてサット高く飛び上つたが、暫くしてまたやつて來て此處はバケツの中へ洗ひ上げた白い敷布の上に止まつた。和らかな朝の日ざしはいつの間にか日南となつて洗濯をしてゐる女の額に汗をにじませた。

かくの如くたゞ好晴の好を秋にしたゞけでこの句にこれ丈配景が付いてきて非常に面白くなる。然し尚これでも缺點がある。それは何かといふと場所が稍不明瞭である。裏戸の井戸端でやつてゐるのか、小さな家の戸口一杯に盥を据えてやつてゐるのか、裏長屋の共同栓の水道で二三の女が尻を並べて洗濯をしてゐるのか、又は川の流れで洗つてゐるのか判明しない憾みがある。それを

コスモスの晴れを洗濯する女

秋の川の晴れを洗濯する女



裏庭で洗濯するや秋の晴

とすれば場所が明瞭になつて來ます。場所が明瞭になれば一層その配景が現はれて來て、色彩が益々濃くなつて來るのです。然し句によつては必しも場所を明瞭にせなければならぬとのみに限らないのですが、それは敢て場所そのものを必要とせない特別の場所に限るのです。だから句を作る上に於て場所を現はす事を忘れてはなりません

募集俳句

道

（冬季）

蘆田秋双選

この道を行けば橋ある枯野かな　神戸　白菊

しぐゝるや街道に繋ぐ馬の尻　大阪　不退

木枯や道端に炭團干す老母　門司　す虫

舊道の茶店さびれて冬淺し　大阪　萩山

道芝を燃しつゝ霜白きかな　同　夏木

踏切を越へて泥道氷るかな　同　十果

この池に道は盡きたり冬の雁　同　水まけばすぐ氷る道となりにけり　六甲　山石

道曲る處岩あり冬紅葉　大阪　耳山

伐り倒されし大樹に道の寒さかな　同　夢仙

山道の落葉深きに時雨かな　同　朶雲

道狹ふなりし裏山落葉かな　池田　舟下

兎の糞道芝枯れてありにけり　大阪　露草

長々と道一筋の苅田かな　京都　汀舟

道盡きて橋なき川の紅葉かな　同　巴人

道のなき處を上り枯芒　大阪　同

道の眞中に井戸ある村や冬木立　同　泊舟

道端の草は焚火に燒かれけり　同　一秋

家毀つ埃が寒く道芝へ　同　丁々

いやな道を通らねばならぬ寒かな　同　蘆山

道行く人に風吹き起る落葉かな　同　同

道端に寢る牛に冬の日ざしかな　同　春々

砂利ひきし道に下駄割り冬の月　同　金春

道普請短き日とはなりにけり　同　同

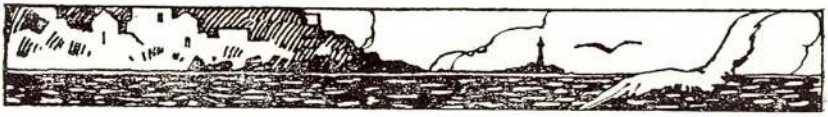
凸凹の道車行く寒夜かな　同　紅々

雨に洗はれし道の白さよ冬の風　同　同

皺に沿ふて道あれど落葉深きかな　同　同

冬柳道に片寄り葉焚きぬ　同　同

道に捨てし文殻にふく北風よ　同　同



道に干す傘に小春の日南かな　同　社人
阪道となりて車下る冬夜かな　同　大都
冬の月忘れ物して道遠き　同　同
道忘れ來て心寒きかな　同　寒山
大道に灰をすてきし霜夜かな　同　同
道連の足の速さやほろ時雨　同　石佛
道に躓くものゝ響きも霜夜かな　同　同
落したる物道になく霜夜かな　同　木刀
枯野遠く家の燈見わつ道標　同　同
町はづれ冬木並ぶや大師道　同　井雨
道づれの人と別れて寒きかな　大阪　同
街道は埃に白し散紅葉　同　同
川に沿ふ狹き道なり冬木立　同　堯天
夜道戻るに女に出逢ひ冬の月　同　同
早梅の白き香こぼす夜道かな　同　同
山茶花の道なつかしき故郷かな　同　同
冬の雨の道の泥濘暗きかな　同　大石
冬枯の堤につゞく道白し　同　同
道を隔てゝ話せる家の小春かな　同　大雨
平原に延び行く道や冬の空　大阪　同
道端の網あむ轆轤落葉かな　同　同
落伍して道に迷へる寒さかな　同　同

札枯や高札立てゝ道普請　同　骨斗
この道へ來れば富士見ゆ小春かな　寶塚　同
打水に紙屑氷る大路かな　同　同
藁屑も馬糞も凍てゝ野道かな　同　同
冬枯の道を急がぬ乞食かな　同　同
溢れ溫泉の湯氣の白さや道の霜　同　同
横道をせねば時雨にあはぬかな　同　半山
冬晴や荷車輕き煉瓦道　同　同
電車道に寢てゐる犬や冬の月　同　同
坂道に車を下りし時雨かな　同　同
粥施行霜白く下りにけり　同　同
風に電柱の鳴る大路かな　大阪　鳩口
街道は月光に白し落葉吹く　同　同
木枯や埃渦巻く曲り道　同　同
畦道の霜や土塊ゴロとある　同　同
から〳〵の道踏埃らず凩す　同　同
寢靜まる都大路の落葉かな　同　鞍上
道を行く我息白し今朝の霜　同　同
田舊道を急ぐに時雨きたりけり　同　同
野道行く提灯をうつ霰かな　同　同
山道の荒れはてにけり散る紅葉　同　同
牧岡へ一筋道や枯尾花　同　同



街道に落ちし炭團の一つかな　大阪　尚巾　同
國境の標に道知る枯野かな　同
水涸れて村の近道ありにけり　同
霜深き道や落葉の音ありぬ　同　同
往來なくなりし冬野の道細し　同
氷張る北風の道となりにけり　同
重ね着の重たき冬の夜道かな　同　大津
學校へ一筋道や霜白し　大津　大津
坂道を牛追ひ行くや霜朝日　同
停車場から新道出來し冬田かな　同
大淀川に沿ふて道ゆく小春かな　同
舟を上りて山王道や冬木立　同
倉つゞく波止場の道や冬の月　同
御陵への道掃かれたり冬木立　同
道問ふて物買ふ冬の茶店かな　大阪　秋聲
玄關までの道の八ッ手は花咲きぬ　同
道々をもの考へて冬夜かな　同
道普請に通れす時雨する夜かな　同
街道の往來に閉めし障子かな　同
道に踏まるゝ藁屑凍てゝ尖れかな　同
道端に雞箱乾すや冬日南　大阪　青洋
日當りを捨ひ歩くや道の冬　同

落葉堆く掃寄せてあり墓の道　同
店を出て道の暗さに時雨かな　同
舊道の茶店や冬の菊淋し　同
燒場への一筋道や枯尾花　同
朝粥の腹温かや道の霜　同
風に向ふ唇寒き野道かな　同　幽谷
道の邊の小流光る冬日かな　同
大演習道一ばいに刄銃かな　同
岐れ道にためらふに落葉頻りなり　同
冬ざれの山道鳥の歩くかな　同
朝霜の道踏みゆくや神詣　同
霜柴のあまりに煙る焚火かな　同
眞中を踏みならす道や砂利の霜　東明　野の人
道遠し夕日の中の冬木立　同
大道を行かず斜に枯野かな　同
絶壁に沿ふたる道や冬の月　同
近道に山迫りくる冬紅葉　同
疲れたる足に踏む道の霜威かな　同
道連の女美くしき枯野かな　同
足音の夜道となりし炬燵かな　同
風の路に拾ひし佛かな　岡町　菊雄
枯野道を遠く塩鮭來りけり　同



都大路の師走の一日雪ふりぬ　同
お六櫛木曾路さびれぬ冬木立　同
冬ざるる種物店の日南かな　同
寒念佛凍てつく道の響きかな　同
谷中より近道ぬけし寒念佛　同
曆賣大路を寒く來りけり　同
木枯の野道を夜學戻りかな　同
山路を越へて集ふやクリスマス　同
時雨るゝや奈良街道の馬旅籠　同
時雨るゝや海路をとりて伊勢の旅　同
木枯に吹かるゝ道の巡査かな　同
公園の並木落葉や道の霜　大阪　放郎
泥道の泥に凍てつく落葉かな　同
雪の旅馬乘り棄てゝ道嶮し　同
芦の中に道なくなりぬ氷雨寒し　同
枯芦に氷ひた〳〵の小道かな　同
公園の道廣々と落葉かな　同
霜光る朝の道や人の呼吸　同
冬の月に道砥の如し眠る街　同
道は雪に往來杜絶ぬ暮れにけり　同
子等は道の雪に騒げり朝の晴れ　同
峯の雪見上げし道の時雨かな　同

凩の闇に消ゆ去る道さびし　同
裏道の雪の夜を鳴く狐かな　同
燒芋を道芝に落とし行きし子よ　東京　無外
國境となる坂道や冬木立　同
寒垢離や山道下る眞つしぐら　同
燒芋に貧道を說く君なりし　同
小春日や俵など置く道普請　同
寒菊に道服着たる翁かな　同
妙義道象ごる庭や石蕗の咲く　同
道端の兎の糞や枯芒　同
北風吹くや妙義に登る道嵯峨と　同
故郷の道はるけしや山眠る　同
冬ざれや松原道に砂うきて　同
入營の村道清く掃かれたり　同
冬ざれて道聽途說なかりけり　同
小春日や物に落ち付く道埃　同
道服を來て木偶めくや椙の主　同
貧道は椙に佛を彫りにけり　同
冬の雲蒙古に道はなかりけり　同
朝霜に焚火をするや道普請　大阪　木羊
道端に返り花あゝ日向かな　同
道狹くならぶ荷馬車や村時雨　同



道端の山茶花一つ日に咲きぬ　同
曲り道夜番も居らぬ霜夜かな　同
街道に凧揚ぐる子やほろ時雨　同
凩に足音高き歩道かな　同
道ならしの大石ありぬ枯柳　同
枯野廣く經營地となり道出來ぬ　同
裏道を抜けし機敏や火事見舞　同
國道の川沿ひ長しなく千鳥　同
岐れ道里の燈寒く落葉踏む　同
裏道を嫁の荷が行く寒夜かな　同
大道の打水光る寒さかな　同
道ならす大石凍てぬ牛の息　同
朝霜の橋より道へ轍かな　同
御百度をふむや跣足に道の凍　同
枯薮の亂れし道や冬の風　同
飴賣の道に眠れる小春かな　同
沼涸れて近道となり今朝の霜　同
近道の鐵橋渡る寒さかな　同
朝市の道一ばいに蕪なか　同

秀逸

この道へ來れば富士見ゆ小春かな　寶塚　骨斗
街道に落ちし炭團の一つかな　大阪　鞍上
道に蹲くものゝ響きも霜夜かな　同　石佛
冬の雲蒙古に道はなかりけり　東京　無外

近道の鐵橋渡る寒さかな　大阪　木羊
朝市の道一ばいに蕪かな　同

人

大道を行かず斜めに枯野かな　東明　野の人
朝粥の腹温かや道の霜　大阪　青洋

地

小春日や物に落つく道埃　東京　無外

天

街道の往來に閉めし障子かな　大阪　秋聲

選者　陰

道つくる人に時雨れてきたりけり
街道へ崖がくづれぬ冬の雲
道遠くなりしより訪はず冬構
炬燵出て道問ふ人を敎へけり
道に踏まるゝ馬糞に霜をおく夜かな

募集俳句

課題「建築」建築に關する事一切（冬季結）
締切　十一月十七日
句數　一人三十句以內
住所及氏名明記の事
賞金　天、地、人三位に呈す
投稿所　大阪北區東梅枝町
蘆田秋双宛



〔時報〕

法案

◉建築組合法案内容

内務省は建築組合法案を制定すべく社會局に於て之が立案中なりしが此程大體の成案を得たれば更に其の細目に亘りて研究を重ね完成の上は省内參事官會議の審議決定を俟つて法制局に廻附し法制局の審議を終了せば今冬の第四十四議會に提出すべき筈なるが近時工業の發達都市の膨脹に伴ひ人口集中の結果都市に於ける家屋賃貸料の騰貴を來し借家人をして無慈悲な家主の下に不當に高き家賃を支拂ひ不衛生なる家屋に住するの已むなき苦境より之を救はんが爲め建築組合を設置し住宅難を緩和せしめんとするに在り而して有建築組合法案の要點を示せば

▲本法に於て建築組合と稱するは組合員に小宅住を供給する目的を以て設立する社團法人にして組合の有限責任とし組合財産を以て其の債務を完濟するを能はざる場合は組合員の全員が其の出資額を限度として責任を負擔す

▲建築組合は七人以上にあらざれば設立することを得ず

▲組合の設立者は定款を作り事業計畫者と共に之を内務大臣に差出し設立の許可を請ふべし

▲定款には左の事項を記載し設立者擧名捺印すべし

(一)目的(二)名稱(三)事務所(四)組合員の有する出資口數(五)出資一口の金額及び其の拂込方法(六)第一回拂込の金額(七)剩餘金處分及損失分擔に關する規定(八)準備金額及其の積立方法(九)組合員たる資格に關する規定(十)組合加入及び脫退に關する規定(十一)組合の目的たる事業の執行に關する規定(十二)存立時期又は解散の事由を定めたるときは其の時期又は事由

▲別に規定あるもの、外左に揭ぐる事項は組合員總會の決議を經るを要す(一)經費の收支豫算(二)起債並に其の方法利息の定率及び償還方法(三)事業報告及び收支決算の承認(五)組合の合併(六)定款に定めたる事項(七)其の他理事に於て重要なりと認めたる事項、組合合併は解散の決議の例に依る

▲内務大臣は所定の條件を具有する建築組合に補助金を交附することを得等なるが建築組合は産業組合に類似せるものなれば其の

規定は大體に於て産業組合法に則り又民法の社團法人に關する規定及び産業組合法の關係條項を準用せりと。

◉道路取締令案內容

第一條　道路を通行する者は左側に依るべし

第二條　歩道、車道等の區別ある道路に於ては其の區別に從ひ通行すべし
隊伍、神輿、葬列其の他の行列は車道を通行すべし但し兒童、幼兒の隊伍は此の限にあらず
小兒車は歩道を通行すべし

第三條　牛車馬車自動車其の他の重き車輛は歩道を横切るべからず但し通路に特別の裝置ある場合又は最寄の警察官吏の承認を受けたるときは此の限にあらず
牛、馬、諸車等は斜に道路を横切るべからず
地方長官必要と認むるときは交通頻繁なる道路に於て特に指定したる場所の外區域及び時間を限り車道の横斷を禁止することを得

第四條　牛馬諸車道等行逢ふときは互に左方に避讓すべし

第五條　牛馬諸車等前方に在る者を追越す場合は止むを得ざるときを除くの外前者は左方に避け後者は其の右方を通過すべし
前項の場合に於ては後者に於て音響器を鳴らし又は掛聲其の他の合圖を爲し前者の避くるを待ちて進行すべし
牛、馬、諸車等電車を追越す場合は道路の狀況に依り止むを得ざるときを除くの外其の左方を通過すべし

第六條　進行中の消防車、郵便車、傷病人運搬車、及隊伍、神輿、葬列に對しては避讓すべし

第七條　牛、馬、諸車等は左の場合に於ては音響器を鳴らし又は掛聲其の他の合圖を爲し徐行すべし
一道路の交叉點、曲角其の他屈曲の場所又は雜踏の場所を通過するとき
二第三條第三項の規定に依り地方長官の特に指定したる場所を通過するとき
三歩道を横切るとき
四安全地帶の設なき停車場に在る電車の側方を通過するとき
牛、馬、諸車等道路隧道又は橋梁を通過するときは徐行すべし

牛、馬、諸車等交叉の場所に於て右折せむとするときは道路を横切りたる後右方に轉向すべし
第一項の場合に於て降客輻湊するときは牛、馬、諸車等は一時進行を停止すべし

第八條　牛、馬、諸車等は夜間燈火を用ひずして通行すべからず
地方長官は土地の狀況に依り前項に異りたる規定を設くることを得

第九條　鐵道又は軌道の踏切を通過するときは汽車、電車等の接近せざることを確めたる後通行すべし

第十條　牛、馬、諸車等は安全地帶內を通行すべからず

第十一條　道路の交叉點、曲角、隧道又は橋梁等に牛、馬、諸車等を駐むべからず
牛、馬、諸車等を駐むるときは其の左側端に於て之を爲すべし前項の場合に於ては牛馬等の奔逸を妨ぐに必要なる措置を爲すべし但し並木、道路元標、里程標及道路礎識等に之を繫ぐべからず

第十二條　荷車の輪帶幅は左の制限に從ふべし
牛　車　三寸五分以上四輪車に在りては其の前輪を後輪の二分の一迄縮小する

ことを得

馬　車　三寸以上同上

大　車　荷臺の面積十八平方尺以上のもの二寸以上

無限軌道其の他道路を損傷せざる特別の裝置を爲さざる車に在りては其の裝置の幅を以て前項の輪帶幅と見做す

第十三條　荷車の積載量は車體の重量を合せ左の制限を超ゆることを得ず

自動車　千四百貫

牛　車　四輪車五百五十貫其の他四百貫

馬　車　四輪車五百貫其の他三百五十貫

大　車　二百貫

第十四條　荷車の載荷容積は左の制限を超ゆることを得ず

一高　自動車に在りては荷臺より八尺其の他の荷車に在りては六尺

二前後の出副　荷臺より各二尺

三左右の出幅　荷臺より各一尺

自動車による積荷は之を車體の前後左右に突出せしむることを得ず

第十五條　地方長官は土地の狀況、道路、橋梁又は車輛の構造若は裝置に依り第十二條第一項第十三條及第十四條の制限に異りたる規定を設くることを得

第十六條　第十三條、第十四條の規定又は第十五條に基く命令に依る荷車の積載量其の荷車の客積の制限を超ゆる物にして分割すべからざる場合は出發地警察官署の許可を受くべし

第十七條　管理者は道路に關する工事の爲必要あるときは道路の通行を禁止し又は制限することを得

第十八條　地方長官は危險豫防上其の他の公安上必要と認むる時は道路の通行を禁止し又は制限することを得

警察官吏は危險豫防上其他公安上必要と認むる時は一時道路の通行を禁止し又は制限することを得

第十九條　道路を掘鑿し又は道路に物を置く場合には繩張、點燈其他危險豫防に必要なる裝置を爲すべし

第二十條　沿道の土地に物を堆積し又は立て置くときは倒壞、崩落を防ぐに必要なる裝置を爲すべし

第二十一條　道路又は沿道の土地に於て工作物を建設、撤去若は修繕し又は其の他の作業を爲すときは土砂、瓦石、竹木、金物等の道路に飛散又は墜落するを防ぐに必要なる裝置を爲すべし

第二十二條　警察官署は道路及沿道の土地に於ける工作物其他の施設及物件に付其占有者に對し危險防止其の他交通保全の爲必要なる措置を命ずることを得

第二十三條　道路に於て物品を運搬するときは其の飛散漏出墜落危險を防ぐに必要なる裝置を爲すべし

第二十四條　道路に於て乘馬又は諸車運轉の練習を爲すべからず但し交通稀疎にして危險の虞なき場所にては此の限にあらず

第二十五條　交通頻繁なる道路に於て兒童幼兒に遊戲を爲さしめ又は保護者無くして幼兒を步行せしむべからず

第二十六條　道路に於て煙火、空氣銃、吹矢の類を弄し又は投石、投球等危險行爲を爲すべからず

第二十七條　第二條第一項、第三條第一項第二項、第四條乃至第八條第一項、第十條第二十五條の規定に違反したる者又は第二條第三項の規定に基く禁止に違反したる者は科料に處す

第二十八條　第十一條、第十三條、第十四條、第十六條、第二十三條、第二十四條及第二十六條の規定に違反したる者、第十二條第一項の規定又は第十五條の規定

に基く命令に依る輪帶幅の制限に違反したる荷車を使用し若は同上の規定に基く命令に依る荷車の積載量、其の積荷の容積の制限に違反したる者又は第十七條、第十八條の規定に基く禁止若くは制限に違反したる者は拘留又は科料に處す

第二十九條　第十九條乃至第二十一條の規定に違反したる者又は、第二十二條の規定に基く處分に違反したる者は百圓以内の罰金又は拘留若は科料に處す

第三十條　前條の罰則は之を法人に適用す法人を處罰すべき場合は其の代表者を以て被告人とす

第三十一條　本令に規定するもの、外道路法第四十九條の規定に基く命令は地方長官之を定む

附則　本令は大正九年　月　日より之を施行す

本令施行の際現に使用する荷車の輪帶幅は大正十五年十二月三十一日迄本令又は本令に基きて發する命令の制限に依らざることを得

◉港灣法制定内容

内務省にては道路法の姉妹法たる港灣法制定に着手中なるが同草案は三十餘箇條より成り全國港灣を根本的統一せんとする頗る浩瀚なるものにて其の骨子とする點は從來各港灣には大藏省所管の稅關あり遞信省所管の燈臺あり水上署あり何等統一せる管理者なく衛生上警察上幾多の不便存すれば將來はそれ等を統一して東京、大阪、横濱、神戸及び關門海峽（下關及び門司）等を一種港とし内務大臣直屬の下に右各港に港灣管理局なるものを設け勅任の局長を置き一切の港灣事務を管理せしめ第二種以下の重要港にも夫々港灣局を設置し地方廳監督の下に該港灣を管理せしむべく改修後に於ける修築費負擔に就ては大體第一種港を國庫負擔とし第二種港を國庫より半額補助し尚地方の狀況重要の程度に依り適宜補助し得る事等なるが門司海峽は國防上他の港灣と同一に律する能はざる理由あれば同海峽のみに適用する特別港制定の議もあり何れ今議會に提案の運びとなるべし

◉勞働保險法調査

農商務省か勞働法案と共に非常の意氣込を以て調査立案を急ぎつゝある勞働保險法案は是非共今議會に提出すべく省内新設の勞働課が主として其の衝に當りつゝあるが大塚聯盟委員一行と歐米勞働保險の實施狀況調査の任を帶びて渡歐せる一戸事官よりも既に材料を送付し來り議會に提出前改めて機威ある審議を經るため關係官廳當事者及び民間の學識經驗ある斯道に明るき人士を網羅せる一機關を組織するとに内定せり而して必要あらは或は將來常設の評議會員とするやも知れず

都市計畫

◉大阪都市地方委員會

都市計畫第二回地方委員會は事業年度割を決定さるべき豫定にして府及び市當局は之が決定を見ざれば明年度豫算を編成する事を得ざるを以て急速に決定を希望しつゝあり多分來るべき會合に於て決定を見るべきも當初速に決定を必要とされつゝありし地域及び區域の問題は當分保留さるゝ事となりれり其原因は目下内務省に於て立案中なる市街地建築物法施行令に關する勅令案が近く發布され建築物法中最も緩なるものに例へば住居地域内には六十五尺以上の高さの家を建築する事を得ざる規程あれど之を他

の地域の如く百尺まで許可するとか或は建築物の空地住居地域は十分の六、商業地域は十分の八、工業地域は十分の七を超過する事を得ざるとかの規程となり居れるが如何なる場合に於ても十分の八迄許可するとふが如く彼の施行令中最も緩なるものを一般に適用さるゝ事となるべければ當分の間は地域を決定せず四圍の情勢より推し今後機會を觀て危險工業地域を各所に設け次いで商業地域住居地域をも決定せん方針なりと

◉建築監督官會議

六大都市建築監督官會議は十月二十日午前十一時内務省に開會武田（東京）阿部（視警聽）池田中西（大阪）井尻（京都）置塩（神戸）田中（横濱）津田（名古屋）各監督官並床次内相前田都市計畫課長其他建築技師出席床次内相より一場の訓示ありし後諮問事項建築施行令細則に就き協議せり尚該會議は引續き二週間續行劈頭床次内相より都市計畫は日本最初の試なれば其事業遂行に就き寛嚴其宜しきを制し世上の期待に背かざるやう留意せられたしとの訓示あり尚本會議は最初長期間に亘りて講習會的に開催の豫定なりしも曩に勅令を以て市街地建築物法の公布あり最近又之が施行規則を省令を以て公布する運びに至り其實施期日目睫に迫れるを以て其打合せを短時日に切詰めたる由にて二十一日以後に於ける市街地建築物法の講演は工學博士四田詳三氏專ら其任に當れり而して先づ左の指示協議事項につき意見を交換せり

指示協議事項

一、市街地建築物法施行及び同施行規則に基き縣府縣令の作製に關する件
二、市街地建築物法の施行に伴ひ在來の縣府縣令の整理改廢に關する件
三、各種地區の指定に關する件（住居地域、商業地域、工業地域、特殊地區（防火地區及美觀地區）指定調査に關する件
四、建築線の指定に關する件
五、建築工事中の建築物及び建築工事に着手せざるも設計ある建築物に對する取扱方に關する件
六、願出及び届出書類の形式及び受理の方法に關する件
七、地方廳認定事項の基準となるべき準則に關する件
八、建築物に對する各種統計の作製に關する件
九、建築臺帳の作製に關する件

都市現勢

◉大阪市内交通調査

大阪電氣鐵道部にては新に交通調査課を新設せるが其第一期事業として愈市内交通の調査を遂行し完全なる交通政策を確立せしむる筈なりとに就き關電鐵部長は語る此事は國勢調査以上の大事業で本式にやると其經費も數十萬圓を要す大阪市電の乘車人員は一日に百六七十萬宛であつて更に朔日十五日、日曜、祭日と普通の日とは其狀態全然違つてゐる然も其一日中でも出廳時と退出時と又は早朝夜間は各狀態が異り其中間の時刻又變つて來るので市電に對して系統が悪いとか配車が悪いとかの批難はあるが理事者としては現狀の不完全な事は勿論認めてゐるがさて然らば如何にして之を改良するかと言ふ問題になれば觀る人によつて夫々意見が異つて來るのであるされば結局大阪市の交通政策を確立するには先づ市内の交通調査を完成せねばならぬ國勢調査あつて完全な政治を望む事が出來ると同じく交通調査なくして完全なる交通政策は樹立しないのであるから第一期事業として之を行ふ計畫を樹てたものであるが莫大な費用を要する事であるから差當り堺筋南北線築港線等の樞要地區に係員を配つて漸次本式に調査を完成したいと思ふ」と

◉大阪市の國勢調査人口

大阪市の國勢調査は莫大の費用と長日月を要して宣傳に努めし結果十月一日の當日は頗る好成績を擧げ爾來各區役所で檢査中な

りしが其結果は十月二十五日迄に全部市役所に送達し來れるを取纏めた上、十一月八日頃迄に府縣へ申達する事となりあり調査の結果は驚く許りの減少を示し

西　區　三十七萬二千餘人
南　區　三十七萬二千餘人
東　區　二十萬一千餘人
北　區　二十九萬一千餘人

計百二十三萬六千餘人之を大正八年末の調査百五十八萬三千六百五十人に比すれば三十四萬七千六百五十人の減少なり就中南區の如きは十二萬餘の減少にして當局も意外の感に打たれて居たり勿論之れは大阪市のみにあらずして大都市の人口は殆んど減少しあり其原因は小部會に比して調査が困難な爲めにして、神戸、京都、東京の各都市も減少してゐる模樣なり

社會施設

◉大阪市營住宅決定

既報監獄跡敷地に建設すべき市營住宅百九十二戸は甲普通住宅百八戸（家賃二十八圓）乙店舗六戸（家賃四十八圓）丙一店舗四十二戸（家賃三十二圓）丙三十六戸（家賃三十四圓）と決定したり

◉低資割當確定

地方における社會事業の助成を期するため内務省に於て職業紹介所に對し新たに低利資金五十萬圓を融通すべき事は既報の如くなるが其割當地方も京都市▲横濱市▲神戸市▲佐世保市▲甲府市▲山口縣厚狹郡▲同縣熊毛郡▲松本市尙右市郡に對する資金融通額は未だ決定せざるも大體其要求額の半額平均は融通さるゝものゝ如し而して右市郡は右低利資金を以て職業紹介所の增設並に既設のものに對する內容の完備を圖る次第なるが內務省は爲に各府縣に對し現在の職業紹介所の設備を以てしては到底實効を收むる事困難なるのみならず國際勞働總會の決議せる失業に關する條約に見るも將來益々公設無料職業紹介所の必要を感ずる次第なるを以て主なる都市其他必要なる地方に於いては之が設置をなし且相互聯絡統一を圖り以て失業者救濟に努むるを要するの意味の通牒を發したると同時に其充實方針は職業紹介所の附帶事業として簡易食堂共同宿泊所兒童預所等を經營せしむべしと云ふにあるを以て低資の融通實施次第各府縣にては直に附帶事業の經營に着手すべしと云ふ

學事

◉京大統一的改築

京都帝國大學現在敷地約十二萬五千坪に達し其間に配置建築されし建物總坪二萬四千坪にして之が爲に要せし金額は約二百萬圓に達せるかこの建物中煉瓦造の分は僅かに四千八百坪に止まり殘り一萬九十餘坪は木造にして何時かは改造を要するものなるか大學建築費はこれ迄大學の膨脹に從つて適宜に增築をなせし關係上今日にては學內の建物に統一なく醫學部は一定の方針により一團として建設されし故に秩序立ちあるも本部に至つては雜然として統一なし理學部の物理學教室の西南端にあり他の教室は東南邊即ち全然反對の方向にあり工學部も土木教室は北の方に實驗室が多くの建物を距てゝ南の端の方に電氣工學及機械學教室の裏手には小便室物置等何等の方針も無く建てられて纏まり付かず道路にしても理學部の化學教室等は入口すら何處やら判らぬといふ有樣なり爲に新規に道路を造ること、木造家屋の改造毎に一定の方針の下に之を整理せんとするは大學當局の希望にして之に要する金額はザット五百萬圓に達するといふことなり當分の間に合せに道路丈けは東裏門より眞直に本部前を通ずる幹線道路に合するものと土木學教室と建築學教室敷地との中間を通ずる道路を作り新築の生物學教室への交通を便にせんとの計畫を立てあり要するに京都大學の內建物の整理は一大事業なるが將來改築新築の場合には一定の方針の下に統一あるものと爲さん希望にて目下係員の手に於て研究中なりと



編輯

△種々なる事情で本號は大層發行が後れましたが、來月號は取りかへすべく今より手順してゐますから、折角御諒恕を願ひます

△後と一回發行致しませば、茲に第四輯となりますが、來年一月號よりは内容外觀に一大進展を爲すべく計畫中でムいます。會員各位よりも一月號に何なりと御寄せの程を切に希望致します。

會合

◉理事會

日時　十月五日正午——午後二時
會場　大阪倶樂部
出席者　片岡、宗、葛野、吉井、設樂各理事、波江、江村
記事　(一)別項の通り新入會員の詮衡
(二)講習會、第三回秋季大會、建築展覽會等擧行に就て打合せを爲す。

◉臨時理事會

日時　十月十三日正午——午後二時
會場　大阪倶樂部
出席者　宗、設樂、葛野各理事、江村
記事　(一)講習會及秋季大會施行上の打合せ(二)別項新入會員の詮衡を爲す。

◉講師打合せ會

日時　十月十八日午後六時半——同八時
會場　大阪倶樂部
記事　講習會施行順序等に就て打合せをなす

◉例會

日時　十月二十六日午後六時半——九時半
會場　日本建築協會事務所
出席者　葛野、設樂、吉井各理事の外壹百名但し當日は特に終身賛助員、特別賛助員、普通賛助員にも通知を發し、仍て之等の來會者も多かりき
記事　京都帝國大學工學部助教授工學博士天沼俊一氏の『法隆寺古建築物に就て』と題する講演ありたり

◉臨時理事會

前記講演終了後同所に於て臨時理事會を催し別項新入會員の詮衡をなせり
出席者　葛野、設樂、吉井各理事及江村

會員消息

◉新入會員

前記の各詮衡に依りて左の通り新入者ありたり

（會　員）　横濱勉君
（終身賛助員）　上瀧辨吉君
（普通賛助員）　丹下敏行君、大坊榮助君、筒井武夫君、清永倉八君、伊藤武夫君、松井英一君、守山廉藏君、青木立三君、西脇秀太郎君、荒木貞幹君、高村經恭君、奥野時三君、左谷米三郎君、中山伊勢市君、梅原格三君、岸田宣一君、石井鶴松君、村上正直君、檜山一男君、梶本福太郎君、若宮虎吉君、西村圓二君、米倉威夫君、平木錢治君、川村種三郎君、雙田萬次君、木南文太郎君、藤井潔君

◉渡　米

日本建築協會理事長片岡安及會員安井武雄兩氏は、豫て報告せる通り十月十一日横濱發渡米されたり

◉叙任及辭令

當協會會員中今回左の叙任及辭令ありたり
（十月九日官報）

兼任都市計畫地方委員會技師
　司法技師從五位勳六等　横濱勉
叙高等官三等
任京都府技師
叙高等官六等
　井尻巽雄

兼任兵庫縣技師
都市計畫地方委員會技師正六位　置章
（十月十三日官報）

大阪地方委員會勤務ヲ命ス
都市計畫地方委員會技師　横濱勉
補建築監督官兼工場監督官
大阪府技師　池田實
京都府技師　井尻巽雄
大阪府技師　中西甚作
補建築監督官　兵庫縣技師　置鑑章
（十月十五日官報）

叙勲三等授瑞寶章　正五位勳四等　池田宏

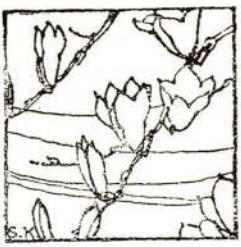
◉住所變更

（會　員）　（移　轉　先）
内藤　榮君　東京府豐多摩郡西大久保二〇七根緒正安方
辰野　政二君　大阪市西區阿波座三番丁二九番地
武田　五一君　京都市吉田本町二三
長谷部銳吉君　兵庫縣川邊郡小濱村米谷字藏座西
宮本　金七君　大阪府下羽衣今在家七九四
藤本　好雄君　奈良縣吉野郡下市吉野工業學校
上野　肇君　東京市小石川區林町四一番地
（普通賛助員）　（移　轉　先）
土村　壽吉君　東京市京橋區新榮町三丁目一番地
宮崎三之助君　神戸市平野澁山町一〇ノ七
渡邊　義三君　大阪府西成郡千舟村但一三
中村　一三君　京都府北舞鶴北吸官舍乙十六號中村尹男方

寄贈圖書

建築雜誌第三四輯第四〇五號（建築學會）
建築世界第十四卷第十號（建築世界社）
住　宅　第五卷第十號
材木新聞（毎號）
建築評論　第二卷第九號（建築評論社）
會　報　第五號（日本工業俱樂部）
建築と新材料　第二號（其　社）
新住宅　九月號（洪　洋　社）
帝國鐵道協會々報第二十一卷第八號（帝國鐵道協會）
土木建築　第三卷第十號（其　社）
商工時報　第三十一號（大阪市役所）
通俗衛生　第二六五號（大阪府衛生會）

市街地建築物法施行令



市街地建築物法施行令

（大正九年九月廿九日勅令第四三八號）

第一條 建築物左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ住居地域内ニ之ヲ建築スルコトヲ得ズ。

一 常時十五人以上ノ職工ヲ使用スル工場、常時使用スル原動機馬力數ノ合計二ヲ超過スル工場又ハ汽罐ヲ使用スル工場但シ行政官廳住居ノ安寧ヲ害スル虞ナシト認ムルモノ又ハ公益上已ムヲ得スト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラズ

二 五輛以上ノ自動車ヲ常時收容スル車庫

三 劇場、活動寫眞館、寄席又ハ觀物場

四 待合又ハ貸座敷

五 倉庫業ヲ營ム倉庫

六 火葬場

七 屠場

八 塵埃燒却場

九 前各號ニ揭クルモノヲ除クノ外行政官廳住居ノ安寧ヲ害スル虞アリト認メ命令ヲ以テ指定スルモノ

第二條 建築物左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ商業地域内ニ之ヲ建築スルコトヲ得ス

一 常時五十人以上ノ職工ヲ使用スル工場又ハ常時使用スル原動機馬力數ノ合計十ヲ超過スル工場但シ日刊新聞印刷所及行政官廳商業ノ利便ヲ害スル虞ナシト認ムルモノ又ハ公益上已ムヲ得スト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

二 前條第六號乃至第八號ニ該當スルモノ

三 前各號ニ揭クルモノヲ除クノ外行政官廳商業ノ利便ヲ害スル虞アリト認メ命令ヲ以テ指定スルモノ

第三條 建築物左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ工業地域内ニ非サレハ之ヲ建築スルコトヲ得ス

一 常時百人以上ノ職工ヲ使用スル工場又ハ常時使用スル原動機馬力數ノ合計三十ヲ超過スル工場但シ第一條第一號但書又ハ前條第一號但書ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラス

二 左ニ揭クル事業ヲ營ム工場但シ行政官廳衛生上有害ノ又ハ保安上危險ノ虞ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

イ 銃砲火藥類取締法ノ火藥類ノ製造

ロ 鹽素酸鹽類、過鹽素酸鹽類、「ヒクリン」酸、「ピクリン」酸鹽類、黄燐、赤

燐、硫化燐、「カリウム」、「ナトリウム」、「マグネシウム」、過酸化水素、過酸化「カリウム」、過酸化「ナトリウム」、過酸化「バリウム」、硫化炭素、「エーテル」、「コロヂウム」、「アルコホール」、木精、「アセトン」、「ベンゾール」、「キシロール」、「トルオール」、「テレビン」油、硝化纖維素、「セルロイド」、石油類其ノ他之ニ類スル引火性又ハ發火性物品ノ製造

ハ　硫黄、沃度、「ブローム」、四鹽化炭素、鹽化硫黄、鹽酸、硫酸、硝酸、燐酸、弗化水素、醋酸、無水醋酸、石炭酸、安息香酸、苛性加里、苛性曹達、「アムモニア」水、炭酸加里、炭酸曹達、「クロール」石灰、次硝酸蒼鉛、「テアン」化合物、砒素化合物、「バリウム」化合物、水銀化合物、鉛化合物、銅化合物、亞硫酸鹽類、「フォルマリン」、「クロロホルム」、「イヒチオール」、「ズルフォナール」、「グリセリン」、「アンチフエブリン」、「アスピリン」、「クレオソート」、「アヤコール」等其ノ製造ニ際シ有臭又ハ有害ノ瓦斯又ハ廢液ヲ生スル物品ノ製造

ニ　水銀ヲ用ヰル計器ノ製造

ホ　燐寸ノ製造

ヘ　金屬ノ熔融又ハ精煉

ト　乾燥油又ハ溶劑ヲ用ヰル擬革紙布又ハ防水紙布ノ製造

チ　肥料ノ製造

リ　動物質原料ノ化製

ヌ　製革又ハ毛皮ノ精製

ル　骨、角又ハ貝殻ノ乾燥研磨

ヲ　製油、又ハ製蠟

ワ　染料、顔料又ハ塗料ノ製造

カ　煉瓦又ハ坩堝ノ製造

ヨ　「アスファルト」ノ製造

タ　「セメント」、石膏、石灰、焼製石灰

レ　炭化石灰又ハ石灰窒素ノ製造

ソ　古綿又ハ襤褸類ノ精製

ツ　礦石類、黒鉛、硝子、煉瓦、陶磁器等ノ粉砕

ネ　石炭瓦斯又ハ壓縮瓦斯ノ製造

ナ　「コークス」ノ製造

ラ　石炭「タール」、木「タール」、石油蒸餾産物又ハ其ノ殘渣ヲ原料トスル製造

ム　石瞼ノ製造

ウ　製紙

ヰ　浴劑ヲ用ヰル護謨製品ノ製造

ノ　鋼釘又ハ鋼球ノ製造

オ　汽罐ノ製造

ク　金屬ノ壓延又ハ伸線

ヤ　炭素製品ノ製造

三　前號ニ掲クルモノヲ除クノ外行政官廳衛生上有害ノ又ハ保安上危險ノ虞アリト認メ命令ヲ以テ指定スル事業ヲ營ム工場

四　第二號イ、ロ、ホ、リ及レノ物品ノ貯藏又ハ處理ニ供スルモノ但シ行政官廳衛生上有害ノ又ハ保安上危險ノ虞ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

五　前號ニ掲クルモノヲ除クノ外行政官廳衛生上有害ノ又ハ安保上危險ノ虞アリト認メ命令ヲ以テ指定スル物品ノ貯藏又ハ處理ニ供スルモノ

第四條　建築物ノ高ハ住居地域内ニ於テハ六十五尺ヲ住居地域外ニ於テハ百尺ヲ超過スルコトヲ得ス但シ建築物ノ周圍ニ廣濶ナル公園、廣場、道路其ノ他ノ空地アル場合ニ於テ行政官廳交通上、衛生上及

保安上支障ナシト認ムルトキハ此限ニ在ラス

第五條　煉瓦造建築物及石造建築物ハ高六十五尺軒高五十尺ヲ、木造建築物ハ高五十尺軒高三十八尺階數三ヲ、木骨煉瓦造建築物及木骨石造建築物ハ高三十六尺軒高二十六尺ヲ超過スルコトヲ得ス

前項ノ石造ニハ人造石造及「コンクリート」造ヲ、木造ニハ土藏造ヲ包含ス

第一項ノ木骨煉瓦造建築物トハ厚三寸以上ノ練瓦積ヲ以テ木骨ヲ被覆又ハ塡充シテ外壁ヲ構成スルモノヲ謂ヒ木骨石造建築物トハ厚三寸以上ノ石、人造石又ハ「コンクリート」ヲ以テ木骨ヲ被覆又ハ塡充シテ外壁ヲ構成スルモノヲ謂フ

一建築物ニシテ外壁二種以上ノ構造ヨリ成ルモノニ付テハ第一項ノ規定ノ適用ニ關シ制限ノ最嚴ナルモノニ依ル

第一項ノ階數ニハ屋階及地階ヲ包含セス

第六條　前二條ニ規定スル建築物ノ高トハ地盤面ヨリ建築物ノ最高部迄ノ高ヲ謂フ

前條第一項ノ軒高トハ地盤面ヨリ建築物ノ外壁ト端迄ノ高、外壁上端ニ扶欄、扶壁又ハ軒蛇腹アルトキハ其ノ最高部ノ高出軒ノ場合ニハ軒桁上端迄ノ高ヲ謂フ但シ切妻ノ部分ハ軒高ニ之ヲ算入セス

前二項ノ地盤面ニ高低アルトキハ行政官廳其ノ地盤面ヲ認定ス

第七條　建築物各部分ノ高ハ其ノ部分ヨリ建築物ノ敷地ノ前面道路ノ對側境界線迄ノ水平距離ノ一倍四分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス但其ノ前面道路幅員ノ一倍四分ノ一ニ二十五尺ヲ加ヘタルモノヲ限度トス但シ住居地域外ニ在ル建築物ニ付テハ一倍四分ノ一ヲ一倍二分ノ一トス

前項ノ高トハ前面道路ノ中央ヨリノ高ヲ謂フ

第八條　建築物ノ敷地カ幅員同シカラサル二以上ノ道路ニ接スル場合ニ於テ一ノ道路境界線迄ノ水平距離カ其ノ道路幅員ノ一倍二分ノ一以内ニシテ且八十尺以内ノ區域ノ内ニ在ル建築物各部分ノ高ニ付テハ前條ノ規定ノ適用ニ關シ其ノ道路ヲ前面道路ト看做ス

前項ノ規定ニ依ル前面道路二以上アル場合ニ於テ其ノ幅員同シカラサルトキハ幅員小ナル前面道路ハ幅員最大ナル前面道路ト同一ノ幅員ヲ有スルモノト看做ス

第一項ノ場合ニ於テ同項ニ規定スル區域ノ外ニ在ル建築物各部分ニ付テハ幅員最大ナル道路ヲ前面道路ト看做ス

第九條　道路境界線カ建築線ト一致セサル場合ニ於テハ道路境界線又ハ道路幅員ニ關スル前二條ノ規定ノ適用ニ關シ建築線ヲ其ノ道路境界線ト看做ス

第十條　建築物ノ敷地左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ前三條ノ規定ニ拘ラス行政官廳別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

一　公園、廣場、河、海ノ類ニ接スルトキ

二　前面道路ノ對側ニ公園、廣場、河、海ノ類アルトキ

三　其ノ地盤面ト前面道路ノ路面トノ高低ノ差著シキトキ

四　高低ノ差著シキ二以上ノ道路ニ接スルトキ

五　道路ノ終端ニ位スルトキ

第十一條　行政官廳ハ命令ヲ以テ特ニ道路ヲ指定シ之ニ面スル建築物ノ高ノ最低限度ヲ定ムルコトヲ得

第十二條　煙突、棟飾、避雷針、旗竿、風見竿等建築物ノ屋上ニ突出スルモノノ高ハ建築物ノ高ニ之ヲ算入セス

裝飾塔、物見塔、屋窓、昇降機塔、水槽等建築物ノ屋上突出部ノ高ハ行政官廳命令ノ定ムル所ニ依リ建築物ノ高ニ之ヲ算入セサルコトヲ得

第十三條 本令中高ニ關スル規定ハ煙突、物見塔、扛重機、水槽、氣槽、無線電信用電柱ノ類及工業用建築物ニシテ行政官廳其ノ用途ニ依リ已ムヲ得スト認メ許可シタルモノニ付之ヲ適用ス

本令中高ニ關スル規定ハ社寺建築物ニシテ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルモノニ付之ヲ適用セス

第十四條 建築物ノ建築面積ハ建築物ノ敷地ノ面積ニ對シ住居地域内ニ於テハ十分ノ六、商業地域内ニ於テハ十分ノ八、住居地域及商業地域外ニ於テハ十分ノ七ヲ超過スルコトヲ得ス但シ商業地域内ニ於テ行政官廳特ニ指定シタル角地其他ノ地區ニ於ケル建築物ノ第一階及地階ニ付テハ此限ニ在ラス

主トシテ住居ノ用ニ供スル建築物ハ住居地域外ニ在ルモノト雖前項ノ規定ノ適用ニ關シ住居地域内ニ在ルモノト看做ス

第十五條 前條第一項ノ建築面積ト ハ建築物ノ水平斷面ニ於ケル外壁ノ又ハ之ニ代ルヘキ柱ノ中心線内面積中最大ナルモノヲ謂フ但シ地階ニシテ其ノ外壁ノ高地盤面上六尺以下ノモノノ部分ノ面積ハ之ヲ建築面積ト看做サス

軒、庇、桔出樣ノ類カ前項ノ中心線ヨリ突出スルコト三尺ヲ超ユル場合ニ於テハ其ノ外端ヨリ三尺ヲ後退スル線ヲ以テ前項ノ中心線ト看做ス

前條第一項ノ建築物ノ敷地ノ面積トハ建築物ノ敷地ノ水平斷面ノ面積中最大ナルモノヲ謂フ

第十六條 第七條、第八條、第十條、第十四條、前條及第十七條ノ建築物ノ敷地トハ一棟ノ建築物ニ屬スル一團ノ土地ヲ謂フ

第十七條 市街地建築物法第十八條第二項ノ規定ニ依リ損失ヲ補償スヘキ場合ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ限ル

一 地域ノ又ハ工業地域内特別地區ノ指定又ハ變更ニ基キ建築物ノ使用禁止又ハ建築物主要構造部ノ除却ヲ命シタル場合

二 美觀地區ノ指定又ハ變更ニ基キ建築物主要構造部ノ除却ヲ命シタル場合

三 建築線ノ指定又ハ變更ニ基キ建築物ノ主要構造部ノ除却ヲ命シタル場合

四 建築線ニ面スル建築物ノ壁面ノ位置ノ指定ニ基キ建築物主要構造部ノ變更又ハ除却ヲ命シタル場合

五 建築物ノ高又ハ建築物ノ敷地内ニ存セシムヘキ空地ニ關スル規定ニ基キ建築物主要構造部ノ除却ヲ命シタル場合

第十八條 市街地建築物法第十八條第二項ノ規定ニ依リ補償スヘキ損失ハ通常生スヘキ損失ニ限ル

第十九條 前二條ノ規定ニ依ル損失補償ノ請求ハ市街地建築物法第十八條第一項ノ措置ヲ命セラレタル者之ヲ命セラレタル日ヨリ起算シ三月内ニ之ヲ爲スコトヲ得

第二十條 市街地建築物法第十八條第二項ノ公共團體トハ同法第二十三條ノ規定ニ依ル同法適用區域ノ屬スル市區町村トス

第二十一條 補償義務ノ有無及補償ノ金額ハ補償審査會之ヲ裁定ス

第二十二條 補償審査會ハ第二十條ニ規定スル市街地建築物法第十八條第二項ノ公共團體毎ニ之ヲ置ク

補償審査會ハ會長一人及委員十二人ヲ以テ之ヲ組織ス

第二十三條 會長ハ地方長官ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ左ニ掲グル者ヲ以テ之ニ充ツ

一 關係各廳高等官　四人

二 前條第一項ノ公共團體ノ吏員二人

三 前號ノ公共團體ノ議會ノ議員四人

四 學識經驗アル者　二人

前項第一號、第二號及第四號ノ委員ハ主務大臣之ヲ命シ第三號ノ委員ハ其ノ議會ニ於テ之ヲ選擧ス

第二十四條 補償審査會ニ關シテハ土地收用法第二十七條乃至第三十一條、第三十七條、第三十九條、第四十條第一項、第二項、第四十二條乃至第四十五條、第六十九條、第七十二條及第八十三條ノ規定ヲ準用ス

第二十二條第一項ノ公共團體ノ二以上ニ亙ル建築物ニ關シテハ關係補償審査會合同シテ會議ヲ開クヘシ

第二十五條 市街地建築物法第十八條ノ規定ハ建築工事中ノ建築物及建築工事ニ著手セサルモ設計アル建築物ニ之ヲ準用ス

第二十六條 行政官廳ハ建築工事中ノ建築物又ハ建築工事ニ著手セサルモ設計アル建築物ニシテ其ノ建築竣成ノ後ニ於テ市街地建築物法第十八條第一項ノ規定ニ依ル措置ヲ命スル必要ナシト認ムルモノニ付テハ其ノ建築ヲ許可スルコトヲ得

第二十七條 市街地建築物法ハ古社寺保存法又ハ史蹟名勝天然紀念物保存法ノ適用又ハ準用ヲ受クル建築物ニ付之ヲ適用セス

第二十八條 鳥居、形像、紀念門、紀念塔其ノ他ノ建築物ニシテ道路ヲ占用シテ施設スルモノニ對シテハ市街地建築物法第八條、第九條及第十一條ノ規定ヲ適用セス

第二十九條 博覽會建築物、觀覽場、飾門飾塔、足代及棧橋ノ類ニシテ假設的ノモノニ對シテハ市街地建築物法第二條乃至第六條、第九條及第十一條ノ規定ヲ適用セサルコトヲ得

第三十條 市街地建築物法第二十六條第一項ノ道路ノ新設又ハ變更ノ計畫アル場合ニ於テ行政廳其ノ計畫ヲ告示シタルトキハ其ノ計畫ノ道路ハ之ヲ道路ト看做ス

附　則

本令ハ市街地建築物法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

明治三十三年三月七日公布法律

第二十九號土地收用法抄錄

第二十七條 收用審査會ハ開會ノ日ヨリ一週間内ニ裁決ヲ爲スヘシ但シ地方長官ハ必要ト認ムルトキハ二週間内ノ延期ヲ爲スコトヲ得

第二十八條 收用審査會カ前條ノ期間内ニ裁決ヲ爲ササルトキハ地方長官ハ事情ヲ具シ内務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ内務大臣ハ收用審査會ニ一定ノ期間内ニ裁決ヲ爲スヘキコトヲ命シ又ハ之ニ代テ裁決ヲ爲スヘキコトヲ地方長官ニ命スルコトヲ得

收用審査會カ前項ノ期間内ニ裁決ヲ爲ササルトキハ地方長官ハ之ニ代テ裁決ヲ爲スヘシ

第二十九條 收用審査會カ招集ニ應セス又ハ成立セサルトキハ地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ之ニ代テ裁決ヲ爲スコトヲ得事業ノ急施ヲ要スルトキ亦同シ

第三十條 收用審査會カ裁決ヲ爲シタルトキハ其ノ裁決書ノ謄本ヲ添ヘ地方長官ニ

報告スヘシ

第三十一條 前條ノ報告ヲ受ケ又ハ收用審査會ニ代ツテ裁決ヲ爲タルトキハ地方長官ハ裁決書ノ謄本ヲ起業者、土地所有者及關係人ニ送達スヘシ

第三十七條 會長ハ地方長官ヲ以テ之ニ充ツ議事其ノ他ノ會務ヲ統理シ會ヲ代表ス

第三十九條 收用審査會ハ委員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス收用審査會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第四十條 委員カ起業者、土地所有者又ハ關係人ナルトキハ收用審査會ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス

委員カ起業者、土地所有者若ハ關係人ノ配偶者、四親等內ノ親族、戶主、家族、代理人及保佐人ナルトキ又ハ起業者、土地所有者若ハ關係人タル市町村ノ市參事會員、町村長、合名會社ノ社員、合資會社及株式合資會社ノ無限責任社員、株式會社ノ取締役及監査役其ノ他法人ノ理事及監事ナルトキ亦前項ニ同シ、本條ノ規定ニ依リ委員ノ數減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ地方長官ハ左ニ揭ケタル順序ニ從ヒ其ノ本條ノ規定ニ抵觸セサル者ノ內ヨリ臨時ニ指名シテ之ヲ補充スヘシ

一 府縣名譽職參事會員

二 府縣名譽職參事會員ノ補充員

三 府縣會議員

第四十二條 收用審査會ハ必要ト認ムルトキハ鑑定人ヲ選ヒ其ノ意見ヲ聽クコトヲ得

前項ノ鑑定人ニ付テハ第四十條ノ規定ヲ準用ス

第四十三條 收用審査會ハ必要ト認ムルトキハ起業者、土地所有者又ハ關係人ヲ呼出シ其ノ意見ヲ聽クコトヲ得

收用審査會ハ事實參考ノ爲必要ト認ムルトキハ收用又ハ使用スヘキ土地以外ノ土地所有者ヲ呼出シ其ノ供述ヲ聽クコトヲ得

第四十四條 裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ會長宛ニ署名捺印スヘシ

裁決書ノ謄本ニハ會ノ印章ヲ押捺スヘシ

第四十五條 鑑定人及事實參考人ハ旅費及手當ヲ請求スルコトヲ得

第六十九條 收用審査會ニ要シタル費用ハ命令ヲ以テ別ニ負擔者ヲ定メタルモノヲ除クノ外府縣ノ負擔トス第五十九條ノ場合ニ要シタル費用ニ付テ亦同シ

第七十二條 收用審査會カ其ノ權限ヲ越エ又ハ法令ノ規定ニ違反シテ爲シタル裁決ハ內務大臣之ヲ取消スコトヲ得

第八十三條 本法ノ規定ニ依ル訴願訴訟ハ事業ノ進行及土地ノ收用又ハ使用ヲ停止セス

大正八年四月五日公布法律第三十七號

市街地建築物法抄錄

第二條 建築物ニシテ住居ノ安寧ヲ害スル虞アル用途ニ供スルモノハ住居地域內ニ之ヲ建築スルコトヲ得ス

第三條 建築物ニシテ商業ノ利便ヲ害スル虞アル用途ニ供スルモノハ商業地域內ニ之ヲ建築スルコトヲ得ス

第四條 工場、倉庫其ノ他之ニ準スヘキ建築物ニシテ規模大ナルモノ又ハ衛生上有害若ハ保安上危險ノ虞アル用途ニ供スルモノハ工業地域內ニ非サレハ之ヲ建築スルコトヲ得ス

主務大臣必要ト認ムルトキハ前項ノ建築物ニシテ著シク衛生上有害又ハ保安上危

險ノ虞アル用途ニ供スルモノニ付テハ工業地域内ニ於テ其ノ建築ニ付特別地區ヲ指定スルコトヲ得

第五條 前三條ニ規定スル建築物ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 前四條ノ規定ノ適用ニ付テハ新ニ建築物ノ用途ヲ定メ又ハ建築物ヲ他ノ用途ニ供スルトキハ其ノ用途ニ供スル建築物ヲ建築スルモノト看做ス

第九條 建築物ハ建築線ヨリ突出セシムルコトヲ得ス但シ建築線カ道路幅ノ境界線ヨリ後退シテ指定セラレタルモノナルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ建築物ノ前面突出部又ハ基礎ハ道路幅ノ境界線ヲ越エサル範圍内ニ於テ建築線ヨリ之ヲ突出セシムルコトヲ得

第十一條 建築物ヲ建築スル場合ニ於ケル其高又ハ其ノ敷地内ニ存セシムヘキ空地ニ關シテハ地方ノ狀況、地域及地區ノ種別、土地ノ情態、建築物ノ構造、前面道路ノ幅員等ヲ參酌シ勅令ヲ以テ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第十八條 本法適用區域ノ設定若ハ變更、地域若ハ地區ノ指定若ハ變更其ノ他ノ場合ニ於テ從來存在スル建築物カ其ノ後新ニ建築セラレタリトセハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反スヘキモノナルトキハ行政官廳ハ相當ノ期間ヲ指定シ其ノ建築物ニ付前條ニ揭クル必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル措置ヲ命スルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ建築物所在地ノ公共團體ヲシテ損失ヲ補償セシム

前項ノ規定ニ依リ補償ヲ受クヘキ者補償金額ニ付不服アルトキハ其ノ金額決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ス

第二十三條 本法適用ノ區域ハ勅令ヲ以テ指定スル市、區其ノ他ノ市街地トス

特別ノ必要アル場合ニ於テハ勅令ヲ以テ其ノ定ムル所ニ依リ前項ノ市街地ノ外ニ亙リ本法適用ノ區域ヲ定ムルコトヲ得

第二十六條第一項

本法ニ於テ道路ト稱スルハ幅員九尺以上ノモノヲ謂フ

役員及職員

理事長　片岡安（主記）
理事　宗兵藏（編輯）　池田寅二郎（編輯）　葛野壯一郎（編輯）　吉井長七（編輯）　舟橋喜一（主計）
編輯補　設樂貞雄　波江悌夫　佐藤四郎
書記　越村邨　江山達繁　波江島壽夫　山崎萬吉

會員	一八四	會員（地方）	五五
名譽賛助員	七一	終身賛助員	四四
特別賛助員	一一	普通賛助員	二九五
合計	六六〇		

本誌及廣告料定價表

本誌	冊數	定價	郵稅
	一冊	金五拾錢	貳錢
	十二冊	六圓	貳拾四錢

廣告料	種別	金額
	半頁	八圓
	一頁	拾五圓
特別頁モ料金一定シアリ御照會アリ度シ		

大正九年十月三十日印刷（毎月壹回）
大正九年十一月一日發行（一日發行）

大阪市大阪市外中津町下三番一九八番地ノ一
發行兼編輯人　江村恒一

大阪市東區內淡路町地二丁目卅二番
印刷兼印刷人　大阪活版所

大阪市西區京町堀上通一丁目不動貯金銀行ビルデインク內
事務所　日本建築協會
電話　土佐堀四、二三九番
振替口座大阪三九、九七五

大阪市東區今橋一丁目二番地
發行所　片岡建築事務所內

大阪市西區京町堀羽子板橋北
特約販賣店　柳々堂書店
電話（土佐堀二四四〇番）
振替口座二〇八四番